プロファイル管理 2206

Profile Managementは、Citrix Virtual Appsサーバー、Citrix Virtual Desktops™で作成された仮想デスクトップ、および物理デスクトップ向けのプロファイルソリューションとして意図されています。プロファイルを管理したい各コンピューターにProfile Managementをインストールします。

Active Directoryグループポリシーオブジェクトを使用すると、Citrix®ユーザープロファイルの動作を制御できます。多くの設定を調整できますが、一般的には、これらのトピックで説明されているように、一部の設定のみを構成すれば十分です。

展開に適した適切なポリシー選択セットを選択する最良の方法は、構成の決定の記事の質問に答えることです。

Profile Managementの利用権はEULAに記載されています。

これらのトピックで使用されている用語については、用語集を参照してください。

新機能

修正された問題

Profile Management 2206では、Profile Management 2203 LTSRと比較して、以下の問題が修正されています。

- レプリケートされたユーザー ストア内のプロファイルをリセットできません。
- CTXCDFのエラーが原因で、Windows Management Instrumentation Provider Service (WMIPRVSE.exe)が停止し、WindowsイベントログにイベントID 5612が生成されることがあります。
- Profile Managementが有効な公開デスクトップでEdge Chromiumを起動すると、再ログオン後に重複するプロファイルが作成されることがあります。この問題は、ログオフ時にProfile Managementがローカルプロファイルの削除に失敗するために発生します。
- Workspace Environment Management™コンソールで、Profile Managementの正常性ステータスに誤ったエラーメッセージが表示されることがあります。
- Citrix Profile Managementサービス (UserProfileManager.exe)が予期せず終了することがあります。
- Citrix Directorの監視タブのセッションの詳細で、ログオンデータがキャプチャされないことがあります。その結果、このデータはCitrix Analytics for Performance™でも利用できないことがあります。

既知の問題

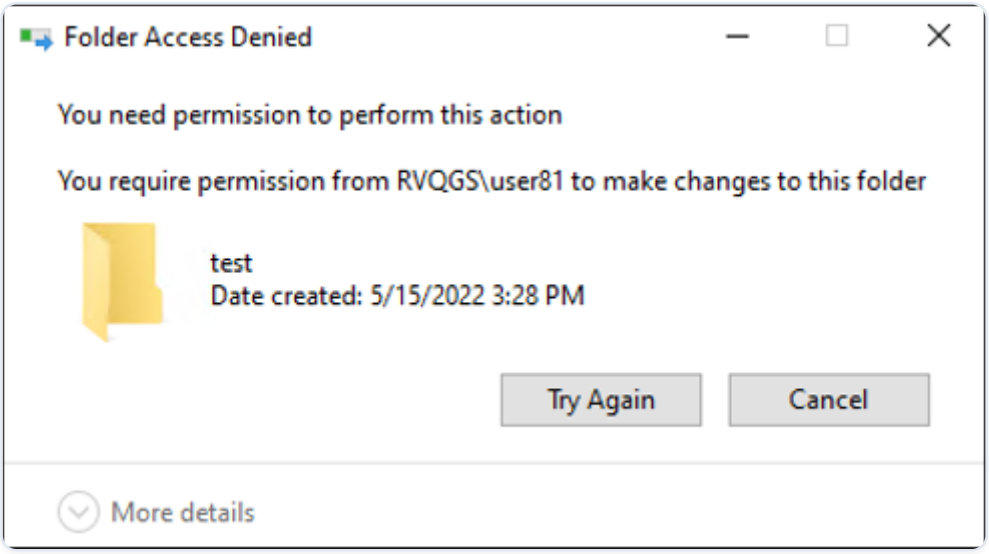
このリリースには、以下の既知の問題があります。

- フルプロファイルコンテナまたはOneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーがマシンにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
    - ユーザーがコンテナを有効にする前にOneDriveフォルダを使用していた場合、および
    - コンテナが有効になった後、ユーザーが初めてマシンにログオンした場合。



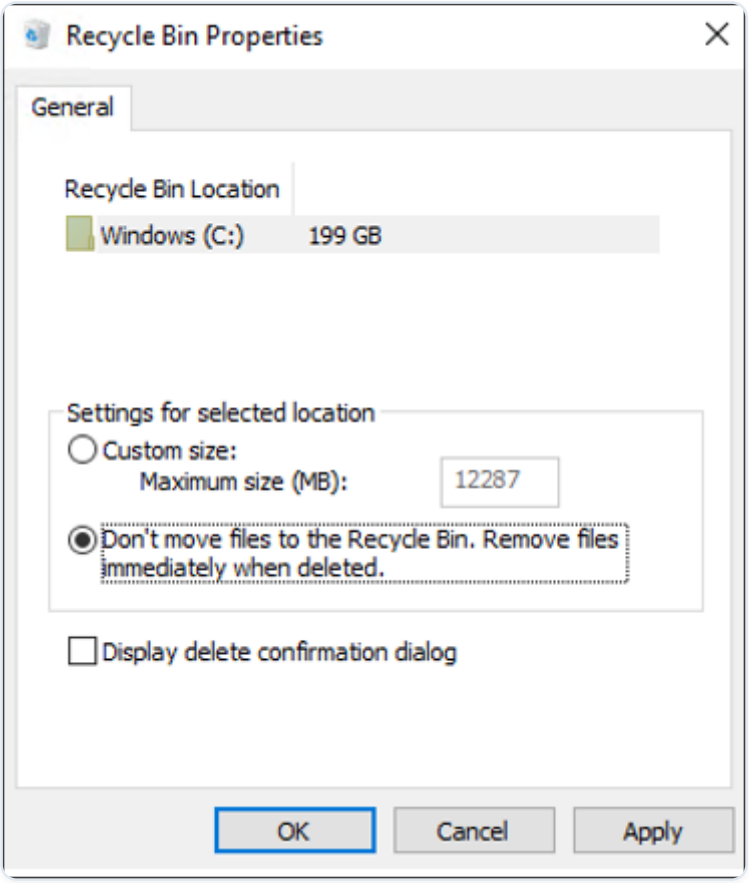
この問題を解決するには、**再試行**をクリックします。OneDriveフォルダはコンテナに正常に移行されます。

- 以下の状況でユーザーがフォルダをゴミ箱に移動すると、「フォルダアクセス拒否」というメッセージが表示されます。
  - 部分プロファイルコンテナまたはOneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーがいずれかのコンテナからフォルダを削除しようとすると。
  - フルプロファイルコンテナが有効になっている場合、ユーザーがユーザープロファイルフォルダにはないが、プロファイルと同じディスク上にあるフォルダを削除しようとすると。



この問題を回避するには、代わりに完全に削除を実行します。

- フォルダを選択し、**Shift + Delete**を押して完全に削除します。
- **ごみ箱のプロパティ**を**ファイルをゴミ箱に移動しない。削除時にファイルを直ちに削除する。**に設定します。



- VDAのインストール後、マシンの再起動を求められます。しかし、マシンの再起動後、Profile Managementサービスが起動しない場合があります。この問題が発生すると、システムイベントログにイベント7000に関する次のメッセージが表示されます。「ctxProfileサービスは、次のエラーが原因で起動できませんでした: サービスは、開始または制御要求に時間内に応答しませんでした。」回避策として、次のレジストリキーの値をより大きな数値（例: 300,000）に変更してください。
  - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\
  - 名前: ServicesPipeTimeout
  - 種類: REG_DWORD
  - 値: 300000
- スタートメニューの一部が正しく表示されない場合があります。この問題を回避するには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

サードパーティ通知

Profile Management の現在のリリースには、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Profile Management サードパーティ通知

クイックスタートガイド

この記事では、Profile Management のインストールと構成に関するクイックリファレンスを提供します。

前提条件

すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

Profile Management のインストール

Profile Management は、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストールに含まれています。VDA の場合、Profile Management をインストールまたはアップグレードするには、VDA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするだけです。

Profile Management の展開は、.msi ファイルと、.adm または .admx ファイルのいずれかをインストールすることで構成されます。ファイルをインストールするには、「インストールとセットアップ」の手順に従ってください。

> **注:**
>
> 潜在的な競合を避けるため、Citrix Profile Management プロセス (`%ProgramFiles%\Citrix\User Profile Manager\UserProfileManager.exe`) をアンチウイルスソフトウェアの除外リストに追加してください。詳細については、「Citrix Antivirus Best Practices」を参照してください。

Profile Management を集中管理で構成する場所を決定する

Profile Management を集中管理で構成する方法は3つあります。以下のいずれかの方法を選択してください。

- Active Directory で GPO を使用する
- Citrix Studio でポリシーを使用する

- ワークスペース・エンバイロメント・マネジメント™ (WEM) を使用する

  Active Directory で GPO を使用して Profile Management を構成する手順については、Knowledge Center の記事「CTX222893」を参照してください。

  Citrix Studioでポリシーを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。

  WEMを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

Profile Managementを構成する

基本設定の構成

1. ユーザー ストアを作成する

   ファイル共有の作成やフォルダー権限の設定など、安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoftの記事Deploying Roaming User Profilesで確認できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作において高レベルのセキュリティを確保します。

2. ユーザー ストアへのパスを指定する
3. Profile Managementを有効にする
4. 基本設定を確認する

   基本設定を確認するには、次の手順を実行します。

   a. Citrix Studioで、**Enable logging**、**Logon**、**Logoff**の各ポリシーを**Enabled**に設定します。

   b. VDAにログオンし、`gpupdate /force`を管理者として実行します。

   c. VDAからログオフし、再度ログオンします。

   d. デフォルトのログファイルパス`C:\Windows\System32\Logfiles\UserProfileManager`に移動し、`pm.log`ファイルを開き、ログオンイベントを探して、次のメッセージが存在することを確認します。

   ```
   Starting logon processing…

   Finished logon processing successfully in [s]:
   ```

Profile Management構成の計画

1. Profile Managementの展開を計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。ユーザープロファイルの**自動構成**機能は、Citrix仮想アプリおよびデスクトップの展開における意思決定の一部を簡素化します。

   展開に推奨されるアプローチを決定するには、環境に関する次の基本的な質問に答えてください。

   - パイロットまたは本番
   - プロファイルの移行または作成
   - 永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有
   - モバイルまたは静的
   - 使用中のアプリケーション

2. それに応じてProfile Managementを構成するには、以下を実行します。

   - ユーザープロファイルをストリーム配信します。ユーザープロファイルのストリーム配信を参照してください。
   - アクティブな書き戻しを有効にします。アクティブな書き戻しの構成を参照してください。
   - 必須プロファイルを指定します。テンプレートまたは必須プロファイルの指定を参照してください。
   - 除外を構成します。項目の包含と除外を参照してください。
   - フォルダーリダイレクトを構成します。フォルダーリダイレクトの構成を参照してください。
   - アプリケーションを構成します。ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化を参照してください。

3. Profile Managementの設定を確認します。

   a. この記事で前述したように、基本設定を確認します。

   b. ポリシー設定については、`pm_configure.log` ファイルを確認してください。次のメッセージが存在することを確認してください。

   ```
   Configuration value read from Policy: LoggingEnabled=

   Configuration value read from INI file: CEIPEnabled=
   ```

```
Configuration value PSAlwaysCache set neither in policy nor in INI
file. Defaulting to:
```

トラブルシューティング

詳細については、トラブルシューティングを参照してください。

プロファイル管理の仕組み

プロファイル管理は、同じユーザーによる同時ドメインログオンがプロファイルに複雑さと一貫性の問題を引き起こす環境において、ユーザープロファイルの欠点を解決します。例えば、ユーザーがローミングプロファイルに基づいて2つの異なる仮想リソースへのセッションを開始した場合、最後に終了したセッションのプロファイルが最初のセッションのプロファイルを上書きします。この「最後の書き込みが優先される (last write wins)」として知られる問題は、ユーザーが最初のセッションで行ったパーソナライズ設定を破棄します。

各リソースサイロに個別のプロファイルを使用することで、この問題に対処できます。しかし、このアプローチでは、管理オーバーヘッドとストレージ容量の要件が増加します。もう1つの欠点は、ユーザーがアクセスするリソースサイロによって異なる設定を経験することです。

プロファイル管理は、プロファイルを簡単かつ信頼性の高い方法で最適化します。中間段階およびログオフ時に、レジストリの変更とプロファイル内のファイルおよびフォルダーは、各ユーザーのユーザー ストアに保存されます。一般的ですが、ファイルが存在する場合、以前のタイムスタンプを持つ場合は上書きされます。

ログオン時に、ユーザーのレジストリエントリとファイルはユーザー ストアからコピーされます。ローカルにキャッシュされたプロファイルが存在する場合、2つのセットは同期されます。その結果、すべてのアプリケーションとサイロのすべての設定がセッション中に利用可能になります。そして、各サイロに個別のユーザープロファイルを維持する必要はなくなります。Citrix® ストリーミングユーザープロファイルは、ログオン時間をさらに向上させることができます。

プロファイル管理は、ネットワーク障害を経験するモバイルユーザー（オフラインプロファイル機能が構成されている場合）や、異なるオペレーティングシステムからリソースにアクセスするユーザー（クロスプラットフォーム設定機能が構成されている場合）のアプリケーション設定を保護するのに役立ちます。

注: プロファイル管理は、ローカルアカウントではなく、ドメインユーザーのログオンを処理します。

ネットワークベースのプロファイルが使用されている場合、組織でプロファイル管理の導入を検討してください。強制プロファイルやローミングプロファイルなどの他のソリューションを実装し、Microsoft Windowsの標準的な知識でそれらを維持することもできます。ただし、展開が制限

されている場合（例えば、ユーザーのカスタマイズが制限されているため強制プロファイルが適切なコールセンターなど）を除き、プロファイル管理が推奨される場合があります。

Citrixはフォルダーリダイレクトの使用を推奨しています。これにより、ユーザー固有のデータがプロファイルとは別に保存されます。

ホームフォルダーとテンプレートのパスは、ネットワークの場所のみで構成する必要があります。

プロファイルについて

プロファイルを割り当てる

Windowsでユーザーにプロファイルを割り当てる方法?

この記事は、Citrix Profile Managementではなく、Microsoft Windowsにおけるプロファイルの割り当てについて説明しています。

ユーザーにプロファイルを割り当てるには、いくつかの方法があります。

- Active Directory (AD) のユーザーアカウントプロパティを使用する
- グループポリシー (GP) を使用する
- 上記の方法を使用して、Remote Desktop Services (旧称 Terminal Services) セッションに固有のプロファイルを割り当てる

これらの方法の一部は、特定のオペレーティングシステムでのみ利用可能です。

- **Remote Desktop Services**。Windows Server 2008 R2 で Remote Desktop Services プロファイルを割り当てるには、GPO 設定「Set path for Remote Desktop Services Roaming User Profile」を使用します。これは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Component\\Remote Desktop Services\\Remote Desktop Session Host\\Profiles」にあります。以前のマルチセッションオペレーティングシステムでは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Components\\Terminal Services」にある設定「Set path for TS Roaming Profiles」を使用します。

  個々のユーザーのプロファイルを構成するには、AD のユーザーアカウントプロパティページで個々のアカウントに「Set path for TS Roaming Profiles」を設定することもできます。ただし、通常、この割り当てはGPで行う方がはるかに優れています。

  ターミナルサーバーで「Use mandatory profiles」設定を使用して、強制プロファイルの使用を強制できます。

- **Windows 7、Windows 8、および Windows Server**: ユーザーアカウントプロパティページを使用して、個々のアカウントに移動プロファイルを設定します。また、Windows Server 2008 AD および Windows 7 デバイスの場合、GPO 設定「Set roaming profile path for all users logging on to this computer」を使用できます。これは、「Computer\\Administrative Templates\\System\\User Profiles」にあります。Windows 8 または Windows Server 2012 コンピューターにログオンするユーザーの場合、Windows Server 2012 の Active Directory を使用してユーザーのホームフォルダーを設定することもできます。

複数の方法が使用されている場合、ドメインユーザーにプロファイルを配信するための優先順位?

Profile Management を使用してユーザーのプロファイルを管理する場合、他のどのプロファイル割り当て方法よりも優先されます。Profile Management によってプロファイルデータが管理されていないユーザーには、複数の方法を使用してプロファイルが割り当てられる場合があります。実際に使用されるプロファイルは、次の優先順位に基づいています。

1. Citrix ユーザープロファイル (つまり、Profile Management によって作成されたプロファイル)
2. GPOによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
3. ユーザープロパティによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
4. GPOによって割り当てられた移動プロファイル (Windows Server 2008 AD および Windows 7 のみ)
5. ユーザープロパティによって割り当てられた移動プロファイル

Profile Managementのアーキテクチャ

この記事では、ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアのフォルダー構造について説明します。ユーザー ストアはCitrix®ユーザー プロファイルの中央の場所です。クロスプラットフォーム設定ストアは別の場所です。

Profile Managementストアに関する重要な情報

ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアの構造は、情報提供とローカライズおよびトラブルシューティングを支援する目的でここに記載されています。プロファイル データに関する問題を最小限に抑え、セキュリティを維持するために設計された、以下の重要な推奨事項に従ってください。

- どちらのストアの構造も変更しないでください。
- ストアのいかなる部分にも、ファイルやフォルダーを直接書き込まないでください。ユーザーストアは、この点でリダイレクトされたフォルダーとは異なります。

- ユーザー ストアは、リダイレクトされたフォルダーとは別に保管してください。たとえば、`\\server1\profiles\%username%`と`\\server1\folders\%username%`のように、同じファイル サーバーまたはDFS名前空間の分離された共有に保管できます。この手法により、バージョン1とバージョン2のプロファイルを一緒にサポートし、両方のプロファイル バージョンで共有される単一のリダイレクトされたフォルダーのセットをサポートすることがはるかに容易になります。
- ユーザーはユーザー ストアを見る必要がないため、ドライブ文字を割り当てないでください。
- ユーザー ストアにクォータを課さないでください。プロファイル サイズを制限する場合は、クォータを使用するのではなく、項目を除外することを検討してください。

ユーザー ストアのフォルダー構造

ユーザー ストアは、デフォルトでユーザーのホーム ディレクトリにある**WINDOWS**フォルダーになります。これにより、パイロット インストールが簡素化されますが、本番システムでは、ユーザー ストアをネットワーク共有、または（最高の拡張性のために）DFS名前空間として構成してください。エンタープライズ対応のユーザー ストアのサポートされる構成については、「Profile Managementでの高可用性と災害復旧」で説明されています。

安全なユーザー ストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「ローミング ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザー プロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

注：Windows 7およびWindows 2008 R2クライアント デバイスでは、Windows 2012 R2ファイル サーバーで共有を作成する際に、**データ アクセスの暗号化**チェック ボックスを選択しないでください。

ルート レベルのユーザー ストアのフォルダー構造を次の表に示します。

フォルダ	注
	ユーザー ストア内のプロファイルのルート。
`\UPM_Profile`	このフォルダーには、プロファイルからのファイルとフォルダーが含まれています。
`\UPM_Drive_C`	このフォルダーには、プロファイル外から含まれる項目（この場合はドライブ C から）が含まれています。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時

フォルダ	注
	に存在します。Profile Management 5.0 では、プロファイル外の項目を管理することはサポートされていません。
`\Pending`	このフォルダーには、ロック ファイル、保留中のファイル、およびストリーミング機能が使用されている場合はスタンプ ファイルが含まれています。

いくつかの例をこの表に示します。

フォルダー名の例	注
`\UPM_Profile\Data`	ユーザープロファイル内の **Data** フォルダーの同期されたコンテンツ。
`\UPM_Profile\AppData_upm_var`	ユーザープロファイル内の非ローカライズされたアプリケーションデータフォルダーの同期されたコンテンツ。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時に存在します。バージョン 1 プロファイル（Application Data がその一例であるフォルダー）の管理は、Profile Management 5.0 ではサポートされていません。

保留領域

ユーザー ストアには保留領域が含まれています。この領域は、ストリーミングされたユーザー プロファイルとアクティブなライトバック機能で使用される保持領域です。ユーザーが最後のセッションからログオフした後、すべてのファイルは保留領域からユーザー ストアに同期されます。新しいセッションでは、ユーザー ストアと保留領域の両方からファイルがダウンロードされるため、ユーザーは常に最新のプロファイルを体験できます。

サーバーが応答しなくなった場合、保留領域内のファイルをユーザー ストアに解放するタイムアウトを設定できます（ストリーミングされたユーザー プロファイル機能の一部として構成されている場合）。

複数のプラットフォームを持つユーザー ストアのフォルダー構造

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、複数のプラットフォームが関係します。各プラットフォームのプロファイルを分離するために、プラットフォーム固有のフォルダーを定義する必要があります。通常、これはユーザー ストアへのパス ポリシーで Profile Management 変数を使用して行います（たとえば、パスで `%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を使用します）。

クロスプラットフォーム設定ストアは、クロスプラットフォーム設定機能が構成された後、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。ストアの名前と場所は、構成時に指定します（クロスプラットフォーム設定ストアへのパス ポリシーを使用）。このストアには、オペレーティング システム間でローミングするユーザー設定のサブセットが保持されます。

たとえば、Windows XP と Windows 7 の間で設定をローミングしたい場合があります。プラットフォーム固有のフォルダーには、Windows XP と Windows 7 に固有のユーザー設定が含まれています。クロスプラットフォーム設定ストアには、これらのオペレーティング システム間でローミングする設定のサブセットが含まれています。ログオン時に、このサブセットはプラットフォーム固有のフォルダーにコピーされ、その一部として残ります。ログオフ時に、サブセットへの変更が抽出され、クロスプラットフォーム設定ストアに戻されます。

各プラットフォーム固有のフォルダーには、標準のサブフォルダー（例：UPM_Profile）が含まれています。詳細については、「ユーザー ストアのフォルダー構造」を参照してください。さらに、UPM_CPS_Metadata サブフォルダーも存在します。このシステムによって作成されたフォルダーには、オペレーティングシステム間で共有される一時的な設定が含まれています。

ユーザー ストアとADフォレスト

Citrixユーザープロファイルは、フォレストをまたいで管理することはできません。同じフォレスト内のドメインをまたいで管理することは可能で、これにより、同じログオン名を持つ複数のユーザーがフォレスト内の同じリソースにアクセスできます。これには、ユーザー ストアへのパスにある `%USERDOMAIN%` と `%USERNAME%` 変数を使用してプロファイルを一意に識別することが含まれます。

ただし、この場合、ユーザー ストアへのパスを設定する際に、同じログオン名を区別するために変数を使用する必要があります。これを行うには、ドメイン名変数をパスに追加します。また、ユーザー ストアにアクセス許可を設定し、Active Directoryのユニバーサルグループを使用してProfile Managementの「処理済みグループ」設定を有効にする必要があります。

%ProfVer%のような手動で定義されたシステム変数を使用して、オペレーティングシステムのバージョンを設定できます。または、Profile Management変数を使用して、オペレーティングシス

テム名、ビット数、またはプロファイルバージョンを設定できます。ADフォレスト内のユーザーストアパスの例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアのローカライズ

次の表は、プロファイルデータがユーザー ストアに移動される際、またはユーザー ストアから移動される際に、Profile Managementがフォルダーをローカライズおよび非ローカライズする方法の概要を示しています。フォルダー名のみがローカライズおよび非ローカライズされます。たとえば、スタートメニューのエントリやレジストリ設定は、Profile Managementによって正しい言語に翻訳されません。

この情報は、Profile Management 4.x以前からアップグレードする場合にのみ関連します。この場合、バージョン1のプロファイルが存在する可能性があります。Profile Management 5.0では、バージョン1のプロファイルの管理はサポートされていません。

バージョン1英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
アクセシビリティ	Accessibility_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
アクセサリ	Accessories_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
管理ツール	AdminTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
アプリケーションデータ	AppData_upm_var	`\Local Settings`
クッキー	Cookies_upm_var	
デスクトップ	Desktop_upm_var	
エンターテイメント	Entertainment_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
お気に入り	Favorites_upm_var	
履歴	History_upm_var	`\Local Settings`
リンク	Links_upm_var	`\Favorites`
ローカル設定	LocalSettings_upm_var	

バージョン1英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
マイドキュメント	MyDocuments_upm_var	
マイミュージック	MyMusic_upm_var	`\My Documents`
マイピクチャ	MyPictures_upm_var	`\My Documents`
マイビデオ	MyVideos_upm_var	`\My Documents`
NetHood	NetHood_upm_var	
PrintHood	PrintHood_upm_var	
プログラム	Programs_upm_var	`\Start Menu`
最近	Recent_upm_vars	
スタートメニュー	StartMenu_upm_var	
テンプレート	Templates_upm_var	
インターネット一時ファイル	TemporaryInternetFiles_upm_var	`\Local Settings`
送る	SendTo_upm_var	
スタートアップ	Startup_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
システムツール	SystemTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`

プロファイル管理のユースケース

Citrix Profile Managementは、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるか、またはどこに格納されているかに関わらず、さまざまなシナリオでユーザーのプロファイルを管理するために実装できます。これらのシナリオの例を以下に示します。

- 公開アプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps™
- 公開デスクトップを使用するCitrix Virtual Apps

- 分離環境にストリーミングされたアプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps
- Citrix Virtual Desktops™にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktopsにインストールされたアプリケーション
- 物理デスクトップにストリーミングされたアプリケーション
- 物理デスクトップにローカルにインストールされたアプリケーション

これらのシナリオのうち、Citrixは以下を最も一般的なユースケースと見なしています。

- **複数のセッション** - ユーザーが複数のCitrix Virtual Appsサーバーサイロにアクセスするため、複数のセッションが開かれます。ただし、サーバー上でのアプリケーションの分離とストリーミングは、サーバーサイロの代替手段であることに注意してください。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **「最後の書き込みが優先される」とローミングプロファイルの整合性の問題** - ローミングプロファイルへの最後の書き込みによって、すべての設定が保存されます。そのため、複数のセッションが開いていて一時的な変更が行われた場合、ローミングプロファイルが正しいデータを保持しない可能性があります。さらに、ネットワーク、ストレージの問題、またはその他の問題の結果として、設定がプロファイルに正しく書き込まれない可能性があります。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **大規模なプロファイルとログオン速度** - プロファイルの肥大化により、ユーザープロファイルが扱いにくくなり、ストレージと管理の問題が発生する可能性があります。通常、ログオン時にWindowsはユーザーのプロファイル全体をネットワーク経由でローカルユーザーデバイスにコピーします。肥大化したプロファイルの場合、この動作によりユーザーのログオン時間が長くなる可能性があります。

複数のセッション

特に大規模な環境では、ユーザーが同じファーム内または複数のファーム内の異なるCitrix Virtual Appsサーバーに格納されている異なるアプリケーションにアクセスするために、複数のセッションを開く必要がある場合があります。可能な場合は、アプリケーションの分離またはストリーミングを検討して、同じCitrix Virtual Appsサーバーにアプリケーションを格納し、ユーザーが単一のサーバーからすべてのアプリケーションにアクセスできるようにし、それによって単一のセッションを使用できるようにします。ただし、事業部門が特定のサーバーを制御している場合や、アプリケーションをストリーミングできない場合は、これが不可能な場合があります。

ユーザーが様々なCitrix仮想アプリサーバーからアプリケーションにアクセスする必要があると判断された場合、プロファイルへの影響を特定する必要があります。

以下の図は、複数のセッションが存在する場合にアプリケーション設定が失われる可能性がある例を示しています。

図(/en-us/profile-management/2206/media/upm-multiple-sessions-1.png)

例えば、MaryはApp A、App B、App Cにアクセスしたいと考えており、それぞれServer 1、Server 8、Server 12にルーティングされます。各アプリケーションにログオンすると、Maryのターミナルサービスローミングプロファイルが各サーバーにロードされ、各セッションのフォルダーがリダイレクトされます。MaryがServer1のApp Aにログオンしているときに、Setting1を変更し、そのセッションからログオフします。その後、Maryは他の2つのアプリケーションでの作業を完了し、ログオフします。

ログオフ時、Server 1のセッション内でMaryが行った変更は上書きされます。これは、一時的な変更ではなく、最後に閉じられたセッション内の設定が保持されるためです。翌日、MaryがApp Aにログオンすると、彼女が行った変更が表示されないため、不満を感じます。

Profile Managementは、一般的にこの状況の発生を防ぐことができます。Profile Managementは、セッション中に変更された特定のプロファイル設定のみを書き戻し、その他の変更されていない設定はすべてそのまま残します。したがって、発生する可能性のある唯一の競合は、Maryが別のセッション内でSetting1を変更した場合です。しかし、このシナリオでProfile Managementが使用されている場合、ユーザーは最新の変更が保持されることを期待するでしょうし、実際にそうなります。

「最後の書き込みが優先される」問題とローミングプロファイルの整合性問題

このシナリオは、このトピックの最初のシナリオと似ています。「最後の書き込みが優先される」問題は様々な形で現れる可能性があり、アクセスするデバイスの数が増えるにつれてユーザーの不満が高まる可能性があります。

ローミングプロファイルは、リダイレクトされたフォルダーを除き、すべてのプロファイルデータを保持するため、ユーザープロファイルは肥大化する可能性があります。これにより、プロファイルをダウンロードする必要があるためログオン時間が増加するだけでなく、特にネットワークの問題がある場合、ログオフの書き込みフェーズ中に整合性の問題が発生する可能性が高まります。

Profile Managementを使用すると、特定のデータをユーザープロファイルから除外できるため、ユーザープロファイルを最小限のサイズに保つことができます。プロファイルには差分のみが書き込まれるため、ログオフの書き込みフェーズではデータ量が少なく、高速になります。Profile Managementは、一時的なデータにプロファイルを使用するものの、アプリケーション終了時にクリーンアップしないアプリケーションにとって有益です。

複数のリソースへのアクセス

ユーザーが複数のリソースにアクセスするにつれて、プロファイルはより複雑になります。プロファイルがネットワーク上に保存されている場合、Microsoft Windows はレジストリを使用してユーザー設定を保存します。プロファイルはログオン時にネットワークからローカルデバイスにコピーされ、ログオフ時にネットワークにコピーし直されます。日常的に、ユーザーは複数のコンピューターにアクセスし、デスクトップとラップトップを切り替え、Citrix Virtual Apps and Desktops™ または Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops service) で作成された仮想リソースにアクセスします。

この図は、単一の Citrix® ユーザープロファイルが、複数のリソースにログオンするユーザーにどのように追従するかを示しています。

以下のグラフィックは、複数の Citrix リソースにログオンするユーザーと、コンピューターからコンピューターへと追従する Citrix ユーザープロファイルを示しています。(/en-us/profile-management/2206/media/upm-access-multiple-resources.png)

例えば、ユーザーはローカルの物理デスクトップを持ち、そこから Citrix Virtual Apps で公開されたアプリケーションにアクセスします。また、Citrix Virtual Desktops で作成された仮想デスクトップにもアクセスします。設定が適切に構成されていない限り、ユーザーの設定はこれらのすべてのリソースで統一されません。

さらに、共有リソースにアクセスする場合、移動プロファイルの動作は「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。例えば、管理者が移動プロファイルを有効にし、ユーザーがローカルデスクトップの背景色を変更したとします。その後、ユーザーは Citrix 仮想デスクトップにログオンし、ローカルデスクトップからログオフし、仮想デスクトップからログオフします。ローカルデスクトップと仮想デスクトップの両方が同時に開いており、最後のログオフは仮想デスクトップからでした。したがって、仮想デスクトップセッションからの設定がプロファイルに最後に書き込まれたものであり、背景色の変更は失われます。

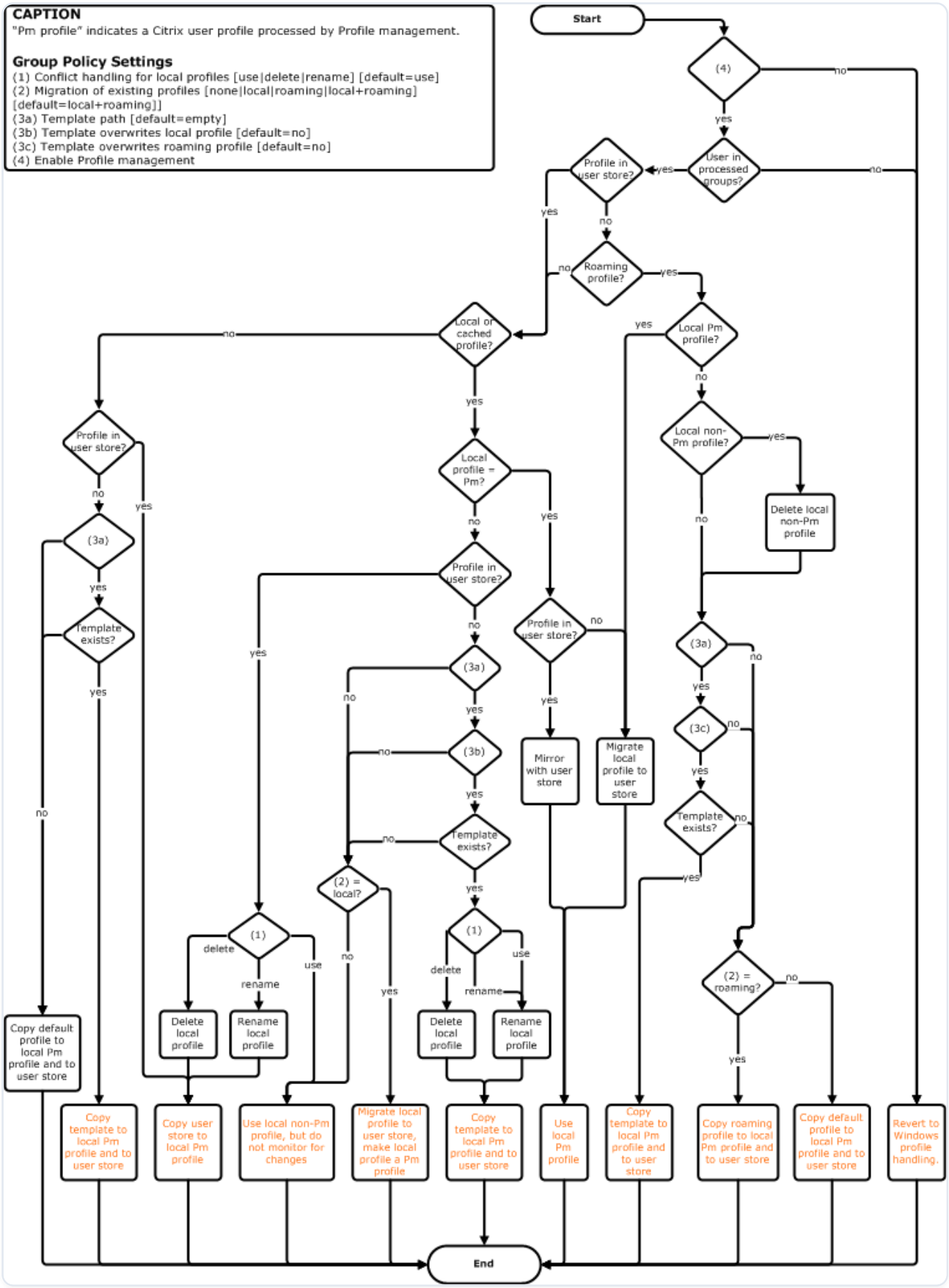
ログオン図

この図は、ユーザープロファイルの移行戦略の詳細を検討するのに役立ちます。また、パフォーマンスの以下の側面についても説明します。

- プロファイルを移行すると、2つのネットワークコピーが発生し、ログオンプロセスが遅くなる可能性があります。たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルおよびユーザーストアにコピー**する操作には、次の2つのコピーが含まれます。1つはローミングプロファイルストアからローカルコンピューターへの完全なプロファイルコピー、もう1つはローカルコンピューターからユーザーストアへの完全なプロファイルコピーです。

- キャッシュされたプロファイルが使用される場合、ネットワークを介したプロファイルデータのコピーは行われません。

図を下から上に読みます。下部のボックスで目的の操作（たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルおよびユーザーストアにコピー**）を確認します。その後、必要な移行設定を特定するためにパスをたどります。

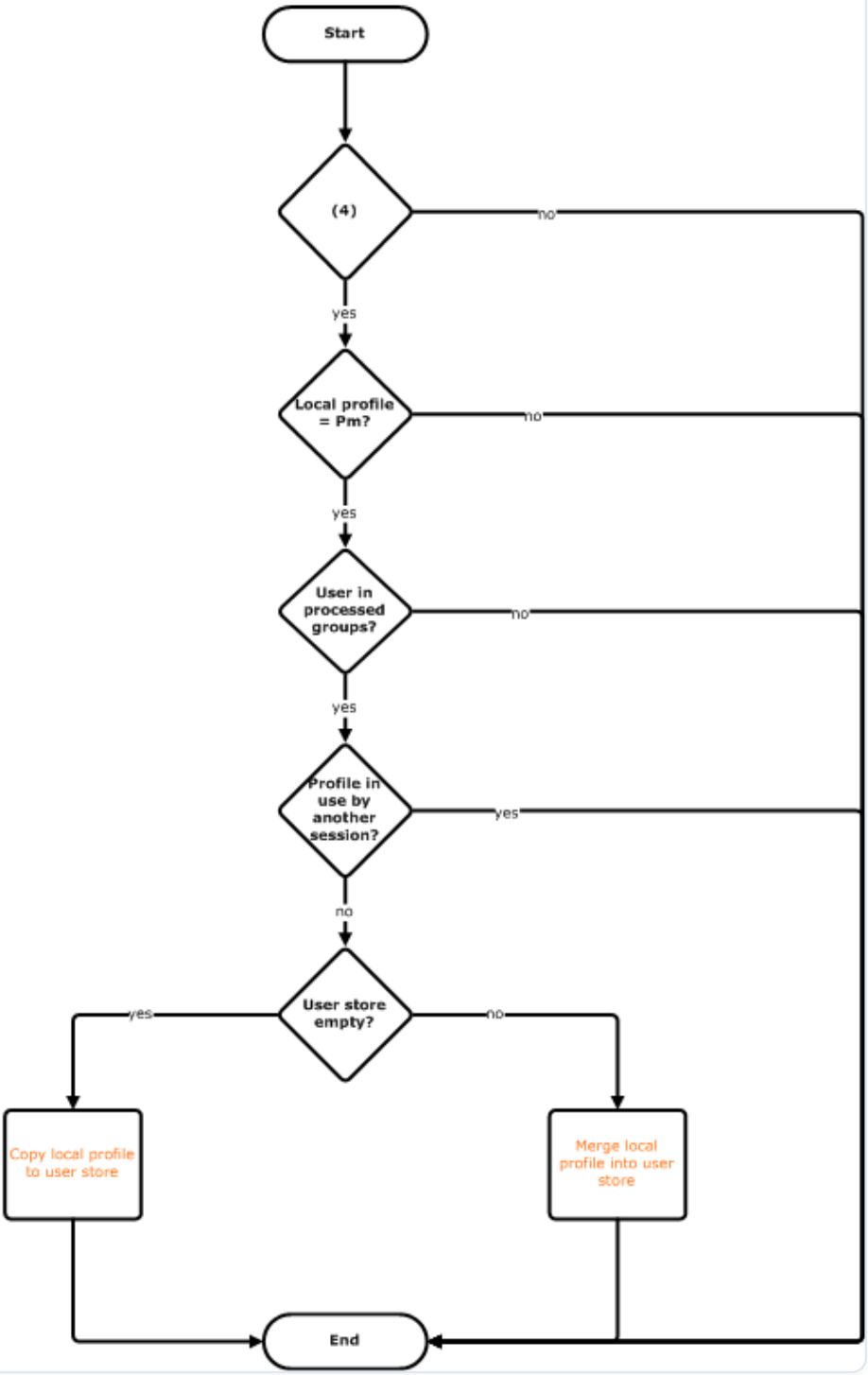

CAPTION
"Pm profile" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.
Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management
Start
(4)
User in processed groups?
Profile in user store?
Roaming profile?
Local or cached profile?
Local Pm profile?
Local non-Pm profile?
Delete local non-Pm profile
Local profile = Pm?
Profile in user store?
(3a)
Template exists?
(3b)
(2) = local?
(1)
Delete local profile
Rename local profile
Mirror with user store
Migrate local profile to user store
(3c)
(2) = roaming?
Copy default profile to local Pm profile and to user store
Copy template to local Pm profile and to user store
Copy user store to local Pm profile
Use local non-Pm profile, but do not monitor for changes
Migrate local profile to user store, make local profile a Pm profile
Use local Pm profile
Copy roaming profile to local Pm profile and to user store
Revert to Windows profile handling.
End

ログオフ図

この図は、ログオフ時にプロファイルデータをコピーまたはマージするために使用されるロジックを説明しています。

CAPTION
"Pm" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.

Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management



展開を計画する

Profile Managementの展開を計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。自動構成機能は、Citrix仮想デスクトップの展開における意思決定の一部を簡素化します。あらゆる展開でこの重要なタスクを実行するためのガイドとして、「構成を決定する」を参照してください。

構成を決定し、それをレビューおよびテストした後、一般的な展開は次の要素で構成されます。

1. ユーザーストアの作成
2. Profile Management のインストール
3. Profile Management の有効化

.iniファイルを使用したパイロットスタディの計画

以下の情報は、パイロットスタディまたは評価中にProfile Managementの.iniファイルを使用する際に役立つことを目的としています。

重要：評価目的で.iniファイル（UPMPolicyDefaults_all.ini）を使用する予定がある場合は、本番環境でグループポリシー（GP）の使用に切り替える前に、ファイルの名前を変更してください。たとえば、ファイル名をUPMPolicyDefaults_all_old.iniに変更します。ファイルの名前を変更することで、本番設定のみが適用され、評価中に指定した設定が使用されないことを確実にできます。

ファイルの名前が変更されない場合、Profile Managementはグループポリシーで構成されていない設定がないかファイルを検査し、見つかった非デフォルト設定を採用します。したがって、不要な設定が導入されるリスクを排除するには、本番環境で使用したいすべての設定を.iniファイルではなくグループポリシーを使用して構成してください。

.iniファイルには.admファイルおよび.admxファイルと同じポリシーが含まれていますが、ポリシーの名前は異なります。GPの名前を熟知しており、.iniファイルを使用したパイロットスタディを計画している場合は、「Profile Managementポリシー」の表を使用して名前を比較してください。

.iniファイルの展開の詳細については、「Profile Managementのアップグレード」および「ローカルGPOを使用したProfile Managementのテスト」を参照してください。

構成を決定する

Profile Management を構成するには、環境に関する以下の基本的な質問に答えることをお勧めします。

1. パイロットまたは本番
2. プロファイルの移行または作成
3. 永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有
4. モバイルまたは静的
5. 使用中のアプリケーション

回答に基づいて、展開用に Profile Management を構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにしておくことができます。

次のステップ

- インストールとセットアップ
- トラブルシューティング

ヒント

Profile Management の設定を確認および展開する際は、以下のヒントを参照してください。

UPMConfigCheck ツールを使用して設定を確認する

UPMConfigCheck は、稼働中の Profile Management 展開を検査し、最適に構成されているかどうかを判断する PowerShell スクリプトです。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805 を参照してください。

コンピューターをOUにグループ化する

複数のコンピューターセットに対して質問への回答が同じである場合は、それらをActive Directoryの組織単位 (OU) にグループ化することを検討してください。また、そのOUにアタッチされた単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、Profile Managementを構成することも検討してください。

これらの質問への回答が異なる場合は、コンピューターを別々のOUにグループ化することを検討してください。

あるいは、ドメインがWMIフィルタリングをサポートしている場合は、すべてのコンピューターを同じOUにグループ化し、WMIフィルタリングを使用して適切に構成されたGPOを選択できます。

パイロットまたは本番

パイロット展開の目的は、ソリューションを迅速かつ確実に実証できるようにすることです。重要な目標は、パイロット内のコンポーネントの数を減らすことかもしれません。Profile Managementの場合、2つのコンポーネントは、ユーザーストアと、プロファイルが処理されるユーザーの選択です。

ポリシー: ユーザーストアへのパス

Citrix®ユーザープロファイル用のユーザーストアのセットアップは、Windowsローミングプロファイル用のプロファイルストアのセットアップとまったく同じです。

パイロット展開の場合、これらの考慮事項を無視できることがよくあります。「ユーザーストアへのパス」ポリシーのデフォルト値は、ユーザーのホームディレクトリにある**Windows**フォルダーです。これは、単一のオペレーティングシステム（したがって、単一のプロファイルバージョン）のみが展開されている限り、単一プラットフォームのパイロットでうまく機能します。プロファイルバージョンについては、「プロファイルについて」を参照してください。このオプションは、ユーザーのホームディレクトリに十分なストレージがあり、ファイルサーバーのクォータが適用されていないことを前提としています。Citrixは、プロファイルでのファイルサーバークォータの使用を推奨していません。その理由は、「複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する」に記載されています。

本番展開の場合、セキュリティ、負荷分散、高可用性、および災害復旧を慎重に考慮する必要があります。ユーザーストアの作成と構成については、以下のトピックの推奨事項に従ってください。

- Profile Managementのアーキテクチャ
- ユーザーストアを作成する
- ユーザーストアへのパスを指定する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ポリシー: 処理されるグループ、除外されるグループ

本番展開の複雑さにより、Profile Managementの展開をすべてのユーザーに同時にリリースするのではなく、段階的に行う必要がある場合があります。展開が進行中の間、異なるリソースに接続すると異なるプロファイルエクスペリエンスが得られることをユーザーに伝える場合があります。

パフォーマンス上の理由から、Profile Managementは組み込みのライセンスチェックではなくEULAによってライセンスされています。ライセンスの割り当ては、ユーザーをActive Directory

(AD) ユーザーグループに割り当てるか、適切な既存のADグループを使用することで管理することを選択できます。

パイロット展開では、Profile Managementの使用は、単一の代表的なADグループを使用できない、複数の部門からの少数のユーザーグループへの招待によって制限されます。この場合、「処理されるグループ」および「除外されるグループ」ポリシーは未構成のままにします。Profile Managementはグループメンバーシップのチェックを行わず、すべてのユーザーが処理されます。

これらのポリシーの詳細については、「どのグループのプロファイルを処理するかを定義する」を参照してください。

Important: In all cases, you must ensure that the number of users processed by Profile Management does not exceed the limits set by the relevant EULA.

プロファイルを移行または作成する

Profile Managementの展開を活用して、組織のプロファイルを更新し、最初は小規模なカスタマイズされたプロファイルを使用し、それへの追加を厳密に制御することができます。あるいは、既存のプロファイルをProfile Management環境に移行し、長年にわたって蓄積された個人設定を保持する必要があるかもしれません。

既存のプロファイルを移行することを決定した場合は、「既存プロファイルの移行」および「ローカルプロファイルの競合処理」ポリシーを構成します。

次の図は、この質問に対する回答に基づいてこれらのポリシーを構成する方法を示しています。

図(/en-us/profile-management/2206/media/upm-migrate.png)

ポリシー: テンプレートプロファイル

まったく新しいプロファイルのセットを作成することを決定した場合は、「テンプレートプロファイル」ポリシーを使用して、この目的のためのテンプレートを作成することを検討してください。詳しくは、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。テンプレートを作成しない場合、Profile ManagementはユーザーにデフォルトのWindowsプロファイルを提供します。テンプレートが不要な場合は、このポリシーを無効のままにします。

テンプレートプロファイルポリシーは、**ユーザーストアへのパス**ポリシーに似ています。このポリシーは、ユーザーがProfile Managementによって管理されるコンピューターに初めてログオンするときに、ユーザープロファイルを作成するための基礎として使用できるプロファイルの場所を指定します。

オプションで、すべてのログオンに対してテンプレートをCitrix®必須プロファイルとして使用できます。計画の一環として、ユーザーがアクセスするアプリケーションの特定などのタスクを実行する必要があります。それに応じて、プロファイル内のレジストリの状態、ショートカット、およびデスクトップ設定を構成する必要があります。プロファイルフォルダーのアクセス許可を設定し、ユーザーのログオンスクリプトを変更する必要があります。

> **注:**
>
> Citrix Virtual Desktops™展開で必須プロファイルを選択する場合は、Profile Managementの.admまたは.admxファイルではなく、Citrix Studioを使用することをお勧めします。

永続的かプロビジョニング済みか、専用か共有か

プロファイルを作成するマシンの種類は、構成の決定に影響します。主な要因は、マシンが永続的かプロビジョニング済みか、および複数のユーザーで共有されるか、1人のユーザー専用であるかです。

永続システムには何らかのローカルストレージがあり、その内容はシステムがオフになっても永続することが期待されます。永続システムは、SANなどのストレージテクノロジーを使用してローカルディスクの模倣を提供する場合があります。対照的に、プロビジョニング済みシステムは、ベースディスクと何らかのIDディスクから「オンザフライ」で作成されます。ローカルストレージは通常、RAMディスクまたはネットワークディスクによって模倣され、後者は高速リンクを備えたSANによって提供されることがよくあります。プロビジョニングテクノロジーは通常、Provisioning ServicesまたはMachine Creation Services™（あるいはサードパーティ製の同等品）です。プロビジョニング済みシステムが永続的なローカルストレージを持つ場合もあり、これはPersonal vDiskによって提供されることがあります。これらは永続的として分類されます。

これら2つの要因を合わせると、次のマシンタイプが定義されます。

- **永続的かつ専用** - 静的割り当てとPersonal vDiskを持つシングルセッションOSマシンで、Machine Creation Services（Citrix virtual desktops™内）で作成されたもの、および物理ワークステーションとラップトップで作成されたPersonal vDiskを持つデスクトップが例として挙げられます。
- **永続的かつ共有** - Machine Creation Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたマルチセッションOSマシン、およびCitrix virtual apps™サーバーが例として挙げられます。
- **プロビジョニング済みかつ専用** - 静的割り当てを持つがPersonal vDiskを持たないシングルセッションOSマシンで、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたものが例として挙げられます。

- **プロビジョニング済みかつ共有** - ランダム割り当てを持つマルチセッションOSマシンで、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたもの、およびCitrix virtual appsサーバーで作成されたPersonal vDiskを持たないデスクトップが例として挙げられます。

以下のProfile Managementポリシー設定は、異なるマシンタイプに対する推奨ガイドラインです。これらは通常うまく機能しますが、展開の要件に応じて逸脱することもできます。

注: Citrix virtual desktops展開では、ログオフ時にローカルキャッシュされたプロファイルを削除、プロファイルストリーミング、および常にキャッシュが自動構成機能によって適用されます。

ポリシー	永続的かつ専用	永続的かつ共有	プロビジョニング済みかつ専用	プロビジョニング済みかつ共有
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除	無効	有効	無効 (注5)	有効
プロファイルストリーミング	無効	有効	有効	有効
常にキャッシュ	有効 (注1)	無効 (注2)	無効 (注6)	無効
アクティブライトバック	無効	無効 (注 3)	有効	有効
ローカル管理者のログオンを処理する	有効	無効 (注 4)	有効	有効 (注 7)

注

1. このマシンタイプではプロファイルストリーミングが無効になっているため、「常にキャッシュ」設定は常に無視されます。
2. 「常にキャッシュ」を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限(MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルにロードされるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

3. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルへの変更を保存する場合を除き、「アクティブライトバック」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
4. ホスト型共有デスクトップの場合を除き、「ローカル管理者のログオンを処理する」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
5. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除しないようにします。これにより、ローカルにキャッシュされたプロファイルが保持されます。マシンは個々のユーザーに割り当てられているため、プロファイルがキャッシュされているとログオンが高速になります。
6. 常にキャッシュする機能を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限（MB単位）を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルに読み込まれるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
7. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルを除き、ローカル管理者のログオンを処理する機能を有効にします。この場合、このポリシーを無効にします。

モバイルまたは静的

お使いのマシンはActive Directoryドメインに常時接続されていますか？ラップトップや同様のモバイルデバイスは、おそらく接続されていません。同様に、一部の展開では、永続的なローカルストレージを持つ固定マシンがあるかもしれませんが、それらのマシンは長期間データセンターから分離されています。例えば、遠隔地の支社が衛星通信によって本社と接続されている場合などです。もう1つの例は、インフラストラクチャが復旧中で、電力や通信が断続的になる災害復旧です。

通常、Profile Managementは、ネットワークが利用できない間にユーザーがログオフしない限り、短時間のネットワーク障害（24時間未満）に対して回復力があります。このような状況では、ログオンプロセスを大幅に高速化するいくつかの方法でProfile Managementを最適化できます。これが静的ケースです。

長期間の切断が予想される場合、または企業ネットワークから切断されている間にユーザーがコンピューターからログオフまたはシャットダウンできる必要がある場合、Profile Managementを最適化することはできません。ユーザーが再接続すると、プロファイル全体がユーザーストアからフェッチされるため、ログオンが遅くなります。これがモバイルケースです。

モバイルケース

長期間の切断（およびActive Directoryドメインへの断続的な接続のみ）の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを有効にします。このアプローチにより、サポートされていない最適化

を制御する以下のポリシーの効果が自動的に無効になります。これらのポリシーはグループポリシーで無効になっているように見えないかもしれませんが、効果はありません。

- プロファイルストリーミング
- 常にキャッシュ

注: オフラインプロファイルサポートが有効になっている場合、 **Active write back** は尊重されますが、コンピューターがネットワークに接続されている場合にのみ機能します。

静的ケース

ポリシー: オフラインプロファイルサポート

短期間の切断の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを無効にします。これにより、以下のいずれかのポリシーを設定できます。

ポリシー: ストリーミングユーザープロファイルグループ

ストリーミングユーザープロファイルグループポリシーを「未構成」に設定します。このポリシーを有効にしても、プロファイルストリーミングも有効になっている場合にのみ効果があります。ストリーミングユーザープロファイルグループは、ストリーミングプロファイルの利用を特定のActive Directoryユーザーグループに制限するために使用されます。これは、Profile Managementの古いバージョンから移行する際の一部のシナリオで役立ちます。このポリシーの設定方法については、「ユーザープロファイルのストリーミング」を参照してください。

このポリシーに適用される高可用性と災害復旧に関する情報については、「シナリオ4 - 移動するユーザー」を参照してください。

ポリシー: 保留中のエリアロックファイルのタイムアウト

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトポリシーを「未構成」に設定して、デフォルトの操作を適用します。これは保留中のエリアロックに対して1日間のタイムアウトです。これはサポートされている唯一の値であるため、このポリシーを調整しないでください。

ポリシー: アクティブなライトバック

このポリシーの詳細については、永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有を参照してください。

使用中のアプリケーション

展開環境で使用されているアプリケーションは、Profile Management の構成方法に影響します。ただし、他の構成決定とは異なり、単純な「はい」または「いいえ」の推奨事項はありません。

決定は、アプリケーションが永続的なカスタマイズをどこに保存するか（レジストリまたはファイルシステム）によって異なります。

アプリケーションが設定とユーザーのカスタマイズをどこに保存するかを特定するために、ユーザーのアプリケーションを徹底的に分析し、理解してください。アプリケーションのバイナリを監視するには、Process Monitor などのツールを使用します。Google も別のリソースです。Process Monitor の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>` を参照してください。

アプリケーションの動作を理解したら、インクルージョンを使用して処理されるファイルと設定を定義します。除外を使用して処理されないものを定義します。デフォルトでは、`AppData\Local` 内のファイルを除き、プロファイル内のすべてが処理されます。展開環境に次のいずれかのアプリケーションが含まれている場合は、`AppData\Local` のサブフォルダーを明示的に含める必要がある場合があります。

- DropBox
- グーグル クローム
- Visual Studio のワンクリック発行で作成されたアプリケーション

シンプルなアプリケーション

シンプルなアプリケーションとは、適切に動作するアプリケーションのことです。これらは、パーソナライゼーション設定を HKCU レジストリハイブに、パーソナライゼーションファイルをプロファイル内に保存します。シンプルなアプリケーションには基本的な同期が必要であり、そのためには次の方法で項目を含めたり除外したりする必要があります。

- これらのポリシーにおける相対パス（%USERPROFILE% に対する相対パス）：
  - 同期するディレクトリ
  - 同期するファイル
  - 除外リスト - ディレクトリ
  - 除外リスト - ファイル
  - ミラーリングするフォルダー

  注: %USERPROFILE% は Profile Management によって暗黙的に指定されます。これらのポリシーに明示的に追加しないでください。
- これらのポリシーにおけるレジストリ相対パス（HKCU ルートに対する相対パス）：
  - 除外リスト

- 包含リスト

項目の含め方と除外方法については、「項目の含め方と除外方法」を参照してください。

レガシーアプリケーション

レガシーアプリケーションは適切に動作しません。パーソナライゼーションファイルをプロファイル外のカスタムフォルダーに保存します。推奨される解決策は、レガシーアプリケーションでProfile Management を使用するのではなく、Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用することです。

複雑なアプリケーション

複雑なアプリケーションには特別な処理が必要です。アプリケーションのファイルは相互参照することがあり、相互に関連するグループとして扱われる必要があります。Profile Managementは、複雑なアプリケーションに関連する2つの動作、つまりCookie管理とフォルダーミラーリングをサポートしています。

Internet ExplorerでのCookie管理は、常に以下の両方のポリシーが指定される基本的な同期の特殊なケースです。

- ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する
- ミラーリングするフォルダー

フォルダーミラーリング、Cookie管理の詳細、およびこれらのポリシーの設定方法については、「Cookieフォルダーおよびその他のトランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

クロスプラットフォームアプリケーション

クロスプラットフォームアプリケーションとは、複数のプラットフォームでホストされる可能性のあるアプリケーションです。Internet ExplorerおよびMicrosoft Officeの特定のバージョンでは、Profile Managementはプラットフォーム間でのパーソナライズ設定の共有をサポートしています。これらの設定は、レジストリまたはプロファイル内のファイルとして保存されます。

クロスプラットフォームアプリケーションに推奨されるポリシー設定は、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」に記載されています。

他のアプリケーションの設定をプラットフォーム間で共有したい場合は、SepagoのProfile Migratorを使用することをお勧めします。

JavaおよびWebアプリケーション

Javaアプリケーションはプロファイル内に多くの小さなファイルを残すことがあり、これによりプロファイルの読み込み時間が劇的に増加する可能性があります。したがって、`AppData\Roaming\Sun\Java`を除外することを検討してください。

ポリシーの概要

次の表は、さまざまな種類のアプリケーションに対してProfile Managementを構成するために使用するポリシーをまとめたものです。表では次の用語が使用されています。

- **相対**。ローカルボリューム上の相対パスで、%USERPROFILE%に対する相対パスです（これは指定してはなりません）。例：`AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`、`AppData\Roaming\Adobe\`。
- **絶対**。ローカルボリューム上の絶対パス。例：`C:\BadApp*.txt`、`C:\BadApp\Database\info.db`。
- **レジストリ相対**。HKCUハイブ内のパスを指します。例：`Software\Policies`、`Software\Adobe`。
- **フラグ**。パス情報が不要な場合に、処理を有効または無効にするためにフラグを使用します。例：Enabled、Disabled。

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
同期するディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
同期するファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
包含リスト	レジストリ		レジストリ相対		
除外リスト	レジストリ		レジストリ相対		
ミラーリングするフォルダー	フォルダ			絶対値	相対
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する					フラグ

ファイル名とフォルダー名におけるワイルドカード処理

ファイルやフォルダー（レジストリエントリではなく）を参照するポリシーは、ワイルドカードをサポートしています。詳細については、「ワイルドカードの使用」を参照してください。

包含ルールと除外ルール

Profile Management は、ユーザープロファイル内のファイル、フォルダー、およびレジストリキーをユーザーストアから含めたり除外したりするためのルールを使用します。これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。そこから、トップレベルの例外を除外として構成し、次にトップレベルの例外に対するより深い例外を包含として構成するといったことができます。項目を含めたり除外したりする方法を含むルールの詳細については、「項目の包含と除外」を参照してください。

プロファイル内の英語以外のフォルダー名

バージョン1プロファイルを使用する英語以外のシステムでは、包含リストと除外リストに相対パスをローカル言語で指定します。たとえば、ドイツ語システムでは、**Documents** ではなく **Dokumenten** を使用します。複数のロケールをサポートしている場合は、各言語で包含または除外する項目を追加します。

次のステップ

1. 構成の決定 に記載されているすべての質問に回答します。
2. 回答に基づいて、展開用に Profile Management を構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにできます。

   構成してはならないポリシーのリストについては、「管理」の「**構成不要なポリシー**」を参照してください。
3. ローカルGPOでProfile Managementをテストする で説明されているように、設定をテストおよび確認してから、Profile Management を有効にします。

複数のプラットフォームの計画

複数のプラットフォームにおけるユーザープロファイルがなぜ課題となるのか?

ユーザーが複数のコンピューティングデバイスにアクセスすることは一般的です。あらゆる種類のローミングプロファイルにおける課題は、これらのデバイス上のシステム間の違いから生じます。例えば、デスクトップにローカルファイルへのショートカットを作成し、別のデバイスに移動したときにそのファイルが存在しない場合、デスクトップには壊れたショートカットが残ります。

シングルセッションOSとマルチセッションOSの間でローミングする場合にも同様の問題が発生します。一部の設定（電源設定やビデオ設定など）はサーバーに適用できない場合があります。さらに、各デバイスでアプリケーションが同様にインストールされていない場合、ローミング時に他の問題が発生する可能性があります。

一部のパーソナライズ設定（マイ ドキュメント、お気に入り、およびOSやアプリケーションのバージョンに依存せずに機能するその他のファイルなど）は、他の設定よりもはるかに管理が容易です。しかし、ドキュメントタイプが1つのシステムでのみサポートされている場合、これらの設定でさえローミングが困難になることがあります。例えば、あるシステムにはMicrosoft Projectがインストールされているが、別のデバイスではそのファイルタイプが認識されない、といったケースです。同じアプリケーションが2つのシステムに存在しても、一方のシステムでは異なるアドオンがインストールされており、ドキュメントがそれを期待している場合、この状況はさらに悪化します。

アプリケーションのインストール方法を変更すると、なぜ問題が発生するのか?

プラットフォームが同じようにインストールされていても、各プラットフォームでアプリケーションが異なる構成になっている場合、アプリケーションの起動時にエラーが発生する可能性があります。例えば、あるプラットフォームのExcelではマクロやアドオンが有効になるが、別のプラットフォームでは有効にならない、といったケースです。

スタートメニュー

スタートメニューにはリンク（LNKファイルおよびLNK2ファイル）が含まれています。メニューのユーザー固有の部分はプロファイルに保存され、ユーザーはその部分を変更できます。カスタムリンク（実行可能ファイルやドキュメントへのリンク）を追加することは一般的です。さらに、言語固有のリンクは、同じアプリケーションに対して複数のスタートメニューエントリを生成します。また、ドキュメントを指すリンクが他のコンピューターで無効になる場合があります。その理由は、ドキュメントへのパスが別のシステムに対する相対パスであるか、またはアクセスできないネットワークパスであるためです。

デフォルトでは、Profile Managementはスタートメニューフォルダーの内容を保存しません。これは、実行可能ファイルを指すリンクがコンピューターに依存することが多いためです。ただし、システムが類似している状況では、Profile Managementの構成にスタートメニューを含めることで、ユーザーがデスクトップ間をローミングする際の整合性が向上します。あるいは、フォルダーリダイレクトを使用してスタートメニューを処理することもできます。

注: 最も無害に見える変更からでも、予期せぬ副作用が生じることがよくあります。例えば、Sepagoブログの `<https://helgeklein.com/blog/2009/09/citrix-user-profile-manager-upm-and-the-broken-rootdrive/>` にある記事を参照してください。

常にプラットフォーム間でスタートメニューの動作をテストし、検証してください。

クイック起動ツールバー

クイック起動ツールバーにはリンクが含まれており、ユーザーが構成できます。デフォルトでは、**クイック起動**ツールバーはProfile Managementによって保存されます。一部の環境では、リンクがコンピューターに依存する可能性があるため、**クイック起動**ツールバーの保存が望ましくない場合があります。

プロファイルからツールバーを除外するには、フォルダー除外リストに次のエントリを追加します: `AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch`。

作成するプロファイルの種類?

重要: 構造が異なるため、複数のプラットフォームを含む環境では、各ユーザーに対して個別のバージョン1およびバージョン2プロファイルを作成することをお勧めします。Windows VistaとWindows 7のプロファイル名前空間の違いにより、これらのプラットフォーム間でプロファイルを共有することは困難です。また、Windows XPとWindows Server 2003の間でも障害が発生する可能性があります。バージョン1およびバージョン2プロファイルの詳細は、 プロファイルについてを参照してください。

ここでの「複数のプラットフォーム」の定義には、複数のオペレーティングシステム（異なるビット数を含む）だけでなく、同じオペレーティングシステム上で実行される複数のアプリケーションバージョンも含まれます。次の例は、この推奨事項の理由を示しています。

- 32ビットシステムには、オペレーティングシステムに32ビットオペレーティングシステムに固有の場所でアプリケーションを起動するよう指示するレジストリキーが含まれている場合があります。64ビットシステムでCitrix®ユーザープロファイルによってそのキーが使用された場合、そのシステムにその場所が存在せず、アプリケーションの起動に失敗する可能性があります。
- Microsoft Office 2003、Office 2007、およびOffice 2010は、一部のWord設定を異なるレジストリキーに保存します。これらのアプリケーションが同じオペレーティングシステムで実行されている場合でも、Wordアプリケーションの3つの異なるバージョンごとに個別のプロファイルを作成する必要があります。

プロファイルの相互運用性を確保するために、CitrixユーザープロファイルでMicrosoftフォルダーリダイレクトを使用することをお勧めします。Windows VistaまたはWindows 7がWindows XPと共存する必要がある環境では、これはさらに重要です。

ヒント: 組織のデータ管理ポリシーによっては、Active Directoryから削除されたユーザーアカウントのプロファイルをユーザーストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアから削除することをお勧めします。

複数のファイルサーバーでCitrix®ユーザープロファイルを共有する

Profile Managementの最もシンプルな実装は、ユーザーストアが1つの地理的場所にいるすべてのユーザーをカバーする1つのファイルサーバー上にあるものです。このトピックでは、複数のファイルサーバーを含む、より分散された環境について説明します。高度に分散された環境については、「Profile Managementによる高可用性と災害復旧」を参照してください。

注：ユーザーストアのサーバー側ファイルクォータは無効にしてください。クォータが満杯になるとデータ損失が発生し、プロファイルをリセットする必要があるためです。プロファイルに保持される個人データ（例：ドキュメント、音楽、写真）の量を制限するには、サーバー側ファイルクォータが有効になっている別のボリュームへのフォルダーリダイレクトを使用する方が良いでしょう。

ユーザーストアは複数のファイルサーバーに配置でき、これは多くのプロファイルをネットワーク全体で共有する必要がある大規模な展開でメリットがあります。Profile Managementは、ユーザーストアを単一の設定である**ユーザーストアへのパス**で定義するため、この設定に属性を追加することで複数のファイルサーバーを定義します。Active Directoryのユーザースキーマで定義されている任意のLDAP属性を使用できます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/adschema/attributes-all?redirectedfrom=MSDN>`を参照してください。

ユーザーが異なる都市にある学校にいて、それを表すために#l#属性（場所を示す小文字のL）が構成されているとします。ロンドン、パリ、マドリードに拠点があります。ユーザーストアへのパスを次のように構成します。

```
\&num;l#.userstore.myschools.net\profile&num;sAMAccountName#\%ProfileVer%\
```

パリの場合、これは次のように展開されます。

```
\\Paris.userstore.myschools.net\profile\JohnSmith\v1\
```

次に、利用可能なサーバー間で都市を分割します。たとえば、DNSでParis.userstore.myschools.netをServer1を指すように設定します。

この方法で属性を使用する前に、そのすべての値を確認してください。それらはサーバー名の一部として使用できる文字のみを含んでいる必要があります。たとえば、#l#の値にはスペースが含まれていたり、長すぎたりする場合があります。

#l#属性を使用できない場合は、同様のパーティショニングを実現する#company#や#department#などの他の属性についてADユーザースキーマを調べてください。

カスタム属性を作成することもできます。特定のドメインでどの属性が定義されているかを確認するには、`Sysinternals`ツールであるActive Directory Explorerを使用します。Active Directory Explorerは`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/adexplorer>`で入手できます。

注：プロファイルやサーバーを区別するために、%homeshare%などのユーザー環境変数を使用しないでください。Profile Managementはシステム環境変数を認識しますが、ユーザー環境変数は認識しません。ただし、関連するActive Directoryプロパティである`#homeDirectory#`を使用で

きます。したがって、ユーザーのHOMEディレクトリと同じ共有にプロファイルを保存したい場合は、ユーザーストアへのパスを`#homeDirectory#\profiles`として設定します。

ユーザーストアへのパスにおける変数の使用については、以下のトピックで説明されています。

- ユーザーストアへのパスを指定する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

OU内およびOU間でプロファイルを管理する

OU 内

Profile Management が組織単位 (OU) 内でプロファイルを管理する方法を制御できます。Windows Server 2008 環境では、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、.adm または .admx ファイルを OU 内のコンピューターのサブセットに制限します。WMI フィルタリングは、Service Pack 1 (SP1 を含む GPMC) を含むグループポリシー管理コンソールの機能です。

WMI フィルタリングの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc779036(v=ws.10)>` および `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc758471(v=ws.10)>` を参照してください。

SP1 を含む GPMC の詳細については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=21895>` を参照してください。

次の方法を使用すると、単一の OU で単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、異なる OS を持つコンピューターを管理できます。各方法は、ユーザー ストアへのパスを定義するための異なるアプローチです。

- ハードコードされた文字列
- プロファイル管理変数
- システム環境変数

ハードコードされた文字列は、1 種類のコンピューターのみを含む場所を指定します。これにより、それらのコンピューターからのプロファイルを Profile Management によって一意に識別できます。たとえば、Windows 7 コンピューターのみを含む OU がある場合、「**ユーザー ストアへのパス**」に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Windows7` を指定できます。この例

では、Windows7 フォルダーはハードコードされています。ハードコードされた文字列は、Profile Management Service を実行するコンピューターでのセットアップを必要としません。

Profile Management 変数は、コンピューターを一意に識別するために柔軟に組み合わせることができ、セットアップを必要としないため、推奨される方法です。たとえば、異なるビット数のオペレーティングシステムで実行されている Windows 7 および Windows 8 プロファイルを含む OU がある場合、「**ユーザー ストアへのパス**」に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を指定できます。この例では、2 つの Profile Management 変数は、Win7x86 (Windows 7 32 ビット オペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) および Win8x64 (Windows 8 64 ビット オペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) フォルダーに解決される可能性があります。Profile Management 変数の詳細については、「Profile Management policies」を参照してください。

システム環境変数には、いくつかの構成が必要です。これらは、Profile Management Service を実行する各コンピューターでセットアップする必要があります。Profile Management 変数が適切でない場合は、次のようにシステム環境変数をユーザー ストアへのパスに組み込むことを検討してください。

各コンピューターで、%ProfVer% というシステム環境変数をセットアップします。(ユーザー環境変数はサポートされていません。) 次に、ユーザー ストアへのパスを次のように設定します。

```
`\\upmserver\upmshare\%username%.%userdomain%\%ProfVer%`
```

たとえば、Windows 7 32 ビット コンピューターの場合は %ProfVer% の値を Win7 に、Windows 7 64 ビット コンピューターの場合は Win7x64 に設定します。Windows Server 2008 32 ビットおよび 64 ビット コンピューターの場合は、それぞれ 2k8 および 2k8x64 を使用します。これらの値を多くのコンピューターで手動で設定するのは時間がかかりますが、Provisioning Services を使用する場合は、ベース イメージに変数を追加するだけで済みます。

ヒント: Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 では、グループポリシーを使用して環境変数の作成と適用を高速化できます。グループポリシー管理エディターで、次をクリックします。 **コンピューターの構成** > **基本設定** > **Windows の設定** > **環境**、次に **操作** > **新規** > **環境変数** 。

OU 間

プロファイル管理がOU間でプロファイルを管理する方法を制御できます。OU階層とGPO継承に応じて、複数のOUに適用されるプロファイル管理ポリシーの共通セットを1つのGPOに分離できます。たとえば、**ユーザーストアへのパス**と**プロファイル管理を有効にする**は、すべてのOUに適

用する必要があります。そのため、それらを専用のGPOに個別に保存し、そこでこれらのポリシーのみを有効にすることができます（他のすべてのGPOでは未構成のままにします）。

継承されたポリシーを上書きするために、専用のGPOを使用することもできます。GPO継承の詳細については、MicrosoftのWebサイトを参照してください。

Profile Managementにおけるドメインとフォレストのサポート

Profile Managementは、Windows Server 2008およびWindows Server 2012のドメインおよびフォレストの機能レベルをサポートしています。古いオペレーティングシステムはサポートされていません。

システム環境変数を使用すると、複数のドメインにおけるユーザー名の曖昧さを解消できます。詳細については、「OU内およびOUをまたがるプロファイルの管理」を参照してください。

Profile Management を使用した高可用性と災害復旧

前提条件として、ユーザー ストアの構造と作成方法を理解してください。詳細については、「Profile Management のアーキテクチャ」および「ユーザー ストアの作成」を参照してください。

これらのトピックでは、Citrix Profile Management に適用される高可用性と災害復旧のサポートされているシナリオについて説明します。これらのシナリオを関連する基盤となる Microsoft テクノロジーに関連付け、サポートされている内容を特定します。

- シナリオ 1: 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本的なセットアップ
- シナリオ 2: 複数のフォルダー ターゲットとレプリケーション
- シナリオ 3: 災害復旧
- シナリオ 4: 移動ユーザー
- シナリオ 5: ユーザー ストアの負荷分散

Profile Management は、信頼性の高い環境で動作することを前提としています。原則として、この信頼性は Active Directory (AD) とネットワーク ユーザー ストア (NUS) の可用性に適用されます。どちらかが利用できない場合、Profile Management はプロファイルを提供できず、Windows に責任を委ねます。Windows は通常、デフォルトのプロファイルを提供します。

移動プロファイルとの比較

災害復旧および高可用性のシナリオでは、Citrix Profile Management は Microsoft 移動プロファイルに影響するのと同じ問題の影響を受ける可能性があります。特に明記されていない限り、Profile Management はそのような問題を解決しません。

特に、次の点に注意してください。

- Profile Management のサポートは、移動プロファイルもサポートされているシナリオに限定されます。
- オフライン ファイルのキャッシュ オプションは、移動ユーザー プロファイル共有で無効にする必要があります。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。
- 移動プロファイルは DFS 共有からロードされません。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2533009>` を参照してください。

シナリオ 1 - 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本設定

「ユーザーには、常に地理的に隣接した、優先されるネットワーク ユーザー ストア (NUS) をプロファイルに使用してほしい。」この場合、オプション 1 と 2 が適用されます。

「NUS をフェールオーバー クラスター上に配置して、高可用性を実現したい。」この場合、オプション 2 が適用されます。

次の図は、このシナリオを示しています。北米 (NA) のユーザーは、ブリスベンの NUS ではなく、ニューヨークの NUS を使用したいと考えています。目的は、遅延を減らし、オーストラリアまたはニュージーランド (ANZ) への大陸間リンクを介して送信されるトラフィックを最小限に抑えることです。

図(/en-us/profile-management/2206/media/upm-ha-dr-scenario1-1.png)

オプション 1 – DFS 名前空間

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、「DFS 名前空間の概要」を参照してください。

このオプションの実装

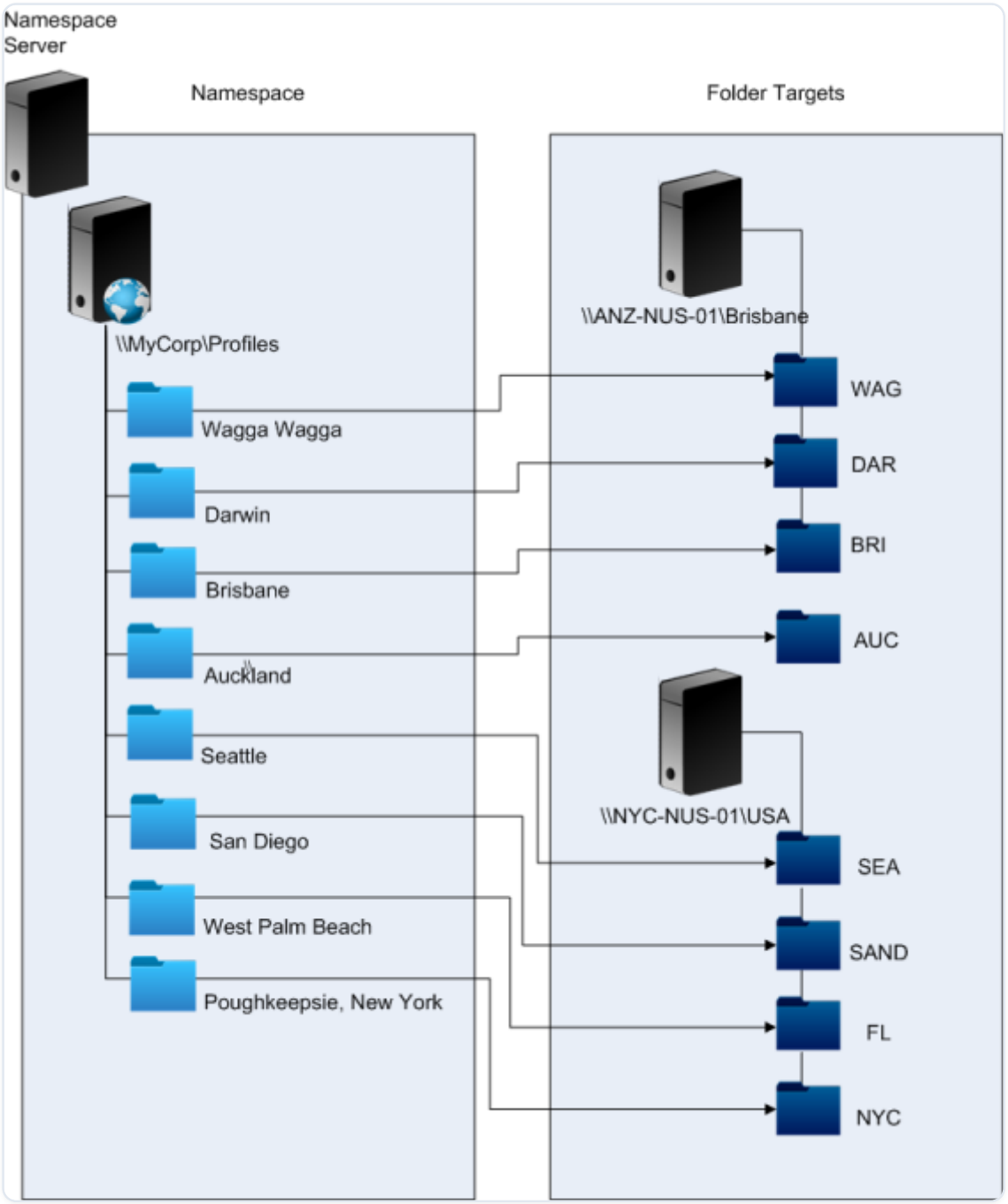
DFS 名前空間は、ブログ記事で提示された問題の一部を解決できます。

`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS の名前空間を設定しましょう。これは名前空間のルートです。ニューヨークとブリスベン (およびその他のサイト) に名前空間サーバーを設定します。各名前空間サーバーには、各 Active Directory の場所に相当するフォルダーがあり、それらのフォルダーはニューヨークまたはブリスベンのサーバー上のターゲットを持っています。

Active Directory (ユーザー レコードの一部) には、次の場所が構成されている場合があります。

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的な場所
ワガワガ	ANZ
ダーウィン	ANZ
ブリスベン	ANZ
オークランド	ANZ
シアトル	該当なし
サンディエゴ	該当なし
ウェストパームビーチ	該当なし
ポキプシー、ニューヨーク	該当なし

次の図は、DFS 名前空間を使用してこれを設定する1つの方法を示しています。



設定が完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します。

```
\\MyCorp\Profiles&num;l#
```

8つのサイトに属するユーザーのプロファイルは、シナリオで要求される地理的制約を満たすように、わずか2台のサーバーに分散されます。

代替案

名前空間ターゲットを順序付けし、次のように順序付けルールを使用できます。DFS 名前空間が使用するターゲットを解決するときに、ローカルサイト内のターゲットのみが選択されるように

指定できます。これは、特定のユーザーに対して、すべてのデスクトップとサーバーが同じサイトに属することが保証されている限り機能します。

たとえば、通常ポキプシーに拠点を置くユーザーがワガワガを訪れた場合、この手法は失敗します。そのユーザーのラップトッププロファイルはブリスベンから取得されるかもしれませんが、公開されたアプリケーションで使用されるプロファイルはニューヨークから取得されるかもしれません。

推奨される手法であるAD属性を使用すると、ユーザーが開始するすべてのセッションで同じDFS名前空間の選択が行われることが保証されます。その理由は、#I# がマシンの構成ではなく、ユーザーのAD構成から派生するためです。

オプション2 - フェールオーバークラスタリングを使用したDFS名前空間

参考資料

- 2ノードファイルサーバーフェールオーバークラスターの構成に関するステップバイステップガイドについては、「2ノードクラスター化ファイルサーバーの展開」を参照してください。
- 名前空間の種類の選択に関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/choose-a-namespace-type>` を参照してください。

このオプションの実装

フェールオーバークラスタリングを追加することで、基本的な高可用性を提供できます。

このオプションの重要な点は、ファイルサーバーをフェールオーバークラスターに変換し、フォルダーターゲットが単一のサーバーではなくフェールオーバークラスターでホストされるようにすることです。

名前空間サーバー自体に高可用性が必要な場合は、スタンドアロンの名前空間を選択する必要があります。ドメインベースの名前空間は、名前空間サーバーとしてフェールオーバークラスターの使用をサポートしていません。フォルダーターゲットは、名前空間サーバーの種類に関係なく、フェールオーバークラスターでホストされる場合があります。

重要: フェールオーバークラスター内のサーバーが失敗した場合、ファイルロックの状態が保持されない可能性があります。プロファイル管理は、プロファイル処理中の特定の時点でNUS上のファイルロックを解除します。重要な時点でのフェールオーバーがプロファイルの破損につながる可能性があります。

シナリオ 2 - 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション

「ローカルのNUSが利用できない場合、ユーザーは企業ネットワーク上の別のバックアップ場所からプロファイルデータを取得できるようにしたい。変更を行った場合、その変更は、NUSが再び利用可能になったときに、優先されるNUSに戻される必要がある。」

このシナリオにおける基本的な要件は、ネットワーク上のプロファイルの代替場所を提供することです。ユースケースには、ネットワークインフラストラクチャの部分的な障害や、フェールオーバークラスターなどのフォルダーターゲットが完全に利用できなくなることが含まれます。

考慮すべきオプションは、複数のフォルダーターゲットの使用とDFSレプリケーションの使用です。

オプション 1 - 複数のフォルダーターゲットへの参照

参考資料

DFS名前空間のチューニングについては、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/tuning-dfs-namespaces>`を参照してください。

このオプションについて

参照とは、ユーザーデバイスによって順番に試行されるターゲットの順序付きリストです。これは、ソフトウェアライブラリのようにターゲットが読み取り専用であるシナリオ向けに設計されています。ターゲット間に連携がないため、この手法をプロファイルで使用すると、同期できない複数のプロファイルが作成される可能性があります。

しかし、参照内のターゲットに対して、順序付け方法とターゲット優先度の両方を定義することは可能です。適切な順序付け方法を選択すると、すべてのユーザーセッションによって一貫したターゲットが選択されるように見えます。しかし実際には、ユーザーのすべてのデバイスが同じサイト内にある場合でも、サイト内ルーティングの問題により、異なるセッションによって異なるターゲットが選択される可能性があります。この問題は、デバイスが参照をキャッシュするとさらに複雑になる可能性があります。

Important: This option is not suitable for Profile Management deployments and is not supported. However, file replication has been used in some specialized deployments in which only a single session can be guaranteed and Active write back is disabled. For information on these special cases, contact Citrix Consulting.

オプション 2 - 分散ファイルシステムレプリケーション

参考資料

- 分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) の概要については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-replication/dfsr-overview>`を参照してください。
- レプリケートされたユーザープロファイルデータに関するサポートステートメントについては、`<https://techcommunity.microsoft.com/t5/ask-the-directory-services-team/microsoft-8217-s-support-statement-around-replicated-user/ba-p/398230>`を参照してください。
- DFSRが分散ファイルロックをサポートしない理由を理解するには、`<https://blogs.technet.com/b/askds/archive/2009/02/20/understanding-the-lack-of-distributed-file-locking-in-dfsr.aspx>`を参照してください。

このオプションの実装

DFSレプリケーションは、帯域幅が制限されたネットワーク接続全体でフォルダー同期を提供します。このオプションは、単一の名前空間フォルダー定義が参照する複数のフォルダーターゲットを同期するため、オプション1の問題を解決するように見えます。実際、フォルダーがフォルダー定義のターゲットとして追加されると、レプリケーショングループに属するように指定できます。

考慮すべきレプリケーションには2つの形式があります。

- 一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブ レプリケーションとも呼ばれる）は、重要なデータを安全なリポジトリにバックアップするために設計されています。このレプリケーションは、たとえばディザスタリカバリサイトの維持に適しています。パッシブターゲットが参照に対して無効になっており、ディザスタリカバリ計画がアクティブ化されたときにのみ呼び出される限り、プロファイル管理で機能させることができます。
- 双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブ レプリケーションとも呼ばれる）は、グローバル共有データへのローカルな読み取り/書き込みアクセスを提供することを目的としています。ここでは、即時レプリケーションは必ずしも要件ではありません。共有データはめったに変更されない可能性があります。 重要: アクティブ-アクティブ DFSRはサポートされていません。

スケジュールは、データがレプリケートされる頻度を定義します。頻繁なスケジュールはCPUと帯域幅の両方でより集中的ですが、即時更新を保証するものではありません。

プロファイル管理は、その操作のさまざまな時点で、(共有)ユーザー ストアへの更新を調整するために、NUSで特定のファイルをロックする必要があります。通常、これらの更新は、セッションの開始時と終了時、およびアクティブなライトバックが有効になっている場合はセッションの途中で行われます。DFSレプリケーションでは分散ファイルロックがサポートされていないため、プロファイル管理はNUSとして1つのターゲットしか選択できません。この設定により、双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブ レプリケーション）の価値が事実上排除され、したがってプロファイル管理には適しておらず、サポートされていません。一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブ レプリケーション）は、ディザスタリカバリシステムの一部としてのみプロファイル管理に適しています。その他の用途はサポートされていません。

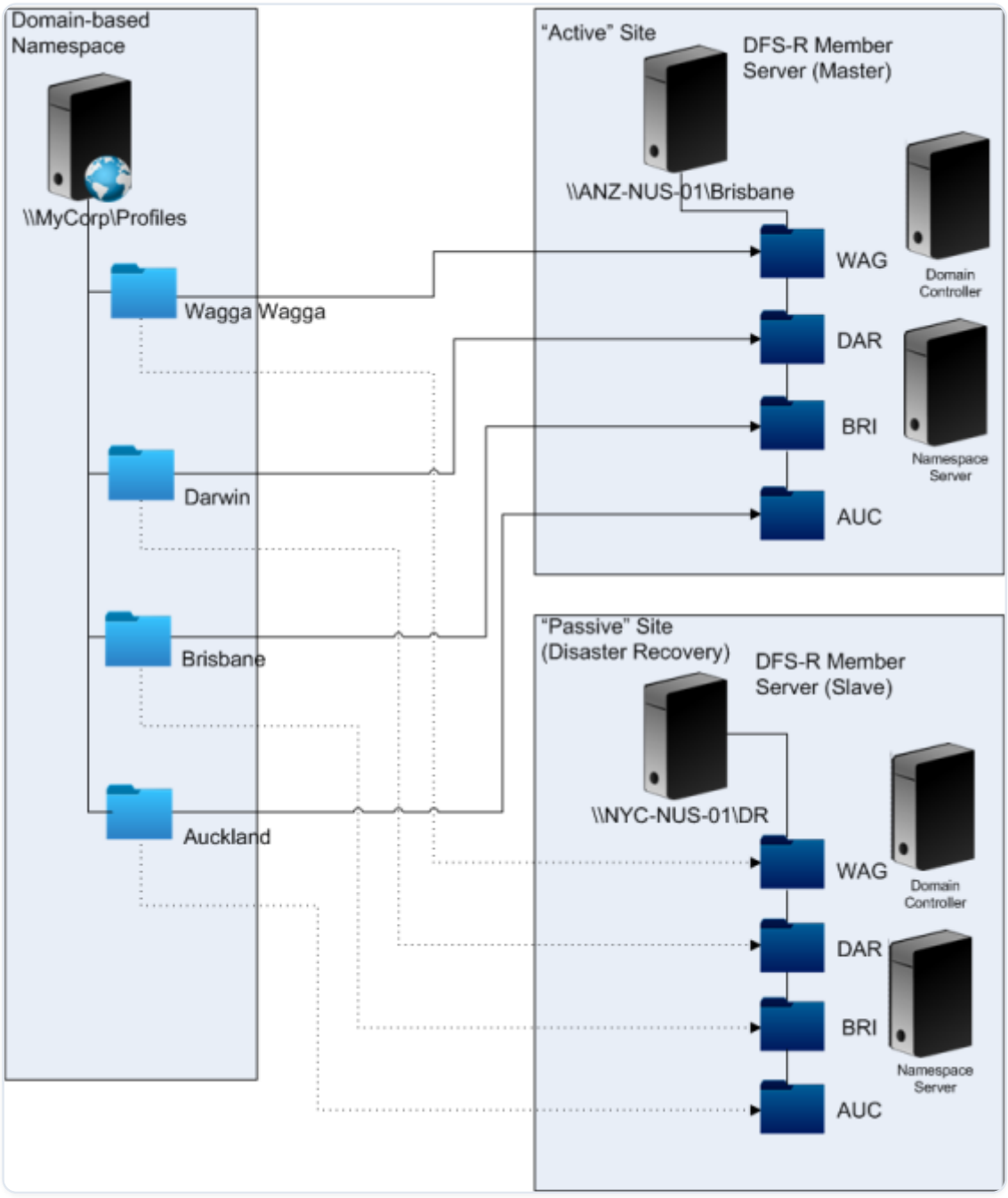
シナリオ 3 - 災害復旧

「Citrix®ユーザープロファイルを処理するための完全な災害復旧サイトをどのように設定しますか？」

Profile Management は、災害復旧 (DR) に必要な主要な機能をサポートしています。

- **DFS 名前空間**。ドメインベースの名前空間サーバーは、DR サイトが独自の名前空間サーバーを持つことができるため、このシナリオでは推奨されます。(スタンドアロンの名前空間サーバーはレプリケートできませんが、フェールオーバークラスターでホストできます。)
- **複数のフォルダーターゲットと DFS レプリケーション**。各 NUS に対して、少なくとも2つのターゲットを提供しますが、通常運用では1つのみを有効にします。無効になっているターゲット (DR サイト上) が最新の状態に保たれるように、一方向の DFS レプリケーションを設定します。
- **個々のフォルダーターゲットをホストするためのフェールオーバークラスター**。オプション。DR サイトのリソースを浪費する可能性があります。

この図では、ドメインベースの名前空間が NUS を管理しています。(シナリオ 1 の図では、意図的に名前空間を含んでいませんでした。) DR サイトを含む各サイトに名前空間サーバーを含めることができます。すべてのサーバーは、名前空間の同じビューをサポートしています。



DR プランがアクティブ化されると、DR サイトの NUS は、マスター NUS からレプリケートされた変更で最新の状態になります。ただし、名前空間サーバーは依然として名前空間の誤ったビューを反映しているため、その構成を更新する必要があります。各フォルダーについて、マスターサイトのフォルダーターゲットを無効にし、DR サイトのフォルダーターゲットを有効にする必要があります。

AD の更新が伝播した後、名前空間サーバーは DR フォルダーターゲットを正しく特定し、DR サイトは Profile Management で使用できるようになります。

注: 「ユーザー ストアへのパス」設定は、実際のサーバーではなく名前空間フォルダーを参照するため、Profile Management の構成を更新する必要はありません。

実際には、DR サイトは通常プロファイルには使用されないため、一方向または双方向のレプリケーションが可能です。災害が終了すると、DR サイトからマスターサイトへの接続により、災害中に NUS に対して行われた変更がマスターサイトにレプリケートされます。

シナリオ 4 - 移動するユーザー

「私のスタッフが異なるオフィス間を移動する際、彼らの優先NUSを変更したい。そうすれば、地理的に近いNUSを使い続けることができます。」

このシナリオの難しさは、ユーザーのログオンセッションが複数の場所から集約される可能性があることです。彼らは通常、デスクトップセッションをあるサイトから別のサイトへとローミングします。しかし、多くのアプリケーションは、ユーザーのデスクトップの現在の場所を認識しないバックエンドサーバーでホストされています。

さらに、ユーザーは切断されたセッションに再接続する可能性があります。おそらく、それらのセッションは自宅の場所でホストされています。もし何らかの理由でセッションがユーザーの新しい場所にあるNUSに切り替わることを強制された場合、パフォーマンスが低下します。

ホットデスクを利用する出張者にとって、**プロファイルストリーミング**と**常にキャッシュ**の設定を使用することが最善の選択肢です。固定マシンを使用する場合でも、Citrix®ストリーミングユーザープロファイルを使用して迅速にログオンできます。常にキャッシュを有効にすると、プロファイルの残りの部分がバックグラウンドで読み込まれます。

シナリオ 5 - ユーザー ストアの負荷分散

「地理的に隣接する複数のネットワーク ユーザー ストア (NUS) にわたって、ユーザーを負荷分散したい。」

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要 を参照してください。

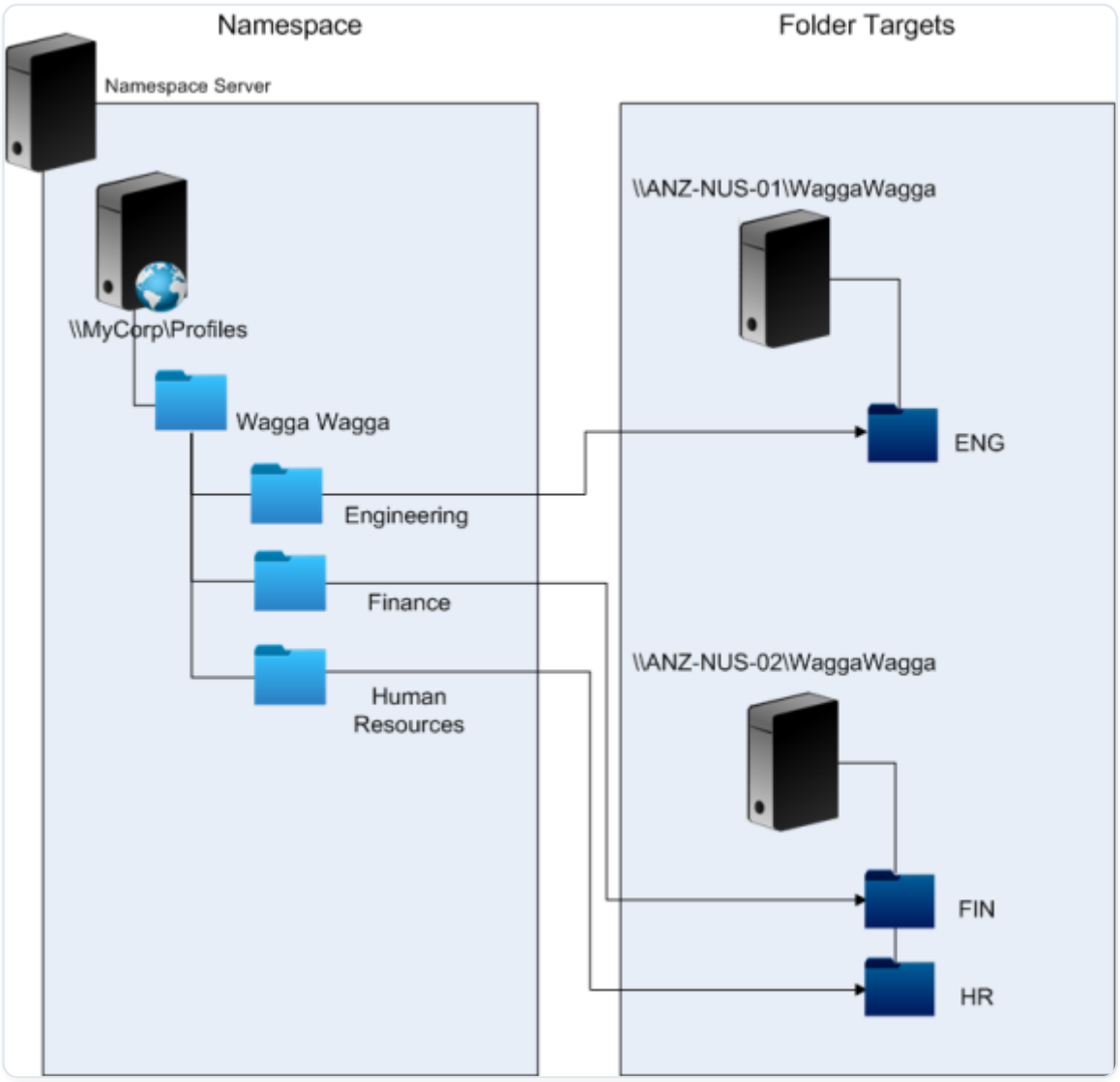
シナリオ 1 とは異なり、このシナリオでは、複数の NUS を必要とするほど大規模な単一サイトがあります。DFS 名前空間を使用することで、シナリオ 1 のソリューションを改善できます。

シナリオ 1 (オプション 1) では、DFS 名前空間を使用して、複数のサイトを同じサーバー上の異なるフォルダーにマッピングしました。同様の手法を使用して、名前空間のサブフォルダーを異なるサーバー上のフォルダーにマッピングできます。

理想的には、ユーザー アカウントを #department# のように同程度のサイズのチャンクに分割する AD 属性が必要です。シナリオ 1 と同様に、#department# は常に定義され、正しいフォルダー名が含まれていることが保証されている必要があります。

シナリオ 1 と同様に、`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS 用の名前空間をセットアップします。

この図は、名前空間のセットアップ方法を示しています。



セットアップが完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します。

```
\\MyCorp\Profiles&num;l#&num;department#
```

この構成により、Wagga Wagga のユーザーは、両方ともローカルである 2 つの NUS サーバーに分散されます。

プロファイル管理を使用したフォルダーリダイレクトの計画

プロファイル管理はフォルダーリダイレクトをサポートしており、その使用が推奨されます。

Active Directory (AD) は、Application Data や Documents などのフォルダーをネットワークの場所に保存（リダイレクト）できます。フォルダーの内容はリダイレクトされた場所に保存され、ユーザープロファイルには含まれないため、サイズが削減されます。AD のバージョンによっては、リダイレクトできるフォルダーとできないフォルダーがあります。さらに、フォルダーリダイレクトを構成することで、強制プロファイルを持つユーザーは、プロファイルの使用を制限しながらも、一部の設定、ファイル、その他のデータを保存できます。

一般的なガイドラインとして、ネットワーク帯域幅が許す場合、セッション内で定期的にアクセスされないすべてのユーザーデータに対してフォルダーリダイレクトを有効にすることをお勧めします。

リダイレクトできるすべてのフォルダーが AD でアクセスできるわけではありません。特定のオペレーティングシステムでリダイレクトできるフォルダーは、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User Shell Folders` のレジストリにあります。

フォルダーリダイレクトに関する重要な情報

プロファイル管理でフォルダーリダイレクトを使用する際の以下の重要な点に注意してください。

- XenDesktop 7 では、Citrix Virtual Desktops™ ポリシーを使用して、Studio でリダイレクトするフォルダーを指定します。詳しくは、Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。
- フォルダーリダイレクトを正常に構成するには、バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイル間のフォルダー構造の違いに注意してください。
- フォルダーリダイレクトを使用する際のセキュリティに関する詳細な考慮事項については、Secure および Microsoft TechNet Web サイトの「Folder Redirection Overview」を参照してください。
- ユーザーストアは、リダイレクトされたフォルダーに使用される共有とは異なるものとして扱ってください。
- リダイレクトされたフォルダーを除外リストに追加しないでください。

このビデオを見て、詳細を確認してください:

サードパーティのディレクトリ、認証、およびファイルサービス

この記事では、Microsoft が提供するサービス以外のディレクトリ、認証、およびファイルサービスに対するサポートについて説明します。

ディレクトリサービス

重要: Active Directory (AD) は、Profile Management の運用に不可欠です。その他のディレクトリサービスはサポートされていません。これらのサービスには以下が含まれます。

- ノベル eDirectory。
- Windows 2000 Server またはそれ以前のオペレーティングシステム (OS)。Windows 2000 Server は AD をサポートしていますが、必要なレベルではありません。詳細については、「Profile Management でのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。Microsoft Windows NT 4.0 は AD よりも前のものです。
- Samba 4 またはそれ以前のバージョン。

認証サービス

その他の認証サービスは、ドメイン内で AD と共存できますが、Profile Management ではサポートされていません。その理由は、Profile Management Service と同様に、これらのサービスが winlogon.exe と相互作用し、ユーザーログオンプロセスに問題を引き起こす可能性があるためです。たとえば、Novell の認証サービスは、ユーザーがプリンターやファイル共有などの Novell リソースにアクセスすることを許可しますが、サポートされていません。

ファイルサービス

サードパーティのファイルサービスは、ユーザーストアおよびフォルダーリダイレクト（使用されている Windows オペレーティングシステムでサポートされている場合）に使用できます。ファイルサーバーは、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) タイプであり、NTFS ファイルシステムをサポートしている必要があります。これらの理由から、以下がサポートされています。

- Windows Server 2003 またはそれ以降
- サンバ 3

重要: Novell ディレクトリに対する認証が必要なため、Novell ファイルサービスはサポートされていません。

複数のプラットフォーム上のプロファイルとProfile Managementの移行に関するFAQ

このセクションでは、複数のWindowsオペレーティングシステム、または単一オペレーティングシステムの複数のバージョンやビット数を持つ環境でプロファイルを使用することに関する質問と回答を掲載しています。

プロファイルとの互換性の問題を確実に回避するにはどうすればよいですか?

異種環境をサポートする必要性と、ユーザーとそのデバイスを追跡するためのパーソナライズ設定の必要性のバランスを取ります。通常、これら2つのニーズのバランスは、管理者とIT部門のみが決定できます。ユーザープロファイルを次のように調整することで、さまざまなシステムを管理します。プロファイルがローミングする場合、問題は適切に処理されるか、必要に応じて設定は完全に無視され、まったく追跡されないようにする必要があります。これは、多くのサードパーティ製ソフトウェアソリューションの基礎となります。

トラブルシューティングを最小限に抑えるには、同じデバイス設定（インストールされているアプリケーション、OSバージョンなど）間でプロファイルをローミングするようにしてください。しかし、現代の多くのシナリオでは、これは容易に達成できず、不完全なユーザーエクスペリエンスにつながります。たとえば、ユーザーは複数のオペレーティングシステムを使用しているからといって、お気に入りやマイドキュメントを複製する必要はありません。この場合、管理者はフォルダーリダイレクトを使用することでユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。このMicrosoft機能の使用は、他のシナリオでも推奨されます。

異なるシステム間でプロファイルを共有できますか?

Citrixは、プラットフォームごとに1つのベースプロファイルを持つことを推奨しています。これは、オペレーティングシステムごとに1つのプロファイルを持つことと必ずしも同じではありません。この推奨事項の詳細については、「複数のプラットフォームの計画」を参照してください。これにより、互いに機能しない可能性のある設定や、特定のOSに適用されない設定の数を最小限に抑えることができます。たとえば、デスクトップの電源設定は、サーバーシナリオやリモートデスクトップサービス（旧ターミナルサービス）を含むシナリオには適用されません。

プロファイルの数を簡素化および削減しようとし、それらが複数のOSで使用されるようになると、設定の競合のリスクが高まります。システムが同じでない場合、このリスクはさらに増大します。たとえば、Microsoft Officeのアドインがすべてのデバイスに存在しない場合があります。幸い

なことに、特定のデバイスに適用されないこのような設定は、多くの場合無視されます。無視されない場合にサポートの問題が発生します。アドインが存在しない場合、Microsoft Excelは起動に失敗します。

Profile Managementは、複数のバージョンまたはプラットフォーム間で設定をどのように有効にしますか?

Citrix®は、複数のベースプロファイル間で共通設定をローミングする機能を提供します。Citrixは、Microsoft Office、Internet Explorer、壁紙などの設定のローミングを可能にします。これらの種類のシナリオをサポートする能力は、アプリケーションがプラットフォーム間の設定のローミングをサポートする程度によって制限されます。次の質問のリンクは、Microsoftの立場とベストプラクティスをカバーしています。

Microsoftは、プラットフォームとバージョンをまたがるローミングプロファイルをどのようにサポートしていますか?

関連情報については、「ローミングユーザープロファイルの展開」を参照してください。

Office 2007のツールバー設定については、「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

標準のMicrosoft Windowsプロファイルソリューションが技術的、カスタム、またはビジネス要件を完全に満たさない場合、Profile Managementは実行可能なソリューションとなります。

x86プラットフォームとx64プラットフォーム間でプロファイルを共有することは可能ですか?

Windows x86とx64間で1つのプロファイルを共有することは一般的に機能するかもしれませんが、いくつかの問題が発生する可能性があります。

いくつかの理由があります。例えば、その1つは、使用ごとのファイル関連付けが`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes`に保存されることです。非管理者がFirefoxをデフォルトブラウザとして設定した場合、32ビットシステムには以下が保存されます。

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes\FirefoxHTML\shell\open\command` -\> "`C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox.exe`" -要求保留中 -OS情報 -URL "%1"

このパスを含むプロファイルがWindows x64で使用されると、OSはFirefoxの64ビットバージョンを探しますが、これは存在しません。代わりに、32ビットバージョンが`C:\Program Files (x86)\Mozilla Firefox`にインストールされている可能性があります。これにより、ブラウザが起動しなくなります。

逆の場合も同様です。x64プラットフォームでパスが設定されているが、x86プラットフォームで使用される場合です。

複数のプラットフォームで1つのプロファイルがどのように動作するかをテストしたいのですが、どこから始めればよいですか?

複数のプラットフォームで1つのプロファイルを使用する実験には、テストと検証が重要です。推奨されるアプローチは、プラットフォームごとに1つのプロファイルを持つことです。単一のプロファイルが複数のプラットフォームでどのように動作するかを調べたい場合は、以下の情報が役立つかもしれません。

次の質問に答えることで、何が問題を引き起こす可能性があるかを特定することから始めます。このトピックの残りの質問を、問題への対処と追跡のアイデアとして使用してください。

プラットフォーム間で機能する項目：

- マイドキュメントと「お気に入り」
- 設定情報（デフォルトを含む）をプロファイル内に完全に保存するアプリケーション

機能しない可能性がある項目：

- ハードコードされたデータ、パスデータなどを保存するアプリケーション
- x64またはx86プラットフォームに固有の設定
- すべてのシステムに存在するわけではないExcelアドインなど、同一ではないアプリケーションのインストール。これらのインストールは、アプリケーションによって異なるあらゆる種類のエラー状態を引き起こす可能性があります。

ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることはできますか?

はい。Profile Managementは、ローカルデスクトップ、Citrix Virtual Apps、Citrix Virtual Desktops™、またはこれらの任意の組み合わせに基づいてプロファイルを適用できます。

適切なProfile Management設定が有効になっている場合、Remote Desktop Services（旧Terminal Services）プロファイルは、ユーザーがターミナルサーバーまたはCitrix Virtual Appsセッションを持っている場合にのみ使用されます。この設定は、ユーザーがRemote Desktop Servicesセッションを介してログオンするときに、既存のプロファイル（Citrixユーザープロファイルを除く）をすべて上書きします。

Windows 7では、GPOコンピューター設定を使用して、ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます。繰り返しになりますが、これはGPに基づいているため、プロファイルの割り当てはGPOが適用されるOUに依存します。

コンピューターに基づくプロファイルの割り当てが望ましいのはなぜですか?

ユーザーがログオンするコンピューターにプロファイルを割り当てることは、個別のユーザーエクスペリエンスが必要な場合に役立ちます。たとえば、管理者は、Remote Desktop Services（旧Terminal Server）セッションで使用されるプロファイルを、デスクトップで使用されるプロファイルとは別に保持することを決定する場合があります。

Profile ManagementはWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行しますか?

Profile Managementを構成して、ユーザーがログオンするときに既存のローミングプロファイルとローカルプロファイルを自動的に移行できます。また、新しいCitrixユーザープロファイルのベースとして、テンプレートプロファイルまたはデフォルトのWindowsプロファイルを使用することもできます。

Profile Managementの移行の計画と設定については、「プロファイルの移行または作成」を参照してください。ソフトウェアがWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する方法の詳細については、「ログオン図」を参照してください。

どのプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行できますか?

Profile Managementは、Windowsローカルプロファイルと Windowsローミングプロファイルを移行できます。必須プロファイル（.manファイル）はProfile Managementによって無視されますが、Citrixユーザープロファイルのテンプレートとして使用できます。Profile Managementが正しく機能するように、すべてのユーザーへの必須プロファイルの割り当てを無効にしてください。

既存のWindows必須プロファイルをテンプレートとして使用するには、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。

テンプレートプロファイルを使用するにはどうすればよいですか?

Profile Managementでは、新しいCitrixユーザープロファイルの作成のベースとして使用されるテンプレートプロファイルを指定できます。通常、初めてプロファイルを割り当てられたユーザーは、ログオンするWindowsデバイスのデフォルトユーザープロファイルを受け取ります。これは許容できるかもしれませんが、異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルのバリエーションが、ユーザーのために作成されるベースプロファイルの違いにつながることを意味します。した

がって、テンプレートプロファイル機能をグローバルなデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

ユーザーがプロファイルデータに変更を加えるのを防ぎたい場合は、テンプレートプロファイルをCitrix必須プロファイルとして識別することもできます。

詳細については、テンプレートまたは必須プロファイルを指定するを参照してください。

インストールとセットアップ

インストールパッケージをダウンロードする

開始する前に、有効なCitrix®アカウントがあることを確認してください。

ダウンロードを完了するには、次の手順に従います。

1. Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページにアクセスします。
2. ダウンロードしたいバージョン（例: 2206）を見つけて展開し、**「制限付きダウンロードにアクセスするにはサインイン」**をクリックします。
3. Citrixアカウントの資格情報でサインインします。
4. **Citrix Virtual Apps and Desktops™ 7 `<Version_Number>` > 製品ソフトウェア > Citrix Virtual Apps and Desktops 7 `<Version_Number>`, All Editions**を選択します。
5. **製品ISOに含まれるが個別にパッケージ化されているコンポーネント**ノードを展開し、**Profile Management**サブノードの**「ファイルのダウンロード」**をクリックします。
6. 表示される**ダウンロード契約**ダイアログボックスで、ダウンロードを開始するために契約に同意します。

   ダウンロードが完了すると、`ProfileMgmt_<version_number>.zip`ファイル（例: ProfileMgmt_2206.zip）がダウンロードフォルダーに表示されます。

ダウンロードに含まれるファイル

ダウンロードしたパッケージを解凍します。パッケージに含まれるファイルについては、次の表を参照してください。

ファイル名	説明	場所
x86.msi	32ビットシステム用インストーラー	
x64.msi	64ビットシステム用インストーラー	

ファイル名	説明	場所
CitrixBase.adml および CitrixBase.admx	プロファイル管理ポリシー階層用のADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\CitrixBase`
ctxprofile.adml および ctxprofile.admx	プロファイル管理ポリシー設定用のADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)

Profile Management のインストール

Profile Management は VDA インストーラーのオプションコンポーネントです。VDA と一緒に、または個別にインストールできます。この記事では、Profile Management 独自のインストーラーを使用して Profile Management をインストールする方法について説明します。

VDAs と一緒に Profile Management をインストールする方法の詳細については、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの VDAs のインストール を参照してください。

概要

ユーザープロファイルを管理する各コンピューターに Profile Management をインストールする必要があります。通常、配布ツール、イメージングソリューション、またはストリーミングテクノロジーを使用して、コンピューター上で MSI インストーラーを実行します。任意のコンピューターに直接インストールすることもできます。無人インストールがサポートされています。

一般的なインストール手順は次のとおりです。

1. MSI インストーラーを実行する。
2. Group Policy を使用して Profile Management を構成するには、ADMX テンプレートファイルを Group Policy に追加します。

> **注:**
>
> すべてのユーザーコンピューターに同じバージョンの Profile Management をインストールすることをお勧めします。また、同じバージョンの ADMX テンプレートファイルを Group Policy に追加してください。このアプローチにより、異なるユーザープロファイルストア構

造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

MSI インストーラーを実行する

この手順では、Profile Management を単一のコンピューターにインストールします。

1. 管理者としてコンピューターにログオンします。
2. インストールパッケージ のルートフォルダーにある MSI インストーラーを実行します。インストールウィザードが表示されます。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
4. コンピューターを再起動します。

インストーラーは、DLL やその他のファイルに加えて、インストール場所（デフォルトでは `C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager`）にこれらのファイルを作成します。

ファイル名	説明
UPMPolicyDefaults_all.ini	Profile Management .iniファイル
UserProfileManager.exe	Profile Management によって管理されるコンピューター上で機能を実行する Windows サービス

コマンドラインからMSIインストーラーを実行する

コマンドラインからMSIインストーラーを実行すると、ユーザーの操作なしでインストールを完了できます。

コマンドラインインストールでは、以下のインストールオプションも提供されます。

- `/norestart` オプションを使用して再起動を抑制します。

  オペレーティングシステムによっては、コンピューターが再起動するまでProfile Managementが機能しない場合があります。たとえば、Windows 7ワークステーションを再起動する必要はありません。
- 必要に応じて `INSTALLDIR` を指定します。
- Profile Management の .ini ファイルのインストールを防ぐには、`INSTALLPOLICYINIFILES` を `no` に設定します。

以前のバージョンで .ini ファイルを使用しており、その設定をこのバージョンで使用したい場合は、インストール後に各設定をグループポリシーエディターの対応するProfile Managementポリシーに手動で転送してください。

- アップグレードには `OVERWRITEINIFILES=yes` オプションを使用します。詳細については、Profile Management のアップグレード を参照してください。

次の例では、ユーザーインターフェイスと再起動を表示せずにProfile Managementをインストールします。UACが有効になっている場合、`msiexec` コマンドを管理者権限で実行します。たとえば、管理者として実行したコマンドプロンプトから実行します。

```
msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [/norestart]
[INSTALLDIR=<installation directory>]   [OVERWRITEINIFILES=yes]
[INSTALLPOLICYINIFILES=no]
```

Profile Management をアンインストールする

この手順では、単一のコンピューターからProfile Managementをアンインストールします。開始する前に、コンピューターの管理者であることを確認してください。

1. データ損失を避けるため、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。
2. プログラムと機能のインストール済みプログラムの一覧から、**Profile Management** を選択し、**アンインストール** をクリックします。
3. **はい**をクリックします。
4. コンピューターを再起動します。

サイレントモードでProfile Managementをアンインストールすることもできます。

(オプション) ADMXテンプレートファイルをグループポリシーに追加する

グループポリシーを使用してProfile Managementを構成する方法に応じて、ADMXテンプレートファイルをドメインコントローラーまたはコンピューターに追加します。

- OU内のコンピューターに対してProfile Managementを一元的に構成するには、ADMXテンプレートファイルをすべてのドメインコントローラーに追加します。
- 各コンピューターに対してProfile Managementを個別に構成するには、ADMXテンプレートファイルをそのコンピューターに追加します。

インストールパッケージから以下のファイルをコピーし、ドメインコントローラーまたはコンピューターの場所に貼り付けます。詳細な手順については、以下の表を参照してください。

ファイル名	元 (インストールパッケージ)	先 (ドメインコントローラーまたはコンピューター)
CitrixBase.adml	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
CitrixBase.admx	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions`
ctxprofile.adml	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
ctxprofile.admx	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions`

ADMX テンプレートファイルの詳細については、こちらの Microsoft の記事を参照してください。

GPO を使用して Profile Management ポリシーを構成する

ADMX ファイルをドメインコントローラーに追加したら、次の手順に従って Profile Management ポリシーを表示および構成します。

1. ドメインコントローラーで、**Active Directory ユーザーとコンピューター**を開きます。Profile Management がインストールされているコンピューターを含む OU を特定します。
2. **グループポリシーの管理**を開き、OU を右クリックして、**このドメインに GPO を作成し、ここにリンクする**を選択し、GPO を作成します。

> **注:**

> GPO にセキュリティフィルタリングを適用する場合は、認証済みユーザーグループまたはコンピューターグループのいずれかを使用してください。個々のユーザーのみを含むセキュリティグループは使用しないでください。

3. **グループポリシーオブジェクト**から、新しく作成した GPO を右クリックし、**編集**を選択します。グループポリシー管理エディターウィンドウが表示されます。
4. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート... > Citrix コンポーネント > Profile Management**を選択します。すべての Profile Management ポリシーが表示されます。
5. 必要に応じて Profile Management を構成します。

ローカルGPOでProfile Managementをテストする

本番環境にProfile Managementを展開する前に、テスト環境をセットアップすることをお勧めします。ドメイングループポリシーオブジェクト (GPO) に設定を転送するための完全にサポートされたより簡単な方法は、マシンへのローカルインストールに基づいています。

一般的なワークフローは次のとおりです。

1. マシンにProfile Managementをインストールします。
2. (/ja-jp/profile-management/2206/plan/configuration.html)に記載されている質問への回答に基づいて、ローカルGPOを使用してProfile Managementポリシーを構成します。
3. (/ja-jp/profile-management/2206/configure/enable.html)を有効にします。
4. ログオンおよびログオフの動作をテストします。
5. 満足のいく結果が得られるまで、ローカルGPO設定を調整します。

概要

マシンが本番OUのメンバーである場合、ローカルGPOを使用してProfile Managementを安全にテストできます。OUおよびドメインのGPOが利用できない場合、ローカルGPOポリシーが有効になります。ローカルGPOを使用する場合は、他の場所（たとえば、ドメインやサイトなど）でProfile Management GPOが使用されていないことを確認してください。

ドメインGPOを使用してグループポリシーを構成できない場合、ローカルGPOを長期的なソリューションとして使用できます。ただし、この方法では、次のような複雑さが環境に導入されます。

- 各マシンには、Profile Management ADMXファイルがインストールされている必要があります。

- ドメインユーザーは、複数のマシンにアクセスする際に設定を維持できない可能性があります。

重要:

ローカルGPOを長期的なエンタープライズソリューションとして使用することはお勧めしません。

ユーザーエクスペリエンスをテストする

プロファイルソリューションを実装する際は、ユーザーがさまざまなマシンからリソースにアクセスするときのユーザーエクスペリエンスの相違を最小限に抑える必要があります。

ユーザーのレジストリとファイルは、物理マシン、プロファイル構成、およびオペレーティングシステムによって異なる場合があります。したがって、ユーザーがローミングするマシンのシステムインストール間の違いに対処するようにProfile Managementを構成する必要があります。

そのためには、本番環境を模倣する方法で、ユーザーのリソースへのアクセスを確認します。これらのリソースには、次のものが含まれる場合があります。

- ローカルにインストールされたアプリケーションを持つマシン
- ストリーミングされたアプリケーションまたはローカルにインストールされたアプリケーションを含む仮想デスクトップ
- 仮想アプリサーバーで公開またはストリーミングされた仮想アプリ
- ターミナルサービスクライアント

オペレーティングシステムのバリエーションをテストする

ユーザーは異なるオペレーティングシステムからアプリケーションにアクセスする場合があります。それらの間のバリエーションにより、単一のユーザープロファイル内で競合する設定が作成される可能性があります。

詳しくは、「プロファイルバージョン」を参照してください。

アップグレードと移行

Profile Management のアップグレード

この記事では、Active Directory を使用して Profile Management の展開をアップグレードする方法について説明します。

重要： このアップグレードプロセスでは、手順の順序に従うことが重要です。新しい .adm または .admx ファイルをグループポリシーに追加した後にのみ、すべてのコンピューターでソフトウェアをアップグレードしてください。事前にアップグレードすると、ログファイルが2つの場所に保存される可能性があります。1つは古いバージョンのログファイルを含み、もう1つは新しいバージョンのファイルを含みます。この考慮事項は、特に Citrix Virtual Desktops™ の展開に影響します。

また、アップグレードはスケジュールされたメンテナンス期間中に行うことも重要です。または、Active Directory のレプリケーションによって変更が展開全体に伝播される時間帯にアップグレードしてください。通常、アップグレードには最大24時間かかる場合があります。

アップグレードプロセスには以下が含まれます。

1. グループポリシーオブジェクト（GPO）を作成し、新しい .adm または .admx ファイルを新しい GPO に追加する

   \- または -

   この記事の後半で説明するように、既存の .adm または .admx ファイルをアップグレードする.
2. この記事の後半で説明するように、すべてのコンピューターで .msi ファイルをアップグレードする.
3. GPO を適用する.

既存の .adm ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management .adm ファイルがグループポリシーに存在する場合、以下の手順でアップグレードできます。アップグレード時に、以前のバージョンのすべてのポリシー設定が保持されます。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

   - 既存の .adm ファイルをインポートします。ファイルはダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーにあります。
   - ダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーから .admx ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions` フォルダーにコピーし、.adml ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized` フォルダーにコピーします\>。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\> は en-US です。

2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、グループポリシーオブジェクトエディターを開きます。
3. グループポリシーオブジェクトエディターで、**管理用テンプレート**を右クリックし、**テンプレートの追加と削除**を選択します。
4. 既存バージョンの Profile Management .adm ファイル（例: ctxprofile5.4.1）を選択し、**削除**をクリックしてから**閉じる**をクリックします。Administrative Templates\\Citrix フォルダーが削除されます。
5. **管理用テンプレート**を右クリックし、もう一度**テンプレートの追加と削除**を選択します。
6. **追加**をクリックし、新しいバージョンの .adm または .admx ファイルの場所（例: ctxprofile5.5.0）を参照して選択し、**閉じる**をクリックします。新しいファイルがインポートされますが、古い設定は保持されます。

.msi ファイルをアップグレードするには

すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、その同じバージョンの .adm または .admx ファイルをすべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに追加することをお勧めします。これにより、異なるユーザープロファイルストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぎます。

新しい設定を有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンの Profile Management にアップグレードすることをお勧めします。使用しているバージョンで設定が新しいかどうかを確認するには、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

1. アップグレードするコンピューターからすべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. 各コンピューターで .msi ファイルを実行して、既存のバージョンに新しいバージョンの Profile Management をインストールします。詳細については、「インストールとセットアップ」を参照してください。

.ini ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management で .ini ファイルを編集し、新しいバージョンにアップグレードします。ソフトウェアはファイルが編集されたことを検出し、デフォルトでは上書きしません。既存の .ini ファイル設定を保持し、新しいバージョンの新しい設定を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しいバージョンの .ini ファイルから新しい設定を、既存の編集済み .ini ファイルに手動で追加します。
- 既存の編集済みバージョンの .ini ファイルのコピーを保存します。アップグレード中にファイルを強制的に上書きするには、OVERWRITEINIFILES=yes コマンドラインオプションを使用します。保存した設定をアップグレードされた .ini ファイルに追加します。例:

  ```
  msiexec /i <path to the MSI file\> /quiet [INSTALLDIR=<installation directory>] [OVERWRITEINIFILES=yes] [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
  ```

注

HDX™ を介して Profile Management ポリシーを構成するには、次の操作を行う必要があります。

- Delivery Controller をアップグレードします。これは、HDX が XenApp および XenDesktop レイアウト `image-full\x64\Citrix Desktop Delivery Controller` にある UserProfileManager_PowerShellSnapIn.msi ファイルから Profile Management ポリシー設定を読み取るためです。
- Profile Management の最新バージョンを入手するには、VDA をアップグレードします。

その他のリソース

- Profile Management ポリシー
- インストールとセットアップ

構成

管理

重要: 以下のポリシーは通常、構成を必要としません。Citrix®の担当者から指示がない限り、デフォルト設定のままにしてください。

ポリシー: ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

このポリシーを有効にする必要はほとんどありません。

ログオフ中に、ロックされたファイルがある場合、Profile Management Service は指定された回数だけファイルにアクセスし、ユーザー ストアにコピーし直そうとします。しかし通常、サービスはコピー操作を成功させるためにファイルを読み取るだけで（書き込みはせず）、ロックされたファイルが存在する場合、サービスはローカル プロファイルを削除せず、代わりに「古い」状態のままにします（適切なポリシーが有効になっている限り）。

このポリシーを有効にしないことをお勧めします。

競合するプロファイルの解決

既存の展開にProfile Managementを追加すると、ローカルのWindowsユーザープロファイルとCitrixユーザープロファイル（ユーザーストア内）の間で競合が発生する可能性があります。このシナリオでは、ローカルのWindowsプロファイルのデータがどのように管理されるかを決定する必要があります。

1. Profile Managementで、［プロファイル処理］フォルダーを開きます。
2. **ローカルプロファイルの競合処理**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

    - **ローカルプロファイルを使用する**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを処理しますが、一切変更しません。
    - **ローカルプロファイルを削除する**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを削除し、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

- **ローカルプロファイルの名前を変更する。**Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでローカルプロファイルの競合処理が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

テンプレートまたは強制プロファイルを指定する

既定では、新しいCitrix®ユーザープロファイルは、ユーザーが最初にログオンするコンピューター上のデフォルトのユーザープロファイルから作成されます。プロファイル管理は、プロファイルを作成する際に、代わりに中央に保存されたテンプレートを使用できます。テンプレートは、任意のネットワークファイル共有に存在する標準の移動プロファイル、ローカルプロファイル、または強制プロファイルにすることができます。

異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにおけるあらゆる差異は、ユーザーのために作成されるベースプロファイルの違いにつながります。テンプレートプロファイルの選択をグローバルデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

前提条件として：

- テンプレートプロファイルにユーザー固有のデータが含まれていないことを確認します
- ユーザーがテンプレートプロファイルへの読み取りアクセス権を持っていることを確認します
- 強制プロファイルをテンプレートプロファイルに変換するには、ファイルNTUSER.MANの名前をNTUSER.DATに変更します
- テンプレートプロファイルのNTUSER.DATからSACLを削除します

既存のMicrosoftプロファイルをカスタマイズしてテンプレートプロファイルを作成する方法については、`<https://support.microsoft.com/kb/959753>`および`<https://support.microsoft.com/kb/973289>`を参照してください。

1. プロファイル管理で、フォルダーを開きます。
2. **テンプレートプロファイル**ポリシーをダブルクリックします。
3. を選択します。

4. **テンプレートプロファイルへのパス**で、テンプレートまたは強制プロファイルとして使用するプロファイルの場所を入力します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

   重要：パスがNTUSER.DATのみで構成されている場合、パスにファイル名を含めないようにしてください。たとえば、ファイル`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`の場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。

   絶対パスを使用します。これはUNCパスまたはローカルマシン上のパスにすることができます。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージ上にテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

   このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

5. 既存のWindowsユーザープロファイルを上書きするには、必要に応じてチェックボックスを選択します。ユーザーがCitrixユーザープロファイルを持たず、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。無効になっていない場合、このファイルはユーザーストアに移行されます。**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**または**テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする**チェックボックスを有効にすることで、設定を変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別します。Windows強制プロファイルと同様に、Citrix強制プロファイルには変更を保存できません。

ここで**テンプレートプロファイル**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートまたは強制プロファイルは使用されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

移行ポリシーを選択する

Profile Management が有効になった後、ユーザーが初めてログオンしたとき、そのユーザーのCitrix®ユーザープロファイルは存在しません。しかし、ログオン中に既存のWindowsユーザープロファイルを「オンザフライ」で移行できます。既存のどのプロファイル（ローミング、ローカル、またはその両方）をコピーして、その後のすべての処理で使用するかを決定します。

移行戦略の計画に関する詳細については、プロファイルの移行または作成を参照してください。さらに、既存のプロファイルを移行するためのシステム要件をシステム要件で確認してください。

1. Profile Management の下で、プロファイル処理フォルダーを開きます。
2. 既存のプロファイルの移行ポリシーをダブルクリックします。
3. 有効を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。
    - ローカル。ローカルプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローカルとローミング。ローカルプロファイルとローミングプロファイル（以前はターミナルサービスプロファイルとして知られていたリモートデスクトップサービスプロファイルを含む）を移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローミング。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。

ここで既存のプロファイルの移行が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。この設定が無効になっている場合、プロファイルは移行されません。この設定が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

Profile Management を有効にする

デフォルトでは、展開を容易にするため、Profile Management はログオンまたはログオフを処理しません。Profile Management は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix® ユーザープロファイルが環境でどのように機能するかをテストした後にのみ有効にしてください。

グループポリシーを使用して Profile Management を有効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management** の下で、**Profile Management を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。

3. **有効**を選択します。

UPMPolicyDefaults_all.ini ファイルを使用して Profile Management を有効にすることもできます。これを行うには、次の手順に従います。

1. Profile Management がインストールされているマシンで、`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\UPMPolicyDefaults_all.ini` に移動します。
2. メモ帳を使用して UPMPolicyDefaults_all.ini を開きます。
3. 構成を編集して、特定の要件を反映させます。

この設定がグループポリシーで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、Profile Management は Windowsユーザープロファイルを一切処理しません。

次の方法で Profile Management を有効にすることもできます。

- Citrix Studio。Citrix Studio を使用して Profile Management を有効にする手順については、Knowledge Center の記事 CTX222893 を参照してください。
- Workspace Environment Management (WEM)。WEM を使用して Profile Management を有効にする手順については、Knowledge Center の記事 CTX229258 を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

このビデオを見て詳細はこちら**:**



構成の優先順位

プロファイル管理は、グループポリシーと.iniファイルを使用して構成できます。構成設定は次のように適用されます。

1. グループポリシーで定義された設定が優先されます。ポリシー設定が**未構成**に設定されている場合にのみ、.iniファイルが照会されます。

   注： 組織単位内のサイトやドメインにグループポリシーオブジェクトを選択的に適用する場合、さらに優先順位が適用されます。「グループポリシー：フィルタリングとアクセス許可」を参照してください。ドメインおよびOUグループポリシーは、ローカルポリシーよりも優先されます。

2. 設定がポリシーで定義されていない場合、プロファイル管理は.iniファイルから設定を読み取ろうとします。
3. 設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト設定が使用されます。

XenDesktop 7の展開では、Citrix Virtual Desktopsポリシーによって導入される追加の優先順位に注意してください。詳細については、Citrix Virtual Desktopsドキュメントのトピック「ユーザープロファイル」を参照してください。

グループポリシーと.iniファイルで同じ設定を異なる方法で構成したい場合があります。たとえば、グループポリシー設定でデフォルトのログ記録を有効にし、トラブルシューティングに使用するコンピューターで.iniファイルを使用して詳細なログ記録を有効にする場合などです。

Profile Management .ini ファイルについて

デフォルト構成

Profile Management には、.ini ファイルに保存されているデフォルト構成が付属しています。このファイルは、Profile Management Service が認識できるようにインストールフォルダーに配置する必要があります。デフォルト構成はほとんどの環境に適しています。すべてのグループのすべてのユーザーのプロファイルを処理します。

Windows XP または Windows Server 2003 で Profile Management の英語以外の展開を実行している場合は、UPMPolicyDefaults_all.ini を使用して、.ini ファイルの適切な言語バージョンを作成する必要があります。このファイルのコピーを言語に合わせて名前変更し（たとえば、スペイン語の場合は UPMPolicyDefaults_all_es.ini）、フォルダー名をローカライズします。次のファイル名を使用します。

- フランス語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_fr.ini
- ドイツ語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_de.ini
- スペイン語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_es.ini
- 日本語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_ja.ini
- 簡体字中国語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_zh-CN.ini

.ini ファイルの変更

.ini ファイルにエントリを追加する場合は、変数と値が正しい形式であることを確認してください。

フラグ（オン/オフインジケーター）は次の形式である必要があります。

```
<variable>=<value>
```

値が 1 の場合は設定が有効になり、その他の値または値がない場合は無効になります。たとえば、次のエントリは `ServiceActive` 設定を有効にします。

```
ServiceActive=1
```

次のいずれかのエントリは設定を無効にします。

```
ServiceActive=ON

ServiceActive=OFF

ServiceActive=TRUE

ServiceActive=FALSE

ServiceActive=
```

リストエントリは次の形式である必要があります。

```
<value>=
```

以下のエントリは、同期するMicrosoft Officeファイルを指定します。

```
[SyncFileList]

AppData\Local\Microsoft\Office\*.OfficeUI
```

グループポリシー設定の変更は、ターゲットコンピューターで手動または自動のポリシー更新が行われたときに有効になります。.iniファイルへの変更は、推奨されるコマンド **gpupdate /force** を発行したときに有効になります。または、ターゲットコンピューターでProfile Management Serviceを再起動したときに有効になります。

項目の包含と除外

This article describes the process that Profile Management uses to include and exclude items from users' profiles. Ensure that you understand this process if you decide to modify the default inclusion or exclusion lists to improve the logon and logoff experience of your users. To help you determine whether this modification is required, see Which applications are in use.

たとえば、Microsoft Word は高度にカスタマイズ可能で頻繁に使用されるアプリケーションであり、アクセス方法に関わらずローミングユーザーに同じエクスペリエンスを提供する必要があるため、含めることができます。逆に、一部のグループではあまり使用されないエンタープライズアプリケーションは、ログオンおよびログオフのたびにプロファイルデータをダウンロードする必要がないため、除外することができます。

デフォルトでは、ローカルプロファイル内のすべてのファイルとフォルダーはユーザーストアと同期されます。同期したくないファイルやフォルダーは、除外リストに追加することで指定できます。フォルダーを除外した場合でも、同期したいサブフォルダーは包含リストに追加することで指定できます。

含めることができる項目と除外できる項目:

- プロファイル内に含まれるファイルとフォルダー。
- 個人設定を保存するHKCUハイブのレジストリエントリ。HKLMハイブのエントリはデフォルトでは処理されず、そのように構成することもできません。

項目を含める/除外する前に

ユーザープロファイルの内容を調整する前に、組み込みのWindowsパフォーマンスモニター (Perfmon) カウンターのセットを使用することを検討してください。これらはプロファイルの動作に関する洞察を提供します。利用可能なカウンターには、プロファイルサイズやローカルコンピューターでCitrix®ユーザープロファイルを作成するのにかかった時間の測定値が含まれます。

You might need to decide whether to cache profiles locally (on the computers that run Profile Management). Factors that affect the decision include the Citrix products in your deployment, the available space on the local computers, and the number of users in the deployment.

ファイルとフォルダー

包含および除外されるすべてのフォルダー名は言語固有です。ただし、ユーザーストア内のフォルダー名は、オペレーティングシステムの言語に依存しない形式です。

オペレーティングシステムによってローカルとして扱われるディスク上のファイルまたはフォルダーを同期できます。ネットワークマップされたドライブ上のファイルまたはフォルダーは同期できません。

レジストリ

既存のユーザーの場合、HKCUハイブ全体がユーザーストアにコピーされます。新規ユーザーの場合、Microsoftのローカル、ローミング、デフォルト、またはテンプレートプロファイルのハイブがコピーされます。ユーザーストアに変更が加えられると、包含が追加され、除外がハイブから削除されます。

不要なキーを含むテンプレートプロファイルがある場合は、SepagoのProfile Nurseなどのツールを使用して、それらをユーザーストアから削除します。

除外について

除外はログオン時ではなくログオフ時に処理されます。これらはユーザーストアからデータを削除するのではなく、新しいデータが書き込まれるのを防ぎます。

デフォルトの除外を除いて、通常、Profile Managementを最初に展開するときに項目を除外する必要はありません。その後、アプリケーションのパフォーマンスを追跡し、ユーザーからのフィードバックを収集するにつれて、複数のアプリケーションの設定が競合する場合や、不要な設定を収集した結果、ユーザーのNTUSER.DATファイルが大きくなった場合に、項目を除外する必要があるかもしれません。

リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。

重要: Citrixでは、`AppData\LocalLow`フォルダーを同期から除外することを推奨しています。デフォルトの構成では、除外リストにすでに`AppData\LocalLow`が含まれています。さらに、`AppData\Local`フォルダーから一部のコンテンツを除外することもできます。`AppData\LocalLow`または`AppData\Local`を除外しない場合、大量のデータがネットワーク経由で転送され、ユーザーはログオンの遅延を経験する可能性があります。これらのフォルダーは、標準のWindowsローミングプロファイルでは同期されません。

含めるルールと除外するルール

Profile Managementがファイル、フォルダー、およびレジストリキーを含めたり除外したりする際には、以下のルールが使用されます。

1. すべての項目はデフォルトで含まれます

2. 同じパスが含める項目と除外する項目の両方として構成されている場合、含める項目が優先されます
3. 同じフォルダー内では、含める項目が除外する項目よりも優先されます
4. フォルダー階層の上位にある除外よりも、含める項目が優先されます
5. フォルダー階層の上位にある含める項目よりも、除外が優先されます

これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この出発点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を含める項目として構成するといったことができます。

既定のインクルージョンと除外

このトピックでは、Profile Management が処理に含める既定の項目と、処理から除外する既定の項目について説明します。展開内のアプリケーションによっては、追加の（既定以外の）項目が必要になる場合があります。含めるまたは除外する追加項目を決定するには、「使用中のアプリケーション」を参照してください。

重要: .ini ファイルではなくグループポリシーを使用する場合（または、.ini ファイルでのテストが成功した後でグループポリシー展開を展開する場合）、インストールされている .ini ファイルとは異なり、.adm または .admx ファイルでは既定で項目が含められたり除外されたりすることはありません。既定の項目は手動でファイルに追加する必要があります。これらの項目は、このトピックの表に示されています。以下に注意してください。

- .ini ファイルおよび .adm または .admx ファイルの設定名をマッピングし、Profile Management 変数（例: \!ctx_internetcache\!）がどのように展開されるかを理解するには、Profile Management ポリシーを使用します。
- .ini ファイルからインクルージョンと除外を貼り付ける際は、各項目から末尾の = (等号) を削除してください。
- インクルージョンと除外の先頭にバックスラッシュを追加しないでください。

レジストリインクルージョンリスト

デフォルト値
なし

レジストリ除外リスト

デフォルト値
`Software\Microsoft\AppV\Client\Integration=`
`Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing=`
`Software\Microsoft\Speech_OneCore=`

注: Microsoft App-V を使用している場合、この除外は正しくなく、異なる除外が必要です。Profile Management と App-Vに記載されています。

フォルダーインクルージョンリスト

デフォルト値
なし

プロファイル内のすべてのフォルダーは、既定で含まれます。

フォルダー除外リスト

この表のフォルダーは、同期から除外されます。

デフォルト値
!ctx_internetcache!=
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cache=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cached Theme Images=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIcons=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsOld=`
`\\!ctx_localappdata!\GroupPolicy=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\AppV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Messenger=`

デフォルト値
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Office\15.0\Lync\Tracing=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\OneNote=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Terminal Server Client=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\UEV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live Contacts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Application Shortcuts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Burn=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\CD Burning=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Notifications=`
`\\!ctx_localappdata!\Packages=`
`\\!ctx_localappdata!\Sun=`
`\\!ctx_localappdata!\Windows Live=`
`\\!ctx_localsettings!\Temp=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Microsoft\AppV\Client\Catalog=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\cache=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\log=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\tmp=`
$Recycle.Bin=
`AppData\LocalLow=`

デフォルト値
トレース=

ファイル包含リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のすべてのファイルは、デフォルトで含まれます。

ファイル除外リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のファイルは、デフォルトでは除外されません。

項目を含めるおよび除外する

前提条件として、包含と除外の仕組みを理解していることを確認してください。詳細については、「項目を含めるおよび除外する」を参照してください。デフォルトで含まれる項目と除外される項目については、「デフォルトの包含と除外」を参照してください。

項目を含めるまたは除外する際に、複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

項目を除外するには

1. **Profile Management** \> **Registry** の下で、**Exclusion list** ポリシーをクリックします。
2. **Enabled** を選択します。
3. **Show** をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで同期したくない `HKCU` ハイブ内のレジストリキーを追加します。例: `Software\Policies`。
4. **Profile Management** \> **File system** の下で、**Exclusion list - directories** ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled** を選択します。
6. **Show** をクリックし、Profile Managementで同期したくないフォルダーを追加します。

   次の点に注意してください。

- ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスを使用してフォルダーを指定し、パスから先頭のバックスラッシュを省略します。
- プロファイルの場所を特定するには、変数`%USERPROFILE%`を使用しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

  例:

  - `Desktop`. `Desktop`フォルダーは同期されません。
  - `MyApp\tmp`. `%USERPROFILE%\MyApp\tmp`フォルダーは同期されません。

7. **Profile Management** \> **File system** の下にある、**Exclusion list - files** ポリシーをダブルクリックします。
8. **Enabled** を選択します。
9. **Show** をクリックし、Profile Management で同期したくないファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) を基準としたパスでファイル名を指定します。このポリシーでは、変数 (%USERPROFILE%) を入力しないでください。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。Profile Management 7.15 以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。
   - Profile Management 2112 以降では、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `Desktop\Desktop.ini`. `Desktop`フォルダー内の `Desktop.ini` を無視します。
     - `AppData*.tmp`. `AppData`フォルダーとそのサブフォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
     - `AppData*.tmp|`. `AppData`フォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つファイルのみを無視します。
     - `Downloads*\a.txt`. `Downloads`フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を無視します。

Exclusion list が無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

Exclusion list - directoriesが無効になっている場合、フォルダは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダは除外されません。

Exclusion list - filesが無効になっている場合、ファイルは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

アイテムを含めるには

> **ヒント:**
>
> 特定のトップレベルフォルダを含めることができます。共同作業環境では、この手順により、重要なフォルダを他の管理者に通知できるという利点があります。

1. **Profile Management** \> **Registry**で、**Inclusion list**ポリシーをダブルクリックします。
2. **Enabled**を選択します。
3. **Show**をクリックし、Profile Managementがログオフ時に処理するようにしたい、`HKEY\_CURRENT\_USER`ハイブ内のプロファイル関連のレジストリキーを追加します。例: `Software\Adobe`。
4. **Profile Management** \> **File system** \> **Synchronization**で、**Directories to synchronize**ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled**を選択します。
6. **Show**をクリックし、除外されたフォルダ内にあるが、Profile Managementで同期させたいフォルダを追加します。例: `Desktop\exclude\include`は、フォルダ`Desktop\exclude`が同期されない場合でも、`include`サブフォルダが同期されるようにします。

   次の点に注意してください。

- ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してフォルダを指定します。
- Profile Management 2112以降、フォルダ名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

7. **Profile Management** \> **File system** \> **Synchronization** で、**Files to synchronize** ポリシーをダブルクリックします。
8. 「**Enabled**」を選択します。
9. 「**Show**」をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Management で同期させたいファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスでファイルを指定します。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。ただし、ワイルドカードをネストすることはできません。Profile Management 7.15 以降では、縦棒 (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーには適用されないようにすることができます。
   - Profile Management 2112 以降では、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`。デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
     - `AppData\Local\MyApp*.cfg`。`AppData\Local\MyApp` フォルダーとそのサブフォルダー内の `.cfg` 拡張子を持つすべてのファイルを指定します。
     - `Downloads*\a.txt`。`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を指定します。

   - Profile Management は、各ユーザーのプロファイル全体を、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で同期します。このリストにファイルを追加して、ユーザープロファイルに含める必要はありません。

ここで「**Inclusion list**」が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、HKEY_CURRENT_USER ハイブ全体が処理されます。

ここで「**Directories to synchronize**」が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

ここで「**Files to synchronize**」が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ワイルドカードを使用する

ファイルやフォルダーを参照するポリシーでは、疑問符 (`?`) やアスタリスク (`*`) などのDOS形式のワイルドカード文字を使用できます。例としては、ファイルの包含/除外リストやフォルダーの包含/除外リストがあります。疑問符 (`?`) は単一の文字に一致します。アスタリスク (`*`) は0個以上の文字に一致します。

Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に機能しますが、フォルダー名内のワイルドカードは機能しません。ワイルドカードを使用する場合は、有効なパスを指定してください。
- ワイルドカードをサポートするポリシーは、環境変数やActive Directory属性の使用など、他の種類の変数をサポートしていません。レジストリエントリを参照するポリシーではワイルドカードを使用できません。

例

ワイルドカード `<path name>\h*.txt` は house.txt、h.txt、house.txt.txt に一致しますが、ah.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c.txt` は abc.txt に一致しますが、ac.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c*d.txt` は abcd.txt と abccd.txt に一致しますが、acd.txt には一致しません。

プロファイルルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。
- `*h.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `h*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `a?c.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `*.txt|` は、ルートフォルダー内のみにある拡張子 .txt のすべてのファイルを指定します。

プロファイル以外のルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `AppData*.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内にある、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `AppData*h.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内にある、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

ログオン除外チェックを有効にする

ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルとフォルダーが含まれている場合、**ログオン除外チェックを有効にする**機能は、Profile Management が何を行うかを制御します。既定では、この機能は無効になっています。

除外されたファイルとフォルダーとは、それぞれ**除外リスト - ファイル**および**除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに追加するファイルとフォルダーを指します。ユーザーがログオフすると、Profile Management は除外されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期しません。ただし、除外リストに追加する前に、除外されたファイルとフォルダーがユーザー ストアに存在する場合があります。**ログオン除外チェックを有効にする**ポリシーを使用すると、ユーザーがログオンしたときに、Profile Management でそれらのファイルとフォルダーを無視するか、ユーザー ストアから削除させることができます。

この機能を使用するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルシステム**」で、**ログオン除外チェック**ポリシーをダブルクリックします。

3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。既定では、**除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**が選択されています。
5. **OK**をクリックします。

この機能には、次の3つのオプションがあります。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを削除します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを無視します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルとフォルダーを同期します。

> **警告:**

> **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**を選択すると、Profile Management はユーザー ストアから除外されたファイルとフォルダーを完全に削除します。除外されたファイルとフォルダーを再度含めた場合でも、ログオン時に Profile Management はキャッシュされたローカルプロファイルからそれらを削除します。

> 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。ログオフして再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

.iniファイルを使用してログオン除外チェックを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Management .iniファイルを開きます。.iniファイルの詳細は、Profile Management .iniファイルについてを参照してください。
2. セクションにEnableLogonExclusionCheck項目を追加します。
3. EnableLogonExclusionCheck項目の値を次のように設定します。
    - 除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーをユーザー ストアから無視するには、値を1に設定します。例：EnableLogonExclusionCheck=1。
    - 除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーをユーザー ストアから削除するには、値を2に設定します。例：EnableLogonExclusionCheck=2。

- チェックを無効にするには、値を0に設定します。例：EnableLogonExclusionCheck=0。

4. Profile Management .iniファイルを保存して閉じます。
5. 変更を有効にするには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位:

1. この設定がグループポリシーオブジェクト（GPO）で構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がGPOにも.iniファイルにも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

処理するグループプロファイルを定義する

処理するユーザープロファイルと処理しないプロファイルを定義できます。コンピューターのローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは`<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式で指定します。ローカルグループはGROUP NAMEの形式で指定します。

注： コンピューターのローカルグループは、新しく作成されたローカルグループである必要があり、メンバーはドメインユーザーである必要があります。

1. Profile Managementで、**処理済みグループ**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **表示**をクリックします。
4. Profile Managementで処理するプロファイルを持つユーザーが含まれるグループを追加します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、除外グループポリシーを使用して除外しない限り、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。
5. プロファイル管理で、除外グループポリシーをダブルクリックします。
6. 「**Enabled**」を選択します。
7. **表示**をクリックします。
8. Profile Managementで処理したくないユーザーが含まれるグループを追加します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

9. ローカル管理者のプロファイルを管理するには、Profile Managementで、**ローカル管理者のログオンを処理**ポリシーをダブルクリックし、**有効**をクリックします。

   重要： デフォルトでは、Profile Managementは使用中のオペレーティングシステムを認識し、サーバーオペレーティングシステムではなくデスクトップオペレーティングシステム上のローカル管理者のアカウントを処理します。その理由は、ユーザーは通常デスクトップでのみローカル管理者グループのメンバーであり、サーバー環境での処理からローカル管理者を除外することはトラブルシューティングに役立つためです。したがって、デフォルトの動作を変更したい場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

   除外グループポリシーは、**ローカル管理者のログオンを処理**ポリシーよりも優先されます。アカウントが両方のポリシーに表示される場合、Profile Managementはそれを処理しません。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ローカル管理者のプロファイルは処理されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザー ストアへのパスを指定する

ユーザー ストアへのパスを指定する前に、 Profile Management architecture を参照し、展開に関連する場合は、次の影響を理解してください。

- 多言語プロファイルの保存
- 含める項目と除外する項目の組み合わせ

1. Profile Management で、 ポリシーをダブルクリックします。
2. を選択し、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザー ストア）へのパスを入力します。

パスは次のいずれかです。

- **相対パス**。このパスはホームディレクトリに対する相対パスである必要があります。ホームディレクトリは通常、Active Directory (AD) のユーザーの #homeDirectory# 属性として構成されます。
- **UNC パス**。このパスは通常、サーバー共有または DFS 名前空間を指定します。

- **無効または未構成**。この場合、`\#homeDirectory#\Windows` の値が想定されます。

この設定には、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: %ProfVer%）。システム環境変数には通常、追加のセットアップが必要です。詳細については、(/ja-jp/profile-management/2206/plan/administer.html) を参照してください。
- ハッシュで囲まれた AD ユーザー オブジェクトの属性（例: #sAMAccountName#）。
- Profile Management 変数。詳細については、(/ja-jp/profile-management/2206/policies/settings.html) を参照してください。

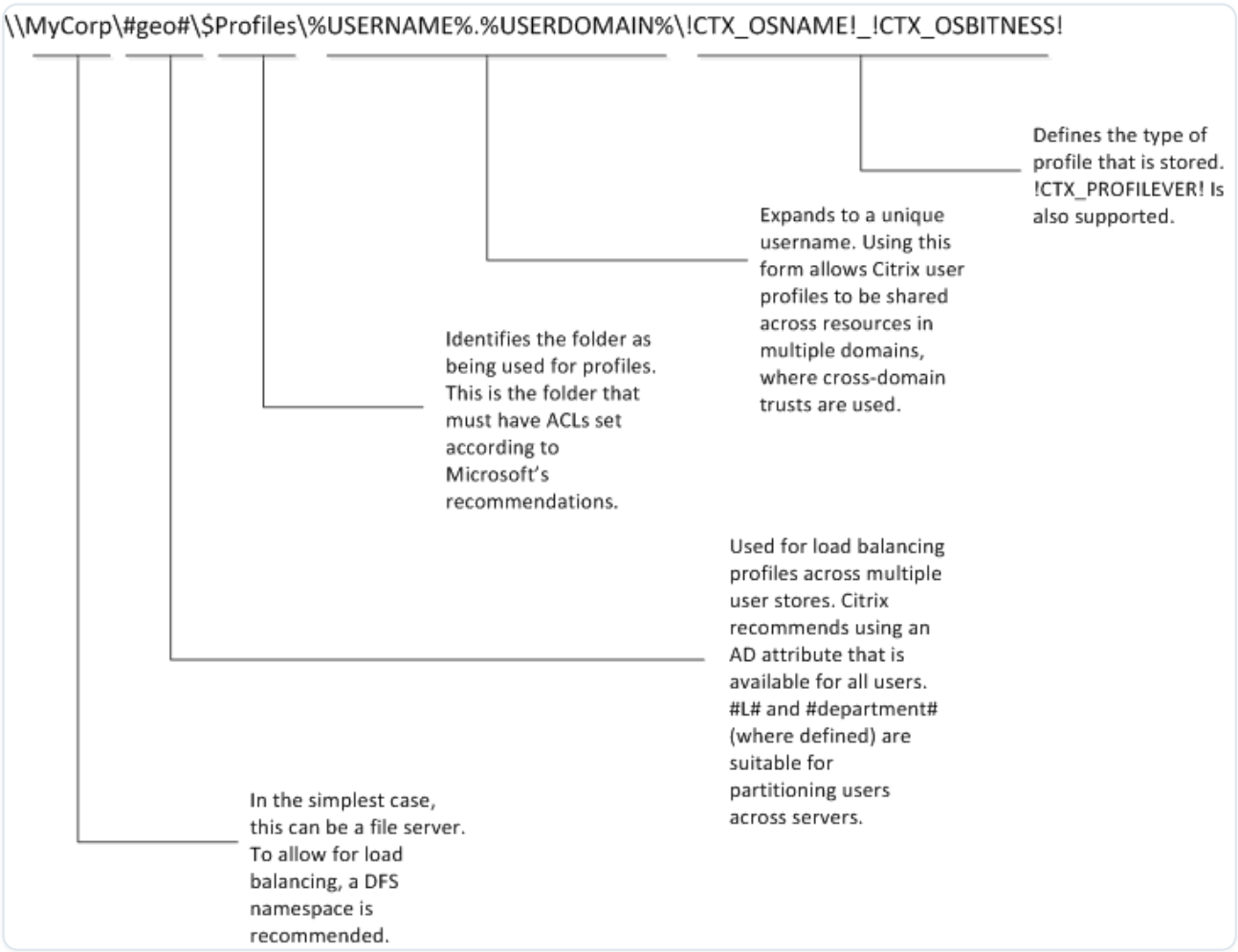
ユーザー環境変数は、`%username%` と `%userdomain%` を除いて使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を定義するために、カスタム AD 属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの #sAMAccountName# が JohnSmith に解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、この設定がNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile` に含まれている場合、ユーザー ストアへのパスを `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` として設定します (`\UPM_Profile` サブフォルダーではありません)。

この図は、AD属性、環境変数、およびProfile Management変数を組み込んだ、ユーザー ストアへの一般的なパスのコンポーネントを示しています。



ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、ホームドライブ上のWindowsディレクトリが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザー ストアをレプリケートする

Path to user storeポリシーで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフのたびに、ユーザー ストアを複数のパスにレプリケートできます。この機能は、**Replicate user stores**ポリシーを通じて実装されます。セッション中に変更されたユーザー ストアのファイルとフォルダーを同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。この機能は現在、完全なコンテナ ソリューションをサポートしていません。このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフ時間が長くなる可能性があります。

このポリシーは、Microsoft Active Directoryグループポリシー管理、Citrix Studio、および Workspace Environment Management™ (WEM) を通じて構成できます。

- Microsoft Active Directoryグループポリシー管理を通じて**Replicate user stores**ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

  a. グループポリシー管理エディターを開きます。

  b. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**Replicate user stores**ポリシーをダブルクリックします。

     Microsoft Active Directoryグループポリシー管理を通じてReplicate user storesポリシーを構成する(/en-us/profile-management/2206/media/configuring-the-replicate-user-stores-policy-through-microsoft-active-directory-group-policy-management.png)

  c. ポリシーを**Enabled**に設定し、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを設定して、**OK**をクリックします。

     レプリケートされたユーザー ストアへのパスを設定する(/en-us/profile-management/2206/media/setting-the-paths-to-replicated-user-stores.png)

     レプリケートされたユーザー ストアへのパスは、**Path to user store**ポリシーで指定されたパスとともに、リモートユーザープロファイルストレージの完全なリストを形成します。

  d. 変更を有効にするには、Profile Managementがインストールされているマシンで、コマンドプロンプトから**gpupdate /force**コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。

- Citrix Studioで**Replicate user stores**ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

  a. Citrix Studioの左ペインで、**Policies**をクリックします。

  b. **Create Policy**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「Replicate user stores」と入力します。

Citrix StudioでReplicate user storesポリシーを検索する(/en-us/profile-management/2206/media/searching-for-the-replicate-user-stores-policy-in-studio.png)

c. 「**選択**」をクリックして、「**ユーザー ストアのレプリケート**」ポリシーを開きます。

Citrix Studioでユーザー ストアのレプリケートポリシーを設定する(/en-us/profile-management/2206/media/setting-the-replicate-user-stores-policy-in-studio.png)

d. 「**有効**」を選択し、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを入力して、「**OK**」をクリックします。

> 「**注：**」:
>
> 複数のエントリを区切るには、**Enter**キーを押します。

- WEMで「**ユーザー ストアのレプリケート**」ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

a. 管理コンソールで、**ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > 詳細設定**に移動します。

WEMでユーザー ストアのレプリケートポリシーを見つける(/en-us/profile-management/2206/media/locating-the-replicate-user-stores-policy-in-wem.png)

b. 「**詳細設定**」タブで、「**ユーザー ストアのレプリケートを有効にする**」チェックボックスをオンまたはオフにし、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを設定します。

WEMでユーザー ストアのレプリケートポリシーを設定する(/en-us/profile-management/2206/media/setting-the-replicate-user-stores-policy-in-wem.png)

ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

デフォルトでは、Citrix Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザー ストアにアクセスします。そのため、現在のユーザーがユーザー ストアに直接アクセスする権限を持っている必要があります。Profile Management がユーザー ストアにアクセスする際に現在のユーザーを偽装しないようにする場合は、この機能を有効にしてください。ユーザー ストアを、現在のユーザーがアクセスする権限を持たないストレージ リポジトリ（Azure Files など）に配置できます。

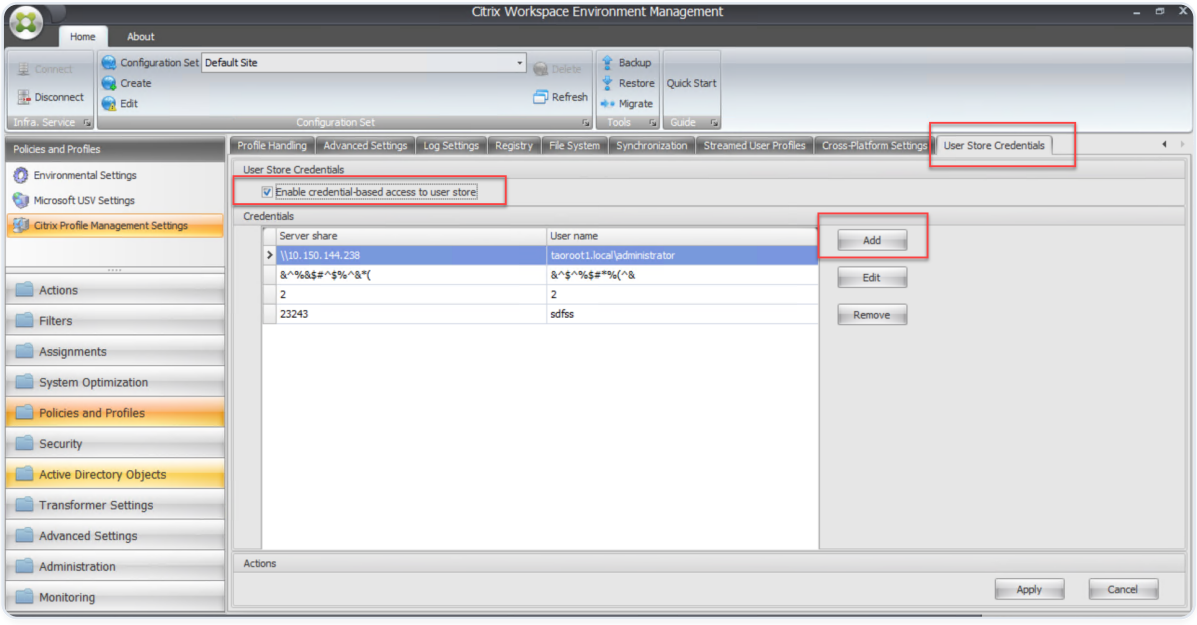
To ensure that Profile Management can access user stores, save the profile storage server's credentials in Workspace Environment Management™ (WEM) or Windows Credential Manager. We recommend that you use Workspace Environment Management to eliminate the need of configuring the same credentials for each machine where Profile Management runs. If you use Windows Credential Manager, use the Local System account to securely save the credentials.

> **注：**
>
> To ensure that NTFS permissions are retained, you must put the entire profile in a profile container.

- プロファイルストレージサーバーの資格情報をWEMに保存するには、次の手順を実行します。

  a. 管理コンソールで、 **> >** の順に移動します。

  b. タブで、 チェックボックスをオンにします。



  c. をクリックします。 ダイアログボックスが表示されます。

  WEM の「新しい資格情報」ダイアログボックス(/en-us/profile-management/2206/media/the-new-credential-dialog-box-in-wem.png)

  d. プロファイルストレージサーバーの FQDN または IP アドレスとその資格情報を入力します。

  e. をクリックして設定を保存します。

- プロファイルストレージサーバーの資格情報をWindows資格情報マネージャーに保存するには、Profile Managementが実行されている各マシンで次の手順を実行します。

  a. SysinternalsのWebサイトからPsExecをダウンロードし、ファイルを`C:\PSTools`に解凍します。

  b. **スタート**メニューから「コマンドプロンプト」を見つけます。**コマンドプロンプト**オプションを右クリックし、**管理者として実行**を選択します。コマンドシェルが起動します。

  コマンドプロンプトを管理者として実行(/en-us/profile-management/2206/media/run-command-prompt-as-an-administrator.png)

  c. `C:\PSTools\PsExec -s -i cmd`コマンドを実行します。別のコマンドシェルが起動します。

  C:\PSTools\PsExec -s -i cmd コマンドを実行した後の新しいコマンドシェル(/en-us/profile-management/2206/media/new-command-shell.png)

  d. 新しいコマンドシェルで、`rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr`コマンドを実行します。**保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログボックスが表示されます。

  rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr コマンドを実行(/en-us/profile-management/2206/media/running-a-command.png)

  e. **保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログボックスで、**追加**をクリックします。

  保存されているユーザー名とパスワードダイアログボックス(/en-us/profile-management/2206/media/the-stored-user-names-and-passwords-dialog-box.png)

  f. プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスとその資格情報を入力します。デフォルトの資格情報タイプを使用します。**OK**をクリックします。

  プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスを入力(/en-us/profile-management/2206/media/type-fqda-or-ip-address-of-your-profile-storage-server.png)

ユーザーストアの移行

プロファイル管理は、データ損失なしにユーザーストアを移行するソリューションを提供します。この機能は、ユーザーストアをよりスケーラブルなファイルサーバーに移行したい場合に役立ちます。

ユーザーストアを移行するには、「ユーザーストアの移行」ポリシーを「ユーザーストアへのパス」ポリシーと併用します。「ユーザーストアの移行」ポリシーでは、ユーザー設定（レジストリ

の変更と同期されたファイル）が以前に保存されていたフォルダーへのパス（以前使用していたユーザーストアパス）を指定できます。

パスは、絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスのいずれかです。どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- システム環境変数（パーセント記号で囲まれています）
- Active Directoryユーザーオブジェクトの属性（ハッシュ記号で囲まれています）

例：

- フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザーストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します（%ProfileVer% が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合）。
- `\\server\share#SAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します（`#SAMAccountName#` が現在のユーザーに対して JohnSmith に解決される場合）。

パスでは、`%username%` および `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できません。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルからの対応する設定が使用されます。

ここまたは.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

ポリシー設定の変更が有効になると、以前のユーザーストアに保存されていたユーザー設定は、「**ユーザーストアへのパス**」ポリシーで指定された現在のユーザーストアに移行されます。

グループポリシーでユーザーストアの移行を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management** の下で、**ユーザー ストアの移行**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **オプション**ペインで、以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザーストアの移行」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**ユーザー ストアの移行**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

証明書を保存する

セッション中に証明書ストアにインポートされた個人証明書を保存するには、この手順に従ってください。デフォルトでは、証明書は自動的に同期されます。

1. 設定 **同期するディレクトリ** にパス `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` を追加します。オペレーティングシステムの言語によって、この場所のアプリケーションデータフォルダーが決まります。ポリシーを使用して多言語システムを構成する場合は、各言語の場所をリストに追加します。

例

英語システムでは、パスは `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` です。ドイツ語システムでは、`Anwendungsdaten\Microsoft\SystemCertificates\My` です。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザープロファイルのストリーミング

既定では、Citrix Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザープロファイル全体をユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチします。ユーザープロファイル内

の大きなファイルは、ログオンを遅くする可能性があります。ユーザーのログオンエクスペリエンスを向上させるには、プロファイルストリーミング機能を有効にできます。

この機能を有効にすると、Profile Management は、ログオン後にアクセスされた場合にのみプロファイルファイルとフォルダーをフェッチします。

> **注:**
>
> ユーザープロファイルには、ファイル、フォルダー、およびレジストリエントリが含まれます。この機能はファイルとフォルダーに適用されますが、レジストリエントリには適用されません。レジストリエントリは、ユーザーログオン時に常にフェッチされます。

プロファイルストリーミング機能を有効にする

次のポリシーを使用して、プロファイルストリーミング機能を有効にします。

- **プロファイルストリーミング。** このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル*ファイル*がローカルコンピューターにフェッチされます。
- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。** このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル*フォルダー*がローカルコンピューターにフェッチされます。

ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ストリーミングされたユーザープロファイル**にアクセスします。
3. **プロファイルストリーミング**をダブルクリックします。「**有効**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
4. **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**をダブルクリックします。「**有効**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

プロファイルストリーミングの機能強化を有効にする

プロファイルストリーミング機能を有効にした後、必要に応じてさまざまな機能強化を適用できます。

例1：ユーザーから、大きなプロファイルファイルの読み込みが遅いという報告がありました。この場合、**常にキャッシュ**ポリシーを有効にし、大きなファイルの最小サイズを指定します。Profile Managementは、そのサイズより大きいファイルをユーザーログオン*中に*ローカルプロファイルにキャッシュします。

例2：組織内で、ユーザーが特定のプロファイルフォルダーに頻繁にアクセスします。そのため、プロファイルストリーミングが有効になっている場合でも、ユーザーログオン時にそれらのフォルダーをローカルプロファイルにフェッチしたいと考えています。この目標を達成するには、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーを有効にし、それらのフォルダーをプロファイルストリーミングから除外します。

必要に応じて拡張機能を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ストリーミングユーザープロファイル**にアクセスします。
2. 大きなファイルの読み込み時間を短縮するには、Profile Managementで大きなファイルをログオン*中に*ローカルプロファイルにキャッシュするように有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

    a. **常にキャッシュ**をダブルクリックします。

    b. 「**Enabled**」を選択します。

    c. キャッシュするプロファイルファイルのサイズの下限 (MB) を設定します。プロファイル全体をキャッシュするには、制限をゼロに設定します。

    注:

    - 制限を超えるファイルは、Profile Managementがユーザーログオン*中に*バックエンド処理スレッドを開始するとすぐに、ローカルプロファイルにキャッシュされます。
    - 制限を下回るファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルプロファイルにフェッチされます。

    d. **OK**をクリックします。

3. プロファイルストリーミングをドメイン内の特定のユーザーグループにのみ適用するには、次の手順に従います。

    a. **ストリーミングユーザープロファイルグループ**をダブルクリックします。

    b. 「**Enabled**」を選択します。

    c. ユーザーグループのリストを入力します。エントリを区切るには`Enter`を押します。

d. **OK**をクリックします。

注：デフォルトでは、このポリシーは無効になっており、プロファイルストリーミングはドメイン内のすべてのユーザーグループに適用されます。

4. 特定のプロファイルフォルダーとファイルをプロファイルストリーミングから除外するには、次の手順に従います。

   a. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。

   b. 「**Enabled**」を選択します。

   c. 「**表示**」をクリックします。

   d. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。詳細については、この記事の後半にあるプロファイルストリーミングの除外を有効にするを参照してください。

5. 同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、次の手順に従います。

   a. 「**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**」をダブルクリックします。

   b. 「**Enabled**」を選択します。

   c. 「**OK**」をクリックします。 詳細については、この記事の後半にある保留領域のプロファイルストリーミングを参照してください。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳細については、`<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb490983.aspx>`を参照してください。

構成の優先順位

ストリーミングされたユーザープロファイルの各ポリシーの構成の優先順位は次のとおりです。

- GPOまたは.iniファイルで**プロファイルストリーミング**が構成されていない場合、**プロファイルストリーミング**は無効になります。
- GPOで**常にキャッシュ**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、無効になります。
- **ストリーミングされたユーザープロファイルグループ**が無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。この設定がGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

- GPOまたは.iniファイルで**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**が構成されていない場合、フォルダーのプロファイルストリーミングは無効になります。
- GPOまたは.iniファイルで**プロファイルストリーミングの除外を有効にする**が構成されていない場合、すべてのフォルダーがストリーミングされます。
- GPOまたは.iniファイルで**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**が構成されていない場合、保留領域のプロファイルストリーミングは無効になります。

プロファイルストリーミング除外を有効にする

プロファイルストリーミングの除外が有効になっている場合、Profile Managementは除外リスト内のフォルダーをストリーミングしません。除外リスト内のすべてのフォルダーとファイルは、ユーザーがログオンしたときにユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

プロファイルストリーミングの除外を有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Managementで、**ストリーミングされたユーザープロファイル**をダブルクリックします。
2. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **表示**をクリックします。
5. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。フォルダー名は、絶対パスまたはユーザープロファイルに対する相対パス (`%USERPROFILE%`) として指定できます。その変数を使用してプロファイルの場所を特定しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。パスの先頭のバックスラッシュは省略します。

例:

- Desktop。Desktopフォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。
- `MyApp\tmp` 。 `%USERPROFILE%\MyApp\tmp` フォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイル内の次のフォルダーはデフォルトで除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`

- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

注:

- このポリシーは、プロファイルストリーミングが有効になっている場合にのみ有効になります。
- このポリシーは、ワイルドカード `*` および `?` をサポートしていません。
- エントリを区切るには、`Enter` と入力します。
- プロファイルストリーミング除外リストを手動で編集する場合は、ログオンがハングアップするのを避けるために、前述のデフォルトで除外されているフォルダーを追加する必要があります。

保留領域のプロファイルストリーミング

Profile Managementは、保留領域を使用して、同じユーザーの同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、その領域はプロファイルストリーミング機能の例外です。この機能が有効になっている場合でも、その領域のファイルとフォルダーは、ユーザーがログオンするときにローカルプロファイルにフェッチされます。

同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、プロファイルストリーミング機能の拡張として、**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**機能を有効にします。このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、ユーザーがログオンするときではなく、アクセスするときに保留領域のファイルとフォルダーをローカルプロファイルにフェッチします。その領域に大きなファイルがある場合、ユーザーのログオン時間が大幅に短縮されます。

フォルダーリダイレクトの構成

フォルダーリダイレクトはMicrosoft Windowsの機能であり、Profile Managementと併用できます。

> **重要:**
>
> フォルダーリダイレクトは、Microsoft Active Directory (AD) GPOまたはCitrix®ポリシーのいずれかの方法のみを使用して構成してください。複数の方法を使用してフォルダーリダイレクトを構成すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

> フォルダーリダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. 該当するユーザーを、Profile Managementが管理するOUに移動します。
2. GPOを作成し、編集用に開きます。
3. **ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > フォルダーリダイレクト**に移動し、リダイレクトするフォルダーを選択します。
4. `<folder name>`フォルダーのリダイレクトポリシーを有効にし、リダイレクトされたパスを入力します。リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。パスにユーザー名やフォルダー名を追加しないでください。たとえば、**デスクトップ**フォルダーへのパスを`\\server\share\`として設定した場合、ユーザー環境内のフォルダーは`\\server\share\<user name>\Desktop`としてリダイレクトされます。
5. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

次のフォルダーをリダイレクトできます。

- AppData(ローミング)
- デスクトップ
- スタートメニュー
- ドキュメント
- 画像
- 音楽
- ビデオ
- お気に入り
- 連絡先
- ダウンロード
- リンク
- 検索
- 保存されたゲーム

フォルダーをリダイレクトする際は、次の点に注意してください。

- **ドキュメント**フォルダー。ユーザーのホームディレクトリにリダイレクトできます。

- **ミュージック**、**ピクチャ**、**ビデオ**フォルダー。これらは**ドキュメント**フォルダーを基準としたフォルダーにリダイレクトできます。

フォルダーリダイレクトが機能することを確認する方法

フォルダーリダイレクトが機能することを確認するには、次の手順を実行します。

1. セッションで、リダイレクトしたフォルダーに移動し、フォルダーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. プロパティウィンドウで、**ショートカット**タブに移動し、**ターゲット**フィールドを確認します。フィールドにリダイレクトされたパスが表示されている場合、フォルダーリダイレクトは機能しています。そうでない場合、フォルダーリダイレクトは機能していません。

フォルダーリダイレクトのログ

> **注:**
>
> Profile Managementは、フォルダーリダイレクトが失敗した場合にのみ、Windowsイベントログに情報を書き込みます。

> Profile ManagementはWindowsイベントログに情報を書き込みます。イベントは、Windowsイベントビューアーの**アプリケーション**ペインで確認できます。この情報は、フォルダーリダイレクト機能の使用時に発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

トランザクションフォルダを管理する

トランザクションフォルダとは、相互に依存するファイル（あるファイルが他のファイルを参照する）を含むフォルダを指します。**ミラーするフォルダ**ポリシーは、プロファイル同期中にトランザクションフォルダの整合性を確保します。このポリシーにより、Profile Managementはユーザーデータストアとローカルユーザープロファイルの間でトランザクションフォルダ全体をミラーリングします。

フォルダミラーリングの高速化ポリシーは、Profile Management 2106以降で利用可能です。

フォルダミラーリングの仕組み

通常、Profile Managementがユーザーデータストアとローカルプロファイル間でユーザープロファイルを同期する場合、タイムスタンプを比較して更新されたファイルのみを同期します。しかし、トランザクションフォルダ内のファイルは関連付けられているため、Profile Managementは

整合性の問題を避けるためにフォルダ全体を同期する必要があります。トランザクションフォルダの例としては、トランザクションログファイルとそれに対応するデータベースファイルを含むフォルダが挙げられます。異なるセッションからのトランザクションログファイルとデータベースファイルを混在させると、トランザクションの整合性の問題を引き起こす可能性があります。

トランザクションフォルダを正しく同期するために、Profile Managementは**ミラーするフォルダ**ポリシーを提供します。トランザクションフォルダを同期先と同期する際、Profile Managementは以下の手順でフォルダを同期先にミラーリングします。

1. フォルダ内のすべてのコンテンツを、タイムスタンプを無視して同期先にコピーします。
2. 同期先にある追加のコンテンツを削除します。

> **注意：**
>
> トランザクションフォルダをミラーリングするということは、「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。複数のセッションで変更されたファイルは、最新の更新によって上書きされ、プロファイルの変更が失われる可能性があります。

ミラーするフォルダを指定する

ミラーするフォルダポリシーを有効にし、ミラーするフォルダを指定します。

Google Chromeを例にとってみましょう。`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`内のブックマーク関連ファイルとサブフォルダは相互に依存しており、プロファイル同期中に全体として処理される必要があります。この目的を達成するには、このフォルダを**ミラーするフォルダ**ポリシーに追加する必要があります。

ミラーするフォルダからファイルやサブフォルダを除外することもできます。前の例では、`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`フォルダにはブックマークとは無関係のファイルやサブフォルダも含まれています。それらを除外するには、**除外リスト – ディレクトリ**および**除外リスト – ファイル**ポリシーを使用できます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 「**Profile Management \> File system \> Synchronization**」に移動し、「**Folders to mirror**」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. 「**List of folders to mirror**」フィールドに、ユーザー ストアへの相対パスの形式でミラーリングするフォルダーのリストを入力します。フォルダーを区切るには`Enter`と入力します。

> **注：**
>
> このポリシーは再帰的に機能します。サブフォルダーをリストに追加しないでください。
>
> たとえば、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`を追加する場合、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies\Low`は追加しないでください。

4. 「**OK**」をクリックします。
5. ミラーリングされたフォルダー内の特定のファイルとサブフォルダーをミラーリングプロセスから除外するには、次の手順に従います。

   a. 「**Profile Management \> File system**」に移動し、「**Exclusion list – directories**」ポリシーまたは「**Exclusion list – files**」ポリシーをダブルクリックします。

   b. 除外するファイルとサブフォルダーを指定します。

構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーミラーリングの高速化

Profile Management 2106以降では、「**Accelerate folder mirroring**」ポリシーを有効にすることで、フォルダーミラーリングを高速化できます。

このポリシーを有効にすると、Profile Management はミラーリングされたフォルダーを VHDX ベースの仮想ディスクに保存します。Profile Management はログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチするため、ユーザー ストアとローカル プロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなります。

このポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **OK**をクリックします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する

この記事は、Profile Management 3.1以降に適用されます。

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する際は、プロファイルの肥大化を抑えつつ、トランザクションの整合性を確保する必要があります。この目標を達成するには、**ミラーするフォルダー**ポリシーと**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを使用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. ミラーするCookieフォルダーを指定する。
2. プロファイルの肥大化の問題が発生した場合は、ユーザーログオフ時に古いCookieの削除を有効にする。

変更を有効にするには、このMicrosoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

概要

このセクションでは、2つのポリシーがCookieフォルダーの管理にどのように役立つかを説明します。

Internet Explorer 8のCookieフォルダーを例にとってみましょう。このフォルダーには、index.datとCookieファイルが含まれています。ユーザーがインターネットを閲覧すると、index.datがCookieファイルを参照します。たとえば、ユーザーが異なるデバイスからそれぞれ2つのInternet Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスした場合、各サイトからのCookieは対応するデバイスに追加されます。

トランザクションの整合性を確保する方法

上記の例で、ユーザーが両方のセッションからログオフしたときに何が起こるかを見てみましょう。セッションからのCookieはマージされ、index.datファイルは最後にログオフしたセッションのものと同期されます。その結果、Cookieファイルとindex.dat内のそれらのCookieファイルへの参照が一致しなくなります。

ミラーするフォルダーポリシーがこの問題を解決します。このポリシーを設定すると、Profile Managementはプロファイル同期中にフォルダー全体を宛先にコピーします。このポリシーの動作の詳細については、トランザクションフォルダーを管理するを参照してください。

プロファイルの肥大化を回避する方法

新しいセッションでのブラウジングは、Cookieフォルダーの肥大化につながります。また、ウェブサイトを再訪問すると、古いCookieが蓄積されます。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーは、ユーザーログオフ時にプロファイルから古いCookieを削除することで、この問題を解決します。

> **注意:**
>
> Internet Explorer 9以前のCookieと閲覧履歴情報は、Internet Explorer 10以降のCookieと閲覧履歴情報とは互換性がありません。ユーザーは、異なるバージョンのInternet Explorerがインストールされている複数のシステム間で移動しないことをお勧めします。\[#474200\]

ミラーリングするCookieフォルダーを指定する

ミラーリングするフォルダーポリシーを有効にします。このポリシーで、展開でサポートされているOSのバージョンに基づいて、ミラーリングするCookieフォルダーを指定します。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **ミラーリングするフォルダーのリスト**フィールドで、次のCookieフォルダーを追加します。フォルダーを区切るには`Enter`を使用します。
   - `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` バージョン2プロファイルの場合。
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies` (Windows 8.1以降のCookieフォルダー)
   - `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` (Windows 7およびWindows 8のCookieフォルダー)
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache` (Internet Explorer 10以降で利用可能で、Cookieデータベースファイル`Webcache01.dat`が保存されるフォルダー)
5. **OK**をクリックします。

6. Profile Management 2106以降を使用している場合、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックし、**有効**を選択します。

(オプション) ログオフ時に古いCookieを削除する

ユーザーログオフ時にProfile Managementで古いCookieを削除するには、**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを有効にします。

このポリシーはログオフ時間を増加させるため、プロファイルの肥大化の問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

1. **Profile Management** > **詳細設定**に移動します。
2. **ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OK**をクリックします。

クロスプラットフォーム設定の構成

クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション

この記事では、Profile Management のこのリリースにおけるクロスプラットフォーム設定機能でサポートされるアプリケーションとオペレーティングシステム (OS) について説明します。

定義ファイルについて

定義ファイルには、選択された Windows アプリケーションの共通のパーソナライズ設定が含まれています。各ファイルとその中の定義により、ユーザーは複数の OS 上で同じアプリケーションに接続でき、各プラットフォームで実質的に同一のプロファイルが提示されます。たとえば、ユーザーは Microsoft Office の2つのインスタンスにアクセスする場合があります。1つは Windows 7 仮想デスクトップにインストールされ、もう1つは Windows Server 2003 上で Citrix Virtual Apps™ を使用して公開されています。どちらのインスタンスにアクセスしても、ユーザーの Office エクスペリエンスは一貫しています。

事前構成された定義ファイルは、クロスプラットフォーム設定機能の重要な側面です。サポートされている各アプリケーションには定義ファイルがあります。定義ファイルは XML 形式です。

重要: アプリケーションのすべての OS における動作を徹底的に分析し、この機能の操作を完全に理解することなく定義ファイルを編集すると、ユーザープロファイルに予期しない変更が生じ、トラブルシューティングが困難になる可能性があります。このため、Citrix® は提供されている定

義ファイルの編集や新しい定義ファイルの作成をサポートしていません。さらに、Windows ユーザープロファイルの性質上、一部のアプリケーション設定は OS 間で複製できません。

さらに、この機能はレジストリおよびアプリケーション設定には適していますが、ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト (たとえば、ブラウザのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など) には適していないことに注意してください。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされている任意のシングルセッション OS 間、およびサポートされている任意のマルチセッション OS 間でプロファイルをローミングできます。

以下がサポートされています (該当する場合は x86 および x64 バージョン):

- **シングルセッション OS**。Windows XP、Windows 7、および Windows Vista。
- **マルチセッション OS**。Windows Server 2003、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2。

サポートされる Citrix 製品

クロスプラットフォーム設定機能は、以下の Citrix 製品をサポートしています。

- Windows Server 2003 以降に対応した XenApp® 5 Feature Pack
- XenDesktop® 4 以降

サポートされるアプリケーション

このリリースでは、以下の定義ファイルが利用可能です。XMLファイル名には、サポートされるアプリケーションとバージョンが示されています。

- **Internet Explorer 7 Plus.xml**。このファイルは、Internet Explorerのバージョン7、8、9の（お気に入りを除く）プラットフォーム間でのローミングをサポートします。お気に入りおよびフィードのローミングはサポートされていません。
- **Office 2007.xml** ファイル。
- **Office 2010.xml** ファイル。
- **Wallpaper.xml**。このファイルは、デスクトップの壁紙のプラットフォーム間でのローミングをサポートします。テーマのプラットフォーム間でのローミングはサポートされていません。

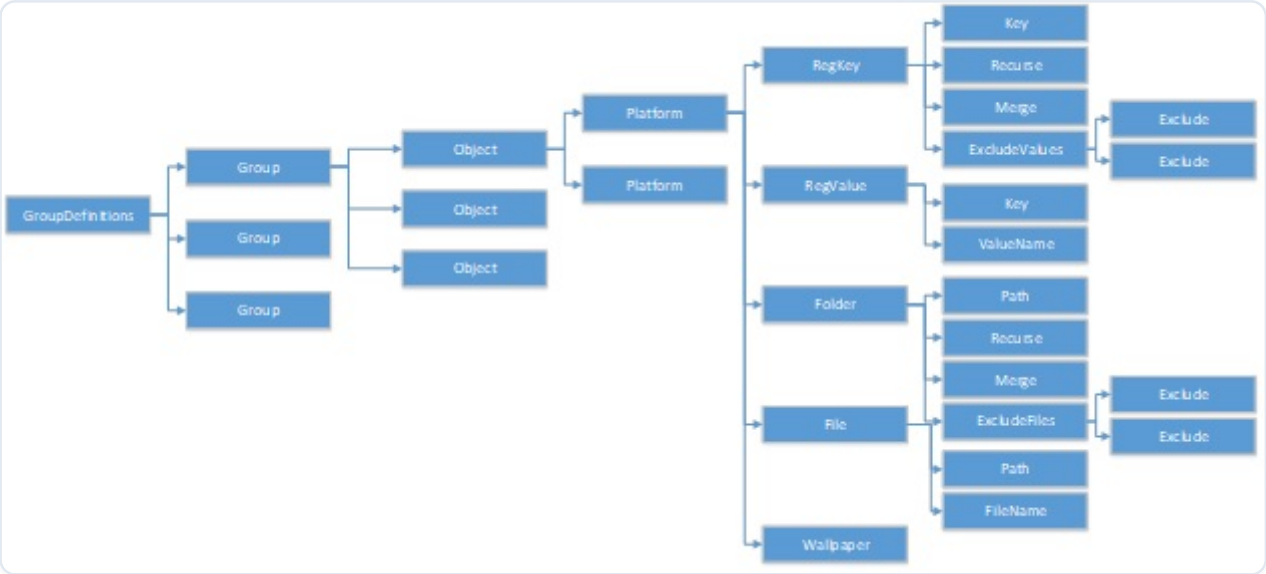
重要: 各アプリケーションの定義ファイルは、上記のサポートされているシナリオでのみ使用してください。たとえば、Internet Explorer 7 Plus.xmlは、そのブラウザの複数のバージョン間で設定

をローミングします。しかし、Office 2007.xmlまたはOffice 2010.xmlを使用して、Officeのバージョン間で設定をローミングすることはできません。

アプリケーション定義ファイルの構造

この記事では、Profile Managementアプリケーション定義ファイルのXML構造について説明します。この構造は、アプリケーションプロファイラーとクロスプラットフォーム設定の両方に適用されます。

アーキテクチャ図



- XML宣言とエンコーディング属性

  XML宣言では、属性\<?xml version="1.0"\>を指定する必要があります。

  Encoding="UTF-8"は推奨される属性です。

- GroupDefinitions

  グループのコレクションのコンテナ。XMLドキュメントのルート要素として機能します。その属性には、versionとGUIDが含まれます。これらは必須属性です。

- グループ

  サブアプリケーションの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- オブジェクト

  サブアプリケーションの1つの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- プラットフォーム

Platformは、異なるオペレーティングシステムで異なる定義を提供します。オペレーティングシステムを指定するために、オプションの属性OSVersionNumberを使用できます。属性がない場合、すべてのプラットフォームが設定の内部定義を受け入れます。Platformには、次のいずれかの要素が含まれている必要があります: RegKey, RegValue, File, Folder, および Wallpaper。

- RegKey

  レジストリ内のキーとして設定を定義します。Key要素を含める必要があります。オプションのサブ要素として、RecurseとMergeの2つが含まれます。RecurseとMergeは、Profile Managementがキーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素はExcludeValuesです。ExcludeValuesは、除外できるレジストリ値を定義します。

- RegValue

  レジストリ内の値として設定を定義します。親キーのパスを指定するためにKeyを含める必要があります。

- フォルダー

  設定をフォルダーとして定義します。フォルダーのパスを指定するためにPathを含める必要があります。オプションのサブ要素として、`Recurse`と`Merge`があります。RecurseとMergeは、Profile Managementがフォルダーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素は`ExcludeFiles`で、除外できるファイルを定義します。

- ファイル

  設定をファイルとして定義します。親フォルダーのパスを指定するためにPathを、ファイルの名前を指定するために`FileName`を含める必要があります。

- 壁紙

  すべての壁紙設定を定義します。属性やサブ要素は不要です。Profile Managementはこれらの設定を自動的にローミングします。

- Key

  レジストリキーのパス、または親レジストリキーのパスを指定します。KeyはRegKeyとRegValueのサブ要素です。

- ValueName

  レジストリ値の名前を指定します。これはRegValueのサブ要素です。

- パス

フォルダのパスまたは親フォルダのパスを指定します。これはFolderとFileのサブ要素です。Profile Managementの変数を採用できます。

- FileName

  ファイル名を指定します。これはFileのサブ要素です。

- 再帰

  RegKeyとFolderのオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Managementはキーとフォルダを再帰的にローミングします。

- マージ

  RegKeyとFolderのオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Managementはキーとフォルダをマージします（ただし、置換はしません）。

- ExcludeValues

  RegKeyのオプションのサブ要素です。キーをローミングする際に除外できる値を指定します。

- ExcludeFiles

  Folderのオプションのサブ要素です。フォルダをローミングする際に除外できるファイルを指定します。

- 除外

  ExcludeValuesとExcludeFilesのサブ要素です。ファイルまたはレジストリ値の除外項目を指定します。

注

ドキュメントが正しい構文形式であることを確認してください。Profile Managementは、これらのファイルがロードされるときに、CPSValidationSchema.xsd検証ファイルを使用してこれらのファイルをチェックします。検証ファイルはProfile Managementのインストールパスの下にあります。Profile Managementは不正なファイルを無視し、エラーメッセージをログに記録します。

サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



<!-- Copyright 2011 Citrix Systems, Inc. All Rights Reserved. -->



&lt;GroupDefinitions GUID="748E63D3-426E-4796-9C32-420B25DB2D9F"
Version="4.0.0.0">



<!-- Application Settings -->



&lt;Group GUID="0FCCCF29-0A0E-482d-A77E-3F39A8A854A6" Name="Application
Settings">



<!-- Registry Key Setting Example -->



&lt;Object GUID="637EC13C-2D47-4142-A8EB-3CEA6D53522A"
Name="Software\Application\certain key">



&lt;Platform>



&lt;RegKey>



&lt;Key>Software\Microsoft\Office\certain key&lt;/Key>
```

```
&lt;Merge/>

&lt;Recurse/>

&lt;ExcludeValues>

&lt;Exclude>excluded value 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeValues>

&lt;/RegKey>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Registry Value Setting Example -->
```

```
&lt;Object GUID="3C896310-10C4-4e5f-90C7-A79F4E653F81"
Name="Software\Application\certain value">


<!-- Folder Setting Example -->


&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder">


&lt;Platform>


&lt;Folder>


<!-- We can use Citrix variable if necessary -->


&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder&lt;/Path>


&lt;Merge/>


&lt;Recurse/>


&lt;ExcludeFiles>
```

```
&lt;Exclude>excluded file 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeFiles>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- File Setting Example -->

&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\file.txt">

&lt;Platform>

&lt;File>
```

```
<!-- We can use Citrix variable if necessary -->

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application&lt;/Path>

&lt;FileName>file.txt&lt;/FileName>

&lt;/File>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Setting based on different OS -->

&lt;Object GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder">

<!-- Assuming that the folder locates differently when in different
platforms -->

&lt;Platform OSVersionNumber="6.1">
```

```
<!-- Win7 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;Platform OSVersionNumber="10.0">

<!-- Win10 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>
```

```
&lt;/Folder>


&lt;/Platform>


&lt;/Object>


&lt;/Group>


&lt;/GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。Windows 2003システムへの一般的な投資を考慮すると、かなりの共存期間が予想されます。この機能は、移行と継続的な共存の両方をサポートすることが期待されています。

このケーススタディは、Office 2007が稼働している既存のWindows 7およびWindows 2008環境から始まり、Windows 8の共有プロビジョニング済み仮想デスクトップを追加します。

このケーススタディは以下で構成されます。

- 初期構成
- 新しいサイトの計画
- 計画の実行
- その他の考慮事項

計画を実行する

フェーズ1：新しいファイルサーバーを構成する

NewDomainにファイルサーバーをセットアップし、クロスプラットフォーム設定を管理します(`\\FileServ3`) および `2k12_Farm` のプロファイルを保存します(`\\FileServ2`)。

このケースでは、プロファイル用とクロスプラットフォーム設定用に別々のファイルサーバーをセットアップすることを選択します。この方法は厳密には必須ではありませんが、クロスプラットフォーム設定サーバーを利用可能にする簡単な方法です。プロファイルサーバーは、例えばDFS名前空間を使用するなど、異なる設計になっている可能性があり、その実装には時間がかかる場合があります。

どちらの場合も、共有フォルダー上の移動ユーザープロファイルのセキュリティ推奨事項に従ってサーバー共有を設定します。詳細については、 `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/folder-redirection/deploy-roaming-user-profiles>` を参照してください。

フェーズ2：2k8_Farm内のマシンをProfile Management 5.0にアップグレードする

手順については、Profile Managementのアップグレードを参照してください。

フェーズ3：展開する定義ファイルを選択する

Microsoft Office、Internet Explorer、およびWindowsの壁紙用に、いくつかの構成ファイル（定義ファイルと呼ばれます）が提供されています。

重要：Citrix®の担当者から指示がない限り、これらのファイルを更新しないでください。

展開に関連する構成ファイルを選択し、これらのファイルのみを `\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions` にコピーします。この例では、Office 2007.xmlのみをコピーします。

フェーズ4：2k8_Farm内のマシンをProfile Management 5.0用に構成する

アップグレードが完了したら、クロスプラットフォーム設定機能を（部分的に）有効にするために、以下の構成変更を行います。この段階では、 `\\FileServ3\CrossPlatform` のみが利用可能である必要があります。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`	変更なし。このパスはOldDomainユーザーのみが使用するため、NewDomainユーザーをサポートするため

ポリシー	値	注
		に変更する必要はありません。
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	クロスプラットフォーム設定ストアは両方のドメインのユーザーによって共有されるため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	有効	ユーザーがNewDomainリソースにアクセスする前に、OldDomainからのクロスプラットフォーム設定がクロスプラットフォーム設定ストアの初期化に使用されるようにします。

マシンログオンスクリプトに変更は必要ありません。

フォルダーリダイレクトポリシーに変更は必要ありません。

OU `2k8_Farm`はこれで実行状態のままにできます。ユーザーがログオンすると、Profile Managementは定義ファイルOffice 2007.xmlで識別された設定をクロスプラットフォーム設定ストアにコピーします。

フェーズ5：2k12_Farmのマシンを準備する

ファイルサーバーが`2k8_Farm`にセットアップされたので、Citrix仮想デスクトップサイトを構築する時が来ました。Windows 7仮想デスクトップが実行されているときにProfile Management 5.0をインストールします。以下に適切な構成を示します。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ2\Profiles\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\%ProfVer%`	このファイル共有は両方のドメインのユーザーによって使用されるため、ドメイン情報を含めることも重要です。
アクティブライトバック	無効	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	両方のドメインのユーザーがクロスプラットフォーム設定ストアを共有するため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	無効	クロスプラットフォーム設定ストアでのプロファイルデータの初期設定にNewDomainからの設定が使用されるのを防ぎます。これにより、OldDomainからの設定が優先されるようになります。

システム環境変数%ProfVer%を設定するマシンログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 2012上のXenAppサーバー	ウィン2012x64	計画されている64ビットサーバーが利用可能になったときに必要です。詳細については、「その他の考慮事項」を参照してください。
Windows 7デスクトップ	Win7	Windows 7の32ビット版と64ビット版の両方が展開されている場合、それぞれに個別のプロファイルを持つことをお勧めします。そのため、%ProfVer%は各プラットフォームで異なるように構成する必要があります。

したがって、OldDomainユーザーのjohn.smithは、Windows 7デスクトップ用に`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win7`に、Citrix仮想アプリサーバー用に`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

そして、NewDomainユーザーのwilliam.brownは、Windows 7デスクトップ用に`\\FileServ2\Profiles\william.brown .NewDomain\Win7`に、XenAppサーバー用に`\\FileServ2\Profiles\william.brown.NewDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

繰り返しになりますが、グループポリシーを使用してフォルダーリダイレクトを設定します。ドメインはWindows Server 2012に基づいているため、フォルダーリダイレクトは**<Group Policy Object Name\>** \> **ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダー リダイレクト**から設定します。

ポリシー	値
お気に入り	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Favorites`
マイドキュメント	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Documents`

%USERDOMAIN%がフォルダーリダイレクトパスに追加されました。このポリシーはNewDomainユーザーにのみ適用されるため、この設定は必須ではありません。しかし、将来的に

OldDomainユーザーを同じサーバーに移行することを決定した場合に役立つ可能性があります。今のところ、OldDomainユーザーはOldDomainからのフォルダーリダイレクトポリシーを引き続き使用し、フォルダーは`\\FileServ1`にリダイレクトされます。

フェーズ6：ライブテスト

テストは2つの段階で実行します。

1. NewDomainのユーザーのプロファイルデータが正しく動作することを確認します。これらのユーザーは、クロスプラットフォーム設定ストアにデータが設定されていません。クロスプラットフォーム設定を作成するためのポリシーソースが無効に設定されているため、プロファイルの変更はOldDomainに伝播しません。
2. OldDomainの数人のユーザーでテストします。初めてログオンすると、クロスプラットフォーム設定データがプロファイルにコピーされます。その後のログオンでは、いずれかのドメインからの変更がもう一方のドメインにコピーされます。OldDomainのユーザーがNewDomainにログオンし、プロファイルデータが存在しない場合（OldDomainがProfile Management 5.0にアップグレードされて以来、ユーザーがOldDomainでプロファイルを使用していないため）、クロスプラットフォーム設定ストアは更新されません。このトピックで説明されている構成では、ユーザーは設定がドメイン間でローミングする前にOldDomainにログオンする必要があります。これにより、ユーザー設定（おそらく長年にわたって作成されたもの）がNewDomainのデフォルト設定によって上書きされないようにします。

その他の考慮事項

このケーススタディで構成されているように、Profile Management は NewDomain の設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアを初期化しません。OldDomain の設定のみがストアの初期化に使用できます。これは、NewDomain に複数のプロファイルタイプ (Windows 7 32 ビットや Windows 7 64 ビットなど) が含まれるまでは許容されます。あるいは、NewDomain のユーザーが OldDomain のリソースにアクセスする必要がある場合があります。これらの場合、さらに多くの種類のマシンで「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを適切に有効にする必要があります。

> **注意:**
>
> もし クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースが誤って設定されている場合、新しいプロファイルが、蓄積された多くの貴重な設定を持つ既存のプロファイルを上書きしてしまう可能性があります。そのため、このポリシーは一度に1つのプラットフォームタイプにのみ設定することをお勧めします。このプラットフォームは通常、ユーザーが保持したいと考える設定が蓄積されている、より古い（成熟した）プラットフォームです。

> このケーススタディでは、いくつかの点を説明するために別々のドメインが使用されています。また、クロスプラットフォーム設定機能は、2つのOU間、あるいは単一のOU内の異なる種類のマシン間で設定のローミングを管理できます。この場合、異なるマシンタイプに対して「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを異なる方法で設定する必要があるかもしれません。この設定はいくつかの方法で実現できます。

- .ini ファイルの CPMigrationsFromBaseProfileToCPStore 設定を使用して、各マシンタイプでポリシーを異なる方法で設定します。「Source for creating cross-platform settings」ポリシーは設定しないでください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、同じOU上の異なるGPOを管理します。OU内のすべてのマシンに適用されるGPOで共通設定を構成できます。しかし、「Source for creating cross-platform settings」ポリシーのみを追加のGPOに追加し、WMIクエリを使用してフィルタリングします。

ユーザーのログオフを強制する

既定では、問題が発生した場合 (例: ユーザー ストアが利用できない場合)、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。ただし、代わりにProfile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることができます。このエラーメッセージは、トラブルシューティングに役立ちます。

1. **Profile Management**の下で、**詳細設定**フォルダーを開きます。
2. **問題が発生した場合にユーザーをログオフする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

ファイルセキュリティ属性を同期する

Profile Management が、プロファイルがインストールされているシステムとユーザー ストアの間でユーザープロファイル内のファイルとフォルダーをコピーするときに、セキュリティ属性を同期できます。この機能は、セキュリティ属性間の不整合を防ぐことを目的としています。Windows 10 以降、および Windows Server 2016 で必要です。

この機能はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の手順を実行します。

1. **UPMPolicyDefaults_all.ini** ファイルで、**General Settings** セクションに **SecurityPreserveEnabled=0** を追加します。
2. コマンドラインから、`gpupdate /force` コマンドを実行します。

Profile Management は、プロファイルの最終変更時刻に基づいてプロファイルの変更を同期します。変更がファイルのセキュリティ属性のみに対して行われた場合、Profile Management はファイルを同期しません。

大容量ファイル処理を有効にする

プロファイル内に存在する大容量ファイルは、ログオンまたはログオフが遅くなる一般的な原因です。Citrix® は、大容量ファイルをユーザー ストアにリダイレクトするオプションを提供します。このオプションにより、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

グループポリシーで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management** の下にある **File system** フォルダーを開きます。
2. **Large File Handling - Files to be created as symbolic links** ポリシーをダブルクリックします。
3. 処理するファイルを指定します。

UPMPolicyDefaults_all.ini ファイルで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. .ini ファイルに **\[LargeFileHandlingList\]** セクションを追加します。
2. そのセクションの下で処理するファイルを指定します。

ファイルを参照するポリシーではワイルドカードを使用できます。例： `\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.ost`

これらのファイルが Citrix Profile Management の除外リストに追加されていないことを確認してください。

> **注**
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

> Citrix は、Microsoft セキュリティ更新プログラム MS15-090 を適用することをお勧めします。一般的なセキュリティ対策として、Microsoft Windows システムを常に最新の状態に保つようにしてください。

アプリケーションプロファイラーを有効にする

この機能は、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。この機能を有効にすると、定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**で、**Citrix Virtual Apps™ Optimization settings**フォルダーを開きます。
2. **Enable Citrix Virtual Apps Optimization**ポリシーを有効にします。
3. **Path to Citrix Virtual Apps optimization definitions**ポリシーを有効にします。
4. Citrix Virtual Apps最適化の定義ファイルが格納されているフォルダーを指定します。
5. ポリシーの展開を適用するには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。

> **注：**

> 定義ファイルの作成については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

> ログオフ中、定義ファイル内の設定のみが同期され、その他のすべての設定は破棄されます。セッションでユーザー文書を表示または更新する場合は、フォルダーリダイレクトを使用します。フォルダーリダイレクトの構成については、「フォルダーリダイレクトの構成」を参照してください。

ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする

「**Enable search index roaming for Outlook**」機能は、ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。この機能により、オフラインOutlookデータファイル (.ost) とユーザー固有の検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。

前提条件

この機能は、以下の要件を満たすマシンで利用できます。

- オペレーティングシステム:
  - マイクロソフト ウィンドウズ 10 1709 以降
  - ウィンドウズ サーバー 2016 以降
- Microsoft Outlook 2019、2016、または2103、あるいはMicrosoft Office 365

この機能を有効にするには、マシンでMicrosoft Windows Search Serviceが有効になっていることを確認してください。デフォルトでは、Windowsデスクトップでは有効になっており、Windowsサーバーでは無効になっています。Windowsサーバーでサービスを有効にする方法の詳細については、このMicrosoftの記事を参照してください。以下のバージョンがテストされ、サポートされています。

- 7.0.20348.380, 7.0.20348.138,7.0.20344.1
- 7.0.21286.1000, 7.0.21343.1000
- 7.0.17134.376, 7.0.17134.285, 7.0.17134.228, 7.0.17134.1
- 7.0.16299.402, 7.0.16299.248, 7.0.16299.15
- 7.0.15063.413
- 7.0.14393.2457, 7.0.14393.2430, 7.0.14393.2368, 7.0.14393.2312, 7.0.14393.2273, 7.0.14393.2248, 7.0.14393.1884, 7.0.1493.1593
- 7.0.1393.2125, 7.0.1393.1884, 7.0.1393.1770
- 7.0.10240.17443
- 7.0.9600.18722

> **注:**
>
> この機能は、Microsoft Windows Search Service の将来のバージョンをサポートすることが期待されています。この機能が特定の将来のバージョンの Microsoft Windows Search Service をサポートしない場合は、Citrix Technical Support にお問い合わせください。

仕組み

VHDX (Virtual Hard Disk) は、仮想マシン用の仮想および論理ディスクストレージ領域をプロビジョニングするために使用されるディスクファイル形式です。「Enable search index roaming for Outlook」機能は、VHDX ファイルに依存して動作します。

VHDX ファイルは、この機能を使用するユーザーごとに作成されます。VHDX ファイルは、ユーザー固有のプロファイルを、そのユーザーのプロファイル専用の個別の仮想ディスクに保存します。Profile Management は、ログオン時に VHDX ファイルをマウントし、ログオフ時にアンマウントします。VHDX ファイルは次の2種類です。

- OutlookOST.vhdx ファイル。オフライン Outlook データファイル (`.ost`) を含みます。
- OutlookSearchIndex.vhdx ファイル。OutlookOST.vhdx ファイルに保存されているオフラインフォルダーファイルの検索インデックスデータベースを含みます。

> **注:**

> デフォルトでは、Profile Management はセッション中にデタッチされた VHDX ファイルを自動的に再アタッチします。詳細については、「Automatically reattach detached VHDX disks in sessions」を参照してください。

> Profile Management は、デフォルトで 30 GB の VHDX 容量を提供します。ストレージクォータを適切に計画してください。VHDX の実際の使用量が以前に構成したクォータを超えると、VHDX ファイルはアンマウントされます。

同時セッションのサポート

Enable concurrent session support for Outlook search data roaming 機能により、Profile Management は、同じユーザーの同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。

この機能は、ユーザーの同時セッションごとにOutlook OSTファイルのコピーを割り当てます。デフォルトでは、Profile ManagementはOutlook OSTファイルを保存するために2つのVHDXディスクを提供します（ディスクごとに1ファイル）。ユーザーがさらにセッションを開始すると、追加のOutlook OSTファイルはローカルプロファイルに保存されます。

ストレージ容量に余裕がある場合は、VHDXディスクのデフォルト数を増やすことができます。たとえば、数を3に設定します。その結果、Profile Managementは最初の3つのセッションのOSTファイルをVHDXディスクに保存し、それ以降のセッションのOSTファイルはローカルプロファイルに保存します。

Outlook検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損が発生した場合はそのコピーに復元できます。この目的を達成

するには、Outlookの検索インデックスローミングを有効にし、Outlook検索インデックスデータベースのバックアップと復元ポリシーを有効にします。詳細については、「Outlook検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元」を参照してください。

機能の有効化

ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供するには、**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能を有効にし、必要に応じてその拡張機能を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrixコンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. 次の手順で機能を有効にします。
    a. **Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. **OK**をクリックします。
4. 同じユーザーの同時セッションでこの機能をサポートするには、次の手順に従います。
    a. **Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. ストレージ容量に余裕がある場合は、「**Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数**」フィールドで、デフォルトのVHDXディスクの数を増やします。このフィールドの詳細については、「同時セッションのサポート」(#support-for-concurrent-sessions)を参照してください。
    d. 「**OK**」をクリックします。
5. この機能の安定性を高めるには、次の手順に従います。
    a. 「**Outlook検索インデックスデータベースのバックアップと復元**」ポリシーをダブルクリックします。
    b. 「**有効**」を選択します。
    c. 「**OK**」をクリックします。
6. この機能の可用性を高めるには、次の手順に従います。

a. 「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」ポリシーをダブルクリックします。
b. 「**有効**」を選択します。
c. 「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行し、すべてのセッションからログオフしてから、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

> 「**注：**」:

> Microsoft Windows 10 1809以降およびWindows Server 2019以降で検索インデックスローミング機能を機能させるには、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search`の下にDWORD値`EnablePerUserCatalog = 0`を追加します。レジストリ設定を有効にするには、VDAを再起動します。

Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Management は、Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能の安定性を確保するためのソリューションを提供します。これは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損した場合にそのコピーに復元することで実現されます。その結果、データベースが破損した場合に手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。

この機能はデフォルトで無効になっています。この機能を使用するには、まず Outlook の検索インデックスローミングを有効にする必要があります。Outlook の検索インデックスローミングの詳細については、「ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

Outlook の検索インデックスローミングを有効にした後、この機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADM) > クラシック管理用テンプレート (ADM) > Citrix® > Profile Management > 詳細設定**で、**Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

仕組み

この機能が有効になっている場合、Profile Management は、ログオン時にデータベースが正常にマウントされるたびに、検索インデックスデータベースのバックアップを保存します。新しいバックアップが正常に保存されると、Profile Management は以前に保存されたバックアップを削除します。Profile Management は、バックアップを検索インデックスデータベースの正常なコピーとして扱います。検索インデックスデータベースのマウントが失敗した場合、Profile Management は検索インデックスデータベースを最後に確認された正常なコピーに自動的に復元します。

重要:

- プロファイル管理は、ポリシーが有効になり、検索インデックスデータベースが最初に作成された後、そのバックアップを保存しません。
- プロファイル管理は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、VHDXファイルの利用可能なストレージスペースをより多く消費します。

Citrix Profile Management プロファイルコンテナ

> **重要:**
>
> この機能はWindows 7では動作しません。

> ユーザープロファイル内の大きなフォルダーは、ユーザーログオンの遅延を引き起こす可能性があります。ログオンエクスペリエンスを向上させるため、Profile ManagementはVHDXベースのプロファイルソリューションであるプロファイルコンテナを提供します。このソリューションにより、選択したプロファイルフォルダーをVHDXプロファイルディスクに保存できます。ユーザーがログオンすると、VHDXプロファイルディスクがマウントされ、プロファイルフォルダーがすぐに利用可能になります。

Profile Management 2009以降、プロファイルコンテナソリューションはユーザープロファイル全体をVHDXプロファイルディスクに保存できます。

プロファイルコンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション) VHDXファイルのストレージサイズとパスを指定する。
2. ニーズに合わせてプロファイルコンテナを有効にします。
   - ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする
   - ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする (コンテナベースのプロファイルソリューション)。

   > **注：**
   >
   > コンテナベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、以下のユーザープロファイル（存在する場合）は、初回使用時に自動的にコンテナに移行されます。
   >
   > - ローカルWindowsユーザープロファイル
   > - Citrixファイルベースのプロファイルソリューションからのユーザープロファイル
3. (オプション) プロファイルコンテナからフォルダーとファイルを除外する。

4. 展開環境でマルチセッションシナリオが一般的な場合は、プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。
5. ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にしている場合は、プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。

> **注:**
>
> **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**と**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**は互換性がなく、同時に有効にすることはできません。

概要

主要な概念と情報について説明します。

ユーザーストアとプロファイルコンテナについて

ユーザーストアは、ユーザープロファイルを保存するための中央ネットワークロケーションです。ユーザーがログオンすると、プロファイルはユーザーストアからユーザー環境にコピーされます。ユーザープロファイル内の大きなプロファイルフォルダは、ユーザーのログオン時間を長くします。

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナは、ユーザープロファイルを保存するために使用されるVHDXベースのネットワークディスクです。これを使用して、ユーザープロファイル全体または一部を保存できます。ログオン時に、プロファイルコンテナはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダはすぐに利用可能になります。

他のポリシーへの影響

ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にした場合、他のポリシーへの影響は次のとおりです。

- ユーザーストアベースのプロファイルソリューションは自動的に無効になります。ユーザーストア専用に設計されたポリシーは適用されなくなります。
  - プロファイルストリーミング

    例外: *プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする*ポリシーが有効になっている場合、プロファイルストリーミングはプロファイルコンテナに適用されます。詳細については、プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にするを参照してください。

- ファイルシステム
- アクティブなライトバック
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

- Outlook の検索インデックスローミング機能との下位互換性を維持するため、Profile Management は以下のファイルをそれぞれ保存するために使用される2つの VHDX ディスクを保持します。
  - Outlook 検索インデックスデータベース
  - オフライン Outlook データファイル (`.ost`)

同時アクセスが機能する方法

プロファイル管理は、プロファイルコンテナへの同時アクセスをサポートします。すべての同時セッションの中で、読み取り/書き込みセッションは1つのみ存在し、プロファイルへの変更をプロファイルコンテナにマージできます。

Profile Management が同時アクセスを処理する方法は次のとおりです。

- セッションログオン時:

  読み取り/書き込みセッションが存在するかどうかを確認します。存在する場合、現在のセッションは読み取り専用になります。それ以外の場合は、読み取り/書き込みセッションです。

- セッションログオフ時:

  a. プロファイルコンテナをマウント解除します。
  b. 現在のセッションが読み取り専用の場合、プロファイルの変更を破棄します。
  c. 他の同時セッションがない場合、読み取り/書き込みセッションのプロファイル変更をプロファイルコンテナにマージします。

マルチセッションライトバックを有効にするには、プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする ポリシーを使用します。

(オプション) VHDXファイルの保存パスを指定する

デフォルトでは、VHDXプロファイルディスク（VHDXファイル）はユーザー ストアに保存されます。

たとえば、ユーザー ストアのパスを次のように構成します。 `\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`。

VHDXプロファイルディスクは、次に以下に保存されます。`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\ProfileContainer\!ctx_osname!`。

Profile Management 2112以降では、Profile Management内のすべてのVHDXファイルを保存するための個別のネットワークの場所を指定できます。詳細については、「VHDXファイルの保存パスを指定する」を参照してください。

ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする

ユーザー ストアでのログオン時間を短縮するには、プロファイルコンテナ機能を有効にし、それらの大きなプロファイルフォルダをプロファイルコンテナに追加できます。

> **注：**
>
> プロファイルコンテナに追加するフォルダは、ユーザー ストアにも存在します。プロファイルコンテナ機能を有効にすると、Profile Managementはプロファイルコンテナとユーザー ストアの間でフォルダを同期させます。 プロファイルコンテナ機能を有効にしてから無効にしたとします。一貫性のあるユーザープロファイルを確保するために、Profile Managementはユーザー ストアプロファイルをプロファイルコンテナと同期させます。この同期はユーザーログオン時に行われます。除外リスト内のフォルダはユーザー ストアにコピーされません。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナ**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式でフォルダを追加します。サイズの大きいキャッシュファイルを含むフォルダを追加することをお勧めします。たとえば、Citrix Filesコンテンツキャッシュフォルダをリストに追加します。`AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする

Profile Management 2009以降では、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに配置し、VHDXベースのプロファイルソリューション全体を有効にすることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **> > > > >** の下で、 ポリシーをダブルクリックします。
3. を選択します。
4. をクリックし、プロファイルコンテナーリストにアスタリスク (`*`) を追加します。
5. をクリックします。

(オプション) フォルダーとファイルを含める/除外する

プロファイルコンテナーが肥大化するのを防ぐため、フォルダーやファイルをそこから除外できます。必要に応じて、親フォルダーが除外されている場合にフォルダーやファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナーからフォルダーを除外する

> **重要:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナーを有効にすると、フォルダーリダイレクト設定は引き続き有効になります。リダイレクトするフォルダーを リストに入れないでください。そうしないと、フォルダーリダイレクトが機能しません。

1. ポリシーをダブルクリックします。
2. を選択します。
3. をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するフォルダーを入力します。

   Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。例:

   - `Desktop` は `Desktop` フォルダーを示します。
   - `Downloads*` は `Downloads` フォルダーのすべての直下サブフォルダーを示します。

> **注：**

> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする場合（*コンテナベースのプロファイルソリューション*）、`appdata\local\temp` フォルダーはプロファイルコンテナから自動的に除外されます。

> この設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで設定が構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

プロファイルコンテナにフォルダーを含める

除外されたフォルダーのサブフォルダーをプロファイルコンテナに含めるには、次の手順に従います。

1. **プロファイルコンテナに含めるフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるフォルダーを入力します。

次の点に注意してください。

- このリスト上のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

ポリシーを有効にして空のリストを構成することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで設定が構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、除外リストにないフォルダーはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナにファイルを含める

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナにファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナからフォルダを除外した後、そのフォルダ内のファイルをプロファイルコンテナに含めることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **プロファイルコンテナに含めるファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。

3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- このリストのファイルは、除外されたフォルダ内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダ名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop\Desktop.ini` ファイルを示します。
- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダとそのサブフォルダ内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `AppData*.tmp|` は、`AppData` フォルダ内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダの直下のサブフォルダ内の `a.txt` を示します。

ポリシーを有効にして空のリストを構成することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで設定が構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、除外リストにないファイルはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナからファイルを除外する

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナからファイルを除外できます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **プロファイルコンテナから除外するファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するファイルを入力します。

以下の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名内のワイルドカードはサポートされますが、再帰的には適用されません。

この設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで設定が構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

(オプション) プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする機能は、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ有効になります。**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**ポリシーを有効にすると、ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナ内のユーザープロファイルがユーザーのローカルユーザープロファイルにキャッシュされます。

> **重要:**

> OneDriveなど、コンテナベースのプロファイルソリューションでのみ動作するアプリケーションは、このポリシーが有効になっている場合、正常に動作しない可能性があります。OneDriveが正しく機能するようにするには、このポリシーを無効にするか、OneDriveコンテナポリシーを有効にしてください。

> デフォルトでは、ユーザーログオン時にユーザープロファイル全体がキャッシュされます。ユーザーログオン時間を短縮するには、**プロファイルストリーミング**ポリシーを有効にできます。その結果、ユーザープロファイル内のプロファイルフォルダーは、ログオン後にオンデマンドでキャッシュされます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

> **ヒント:**

> FSLogix Profile Containerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/configure-profile-container-tutorial>`を参照してください。Citrix Profile

> Managementプロファイルコンテナの詳細については、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナを参照してください。

概要

VHD-based profile solutions such as the FSLogix Profile Container and the Citrix Profile Management profile container do not support saving changes in multi-session scenarios. They let only one session (in read/write mode) write changes. Changes in other sessions (in read-only mode) are discarded.

しかし、マルチセッションシナリオはCitrix仮想アプリのユースケースで一般的です。これらのユースケースを容易にするために、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを提供しています。このポリシーを使用すると、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

ユーザーログオン中に、ユーザーのプロファイルコンテナディスクがマウントされ、I/O要求はマウントされたディスクにリダイレクトされます。その後、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルに変更を同期します。

ユーザーログオフプロセス中、Profile Managementはセッションで使用されているFSLogix Profile Containerのモードによって動作が異なります。

- 読み取り専用モードが使用されている場合、Profile Managementは変更をユーザーストアにライトバックします。
- 読み取り/書き込みモードが使用されている場合、Profile Managementはユーザーストアからの変更をローカルプロファイルに適用します。その後、変更はユーザーのプロファイルコンテナにマージされます。

注:

> FSLogix Profile Containerが使用されている場合、マルチセッションライトバック機能はプロファイルストリーミングと互換性がありません。

> 以下のイベントが変更と見なされます。

- 作成

- 変更
- 削除
- 名前の変更

書き戻し戦略

Profile Management は、変更を適用するために「最終書き込み優先」戦略を使用します。

- ファイル/フォルダーの作成および変更の場合、ファイル/フォルダーの最終書き込み時刻を比較することによって変更を書き戻します。
- ファイル/フォルダーの削除および名前の変更の場合、変更に関連付けられたタイムスタンプを比較することによって変更を書き戻します。Profile Management は、変更が発生したときにタイムスタンプをログに記録します。

プロファイルコンテナーのマルチセッション書き戻しを有効にする

マルチセッション書き戻し機能は、**プロファイルコンテナーのマルチセッション書き戻しを有効にする**ポリシーを**有効**に設定することで使用できます。このポリシーは、デフォルトで**無効**に設定されています。

- FSLogix Profile Container でこの機能を使用するには、次の手順を完了します。
  - FSLogix プロファイルコンテナ
    - FSLogix Profile Container がインストールされ、有効になっていることを確認します。
    - プロファイルの種類が**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていることを確認します。
  - Citrix プロファイル管理
    - **Profile Management を有効にする**ポリシーを有効に設定します。
    - **ユーザー ストアへのパス**ポリシーを有効なパスで設定します。
    - (オプション) **処理済みグループ**および**除外グループ**ポリシーを設定します。処理するユーザーグループがFSLogixプロファイルコンテナ内のグループと一致していることを確認します。
    - **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。このポリシーはGPOまたはCitrix Studioで設定できます。手順については、この記事の後半を参照してください。

- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのマルチセッションライトバック機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
  - Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ機能を有効にする。

> **注:**
>
> **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**は、**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**と互換性がありません。これらを同時に有効にすることはできません。

> **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成** > **管理用テンプレート** > **Citrixコンポーネント** > **Profile Management** > **詳細設定**で、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、Profile Managementがインストールされているマシンで、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

OneDrive コンテナを有効にする

OneDrive コンテナを使用すると、OneDrive フォルダーをユーザーと共にローミングできます。その結果、ユーザーはどのコンピューターからでも同じ OneDrive フォルダーにアクセスできます。

OneDrive コンテナは、VHDX ベースのフォルダーローミングソリューションです。Profile Management は、ファイル共有上にユーザーごとに VHDX ファイルを作成し、ユーザーの OneDrive フォルダーを VHDX ファイルに保存します。VHDX ファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

OneDrive コンテナは、Citrix® プロファイルソリューションの両方で利用できます。

- **ネットワークコピーベースのソリューション**。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザーストアからローカルコンピューターにコピーされ、ログオフ時にコピーバックされます。
- **VHDX ベースのソリューション**。ユーザープロファイルは VHDX ファイル（プロファイルコンテナと呼ばれます）に保存されます。これらの VHDX ファイルは、ユーザーログオン時に動的にアタッチされます。

OneDrive コンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション) VHDX ファイルのストレージパスを指定する
2. OneDrive コンテナを有効にして構成する

> **注：**
>
> Citrix Profile Management 2206 以降、プロファイルコンテナを使用してプロファイル全体を保存する場合、OneDrive フォルダーはデフォルトでユーザーと共にローミングされます。ただし、個別のコンテナを使用して OneDrive フォルダーをローミングしたい場合は、OneDrive コンテナを有効にすることもできます。

(オプション) VHDX ファイルのストレージパスを指定する

デフォルトでは、OneDrive コンテナの VHDX ファイルは、ユーザーストアと同じストレージサーバーに保存されます。

たとえば、ユーザーストアのパスを次のように構成します。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`!

OneDriveコンテナのVHDXファイルは、その後、に保存されます。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\OneDrive`

必要に応じて、OneDriveフォルダーのVHDXディスクを保存する別のファイル共有を指定できます。詳細については、「VHDXファイルの保存パスを指定する」を参照してください。

OneDriveコンテナを有効にして構成する

OneDriveコンテナポリシーを有効にし、VHDXファイルに保存するOneDriveフォルダーを指定します。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**OneDrive コンテナを有効にする**をダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OneDriveフォルダーのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
5. ユーザープロファイルに対する相対パスの形式でOneDriveフォルダーを入力し、**OK**をクリックします。

   たとえば、OneDriveフォルダーの絶対パスが`%userprofile%\OneDrive - Citrix`の場合、`OneDrive - Citrix`をリストに追加します。

   > **注:**
   >
   > 相対パスには、`!CTX_OSNAME!`や`!CTX_OSBITNESS!`などの変数を含めることはできません。

6. **OK**をクリックします。

VHDXファイルのストレージサイズとパスを指定する

この記事では、Profile Managementが作成するVHDXファイルのストレージサイズとパスを指定する方法について説明します。

概要

Profile Managementは、以下のVHDXベースの機能を提供します。

- Outlook検索インデックスのローミング
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ設定
- フォルダーミラーリングの高速化
- OneDriveコンテナの有効化

デフォルトでは、すべてのVHDXファイルはユーザーストアに保存されます。必要に応じて、それらを保存するための別のパスを指定できます。以下に、VHDXファイルのデフォルトおよびカスタムのストレージパスを示します。

- プロファイルコンテナー設定
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
- Outlook検索インデックスのローミング
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
- フォルダーのミラーリングを高速化する
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\MirrorFolders\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\MirrorFolders\
- OneDriveコンテナを有効にする
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\OneDrive\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\OneDrive\

プロファイル管理は、現在のユーザーを偽装してVHDXファイルにアクセスし、Domain Computers に VHDXファイルのストレージパスに対する `full control` 権限を付与しません。

ストレージサイズを指定する

すべてのVHDXファイルの最大サイズは、デフォルトで50 GBです。デフォルトの最大サイズを変更するには、VHDXポリシーが有効になる前に、次のレジストリ値を構成します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\VhdCapacity` (DWORD、サイズはGB単位)。

VHDXファイルは、手動でファイルを削除しても自動的に縮小されません。VHDXファイルのサイズを縮小するには、**ディスクの管理**に移動し、該当するボリュームを右クリックして、**ボリュームの縮小**を選択します。

ストレージパスを指定する

VHDXファイル用のネットワークストレージの場所を準備します。ストレージの場所にユーザーに `Modify` 権限以上を付与していることを確認してください。

VHDXファイルのストレージパスを指定するには、次の手順に従います:

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > プロファイル管理 > 詳細設定**で、**VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **VHDXファイルを保存するパス**フィールドに、ストレージの場所の完全なパスを入力します。例: `\\myservername\vhdx_store`。
5. **適用**をクリックし、次に**OK**をクリックします。

設定を有効にするには、次の手順を実行します:

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   ポリシーが有効になるタイミングは、ユースケースによって異なります。

   - VHDX ファイルのストレージパスを初めて指定する場合、ポリシーはユーザーがログオンした後に有効になります。
   - VHDX ファイルのストレージパスを変更する場合、ポリシーはユーザーが初めてログオフした後に有効になります。

`gpupdate` コマンドの詳細については、Microsoft ドキュメント を参照してください。

この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は VHDX ファイルをユーザー ストアに保存します。

セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする

「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」機能により、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。

概要

Citrix Profile Managementは、以下のVHDXベースのポリシーを提供します。

- ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ

- フォルダーミラーリングを高速化する

各ポリシーは、適切に機能するために関連するVHDXディスクに依存します。Profile Managementは、ログオン中にこれらのディスクをアタッチし、ログオフ中にデタッチします。ただし、これらのVHDXディスクはセッション中に誤ってデタッチされ、ポリシーが適切に機能しなくなる可能性があります。VHDXディスクがデタッチされる可能性のある原因には、次のものがあります。

- ファイルサーバーで一時的なエラーが発生する
- ネットワーク接続が遅い

「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」ポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、前述のVHDXベースのポリシーで使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ポリシーを有効にする

デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。VHDXベースのポリシーの高い安定性を確保するために、デフォルト設定を維持することをお勧めします。

VHDXベースのポリシーでパフォーマンスの問題が発生した場合は、次の手順でポリシー設定を確認してください。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**Citrix Components > Profile Management > Advanced settings**」の下で、「**Automatically reattach VHDX disks in sessions**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 設定が「**Disabled**」の場合は、「**Enabled**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、Microsoftの記事に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用され、デフォルトで*有効*になります。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで有効になります。

Azure AD参加済みおよびドメイン非参加のVDAマシンに対するサポートを有効にする

Citrix Profile Managementは、顧客が管理するAzureサブスクリプション内のAzure AD参加済みおよびドメイン非参加のVDAマシンに対して、プロファイル管理を提供できるようになりました。

前提条件

- プロファイル マネジメント 2203 以降
- VDAバージョン2203以降
- プロファイルストレージサーバーの資格情報を保存するためにWorkspace Environment Management (WEM)を使用している場合、WEMエージェントバージョン2109.2.0.1以降

Profile Managementを有効にする

Azure AD参加済みまたはドメイン非参加のVDAマシンでProfile Managementを有効にするには、次の設定を完了します。

1. **Profile Management**で、**プロファイル管理を有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. **ユーザーストアへのパス**ポリシーを、VDAからアクセス可能な有効なパスに設定します。たとえば、ユーザーストアがファイルサーバーまたはAzure Files共有上にある場合、アクセス可能です。
3. **プロファイルコンテナ**ポリシーを**有効**に設定し、プロファイルコンテナリストにアスタリスク (*) を追加します。詳細については、「ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする」を参照してください。
4. **ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。次に、Profile Managementがユーザーストアにアクセスできるように、プロファイルストレージサーバーの資格情報をWEMまたはWindows資格情報マネージャーに保存します。詳細については、「ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする」を参照してください。

ユーザーグループポリシーのログオン時の非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期と非同期の2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。

レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが次のいずれかの場合は、非同期モードが期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンする。

Citrix Profile Managementは、この問題を解決するために**ユーザーグループポリシーのログオン時の非同期処理を有効にする**ポリシーを提供します。このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementはレジストリ値をユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。

この機能は、WindowsおよびWindows Server OSの両方に適用されます。

前提条件

Windowsマシンで非同期モードを有効にするために、追加のアクションは必要ありません。ただし、Windows Serverマシンでこのモードを有効にするには、次の要件を満たしていることを確認してください。

- リモートデスクトップセッションホストの役割がインストールされていること。
- グループポリシーが次のように設定されていること。
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > ログオン > コンピューターの起動とログオン時に常にネットワークを待つ**: 無効
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > グループポリシー > リモートデスクトップサービス経由でログオンする際に非同期ユーザーグループポリシー処理を許可する**: 有効

ポリシーを有効にする

ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、「**ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management**」にアクセスします。
2. Profile Management で、「**詳細設定**」をクリックします。
3. 「**ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
4. 「**有効**」を選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンしてください。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。
2. この設定がここで構成されておらず、.ini ファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

ポリシー

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.admファイルと.admxファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと.iniファイルの両方で使用できる以下の変数が利用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、以下の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン1プロファイルの展開	バージョン2プロファイルの展開
`!ctx_localsettings!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
`!ctx_roamingappdata!`	`Application Data`	`AppData\Roaming`
`!ctx_startmenu!`	`Start Menu`	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start menu`
`!ctx_internetcache!`	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
`!ctx_localappdata!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスを構築するために使用されるポリシーの場合、オペレーティングシステムに応じて、`!ctx_osbitness!` 変数はx86またはx64に展開されます。次の変数も展開されます。

- オペレーティングシステムに応じて、`!ctx_osname!` は次のように短い名前に展開されます。

- オペレーティングシステムに応じて、`!ctx_profilever!` は次のようにプロファイルバージョンに展開されます。

Profile Management Serviceが起動すると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 11`	Win11	v6
`Windows 10 Redstone 6`	Win10アールエス6	v6
`Windows 10 Redstone 5`	Win10アールエス5	v6
`Windows 10 Redstone 4`	Win10アールエス4	v6
`Windows 10 Redstone 3`	Win10アールエス3	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィンテンアールエスツー	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィンテンアールエスワン	v6
`Windows 10`	Win10	v5
`Windows 8.1`	Win8.1	v4 または v2
`Windows 8`	Win8	v3 または v2
`Windows 7`	Win7	v2
`Windows Server 2022`	Win2022	v6
`Windows Server 2019`	Win2019	v6
`Windows Server 2016`	Win2016	v6
`Windows Server 2012 R2`	ウィン2012R2	v4 または v2
`Windows Server 2012`	Win2012	v3 または v2
`Windows Server 2008 R2`	Win2008	v2
`Windows Server 2008`	Win2008	v2

注:

20H1以降のWindows 10の場合、ロングネームはWindows10 \<postfix\>、対応するショートネームはWin10_\<postfix\>です。\<postfix\> の値は、次の2つの特定のレジストリエントリから取得されます。

- エントリ: HKLM\Software\\Microsoft\\Windows NT\\CurrentVersion > 値の名前: DisplayVersion
- エントリ: HKLM\\Software\\Microsoft\\Windows NT\\CurrentVersion > 値の名前: ReleaseId

最初のレジストリエントリに値が含まれている場合、それが \<postfix\> として使用されます。それ以外の場合は、2番目のレジストリエントリの値が使用されます。

Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、およびWindows Server 2012R2の場合、実際のプロファイルバージョンは、`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters` の下の `UseProfilePathExtensionVersion` レジストリキーの設定によって変更される場合があります。

- 1 に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じて v3 または v4 になります。
- 設定されていないか 0 に設定されている場合、プロファイルバージョンは v2 になります。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表は、Profile Management の異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm (または .admx) ファイルおよび .ini ファイルにおける各ポリシーの場所、そして各ポリシーが設計されている機能 (またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか) を示しています。

.adm または .admx ファイル内の場所は `Citrix > Profile Management` に対して相対的です。

バージョン 2206 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SyncGpoStateEnabled	\AdvancedSettings	SyncGpoStateEnabled	ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする
OneDriveContainer	\AdvancedSettings	OneDriveContainer	ローミングOneDriveフォルダーを有効にする
OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	同時セッションでのOutlook検索データローミングを有効にする
PSForPendingAreaEnabled	\ストリーム配信されたユーザープロファイル	PSForPendingAreaEnabled	保留中の領域のプロファイルストリーミングを有効にする

バージョン2203以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
EnableVolumeReattach	\AdvancedSettings	EnableVolumeReattach	セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする

バージョン2112以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナ設定	ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナからファイルを除外する

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナ設定	ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナにファイルを含める
VhdStorePath	AdvancedSettings	PathToVhdStore	VHDXファイルのネットワークストレージの場所を指定する

バージョン2109以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

バージョン 2106 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AccelerateFolderMirroring	\FileSystemSettings\FSSynchronization	AccelerateFolderMirroring	フォルダー ミラーリングを高速化する
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする
MultiSiteReplication	詳細設定	マルチサイトレプリケーション	ユーザー ストアをレプリケートする

バージョン 2103 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
PSForFoldersEnabled	\PsSettings	PSForFoldersEnabled	フォルダーのプロファイル ストリーミング
ProfileContainerLocalCache	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerLocalCache	プロファイルコンテナのローカルキャッシュ

バージョン2009以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerExclusionListDir	プロファイルコンテナ
ProfileContainerInclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerInclusionListDir	プロファイルコンテナ

バージョン2003以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
FSLogixProfileContainerSupport	\AdvancedSettings	FSLogixProfileContainerSupport	**バージョン2103より前:** FSLogix Profile Container のマルチセッションライトバックを有効にする **バージョン2103以降:** Profile Containers のマルチセッションライトバックを有効にする

バージョン1909以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	UserStore の移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン 1903 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン2009より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization **バージョン2009以降:** \ProfileContainer	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

バージョン7.18以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook検索ローミング

バージョン7.16以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	Citrix Virtual Apps and Desktopsアプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps and Desktopsアプリケーションの最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	大容量ファイルの処理

バージョン 7.15 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン5.6以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
`CEIPEnabled`	\AdvancedSettings	`CEIPEnabled`	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブライトバックレジストリ

バージョン5.5以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\Registry	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\Registry	LastKnownGoodRegistry	NTUSER.DATのバックアップ
デフォルトの除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	ベース

バージョン 5.0〜5.4 で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
除外されたグループ		ExcludedGroups	除外されたグループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成
AppData (Roaming) フォルダーのリダイレクト、`Desktop` フォルダーのリダイレクト、...	\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成内)	注: 適用不可	XenDesktop との統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイル処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン 4.x 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	`CPEnabled`	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	`CPPath`	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルライトバック（バージョン4.0でアクティブライトバックに名称変更）
ミラーするフォルダー（バージョン3.1以降で利用可能）	\File system\Synchronization	MirrorFoldersList	フォルダーミラーリング
ログオフ時にインターネットCookie	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーミラーリング

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ファイルを処理する（バージョン3.1以降で利用可能）			
リダイレクトされたフォルダーを削除する（バージョン3.2、3.2.2、および4.0で利用可能）	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュ	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーム配信されるユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	`PSEnabled`	ストリーム配信されるユーザープロファイル
保留中の領域ロックファイルのタイムアウト	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーム配信されるユーザープロファイル
ストリーミングユーザープロファイルグループ	\ストリーミングユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングユーザープロファイル

バージョン2.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ユーザーストアへのパス		PathToUserStore	ベース
処理されたグループ		ProcessedGroups	基本
ローカルプロファイルの競合処理	\プロファイル処理	LocalProfileConflictHandling	基本
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	MigrateWindowsProfilesToUserStore	基本

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス, テンプレートプロファイルオーバーライドローミングプロファイル, テンプレートプロファイルオーバーライドローカルプロファイル	基本
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	DeleteCachedProfilesOnLogoff	ベース
MFTキャッシュファイルのディレクトリ(バージョン5.0で削除)	\詳細設定	`USNDBPath`	ベース
同期するディレクトリ	\ファイルシステム\同期	SyncDirList	ベース
除外リスト	\レジストリ	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	\ファイルシステム\同期	SyncFileList	ベース
インクルージョンリスト	\レジストリ	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	ベース

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	ベース
ローカル管理者ログオンの処理		ProcessAdmin	ベース
Profile Managementを有効にする		ServiceActive	ベース
ログを有効にする	\ログ設定	LoggingEnabled	ロギング
ログ設定	\ログ設定	LogLevel	ロギング
ログファイルの最大サイズ	\ログ設定	MaxLogSize	ロギング
ログファイルへのパス (バージョン2.1以降で利用可能)	\ログ設定	PathToLogFile	ロギング

Profile Management ポリシーの説明とデフォルト

このトピックでは、Profile Management の .adm および .admx ファイルに含まれるポリシーについて説明します。

ポリシーの詳細については、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

.adm および .admx ファイルのセクション

Profile Management ポリシーは、次のセクションにあります。

プロファイル管理

プロファイル管理\\フォルダーリダイレクト（ユーザー構成）

プロファイル管理\\プロファイル処理

プロファイル管理\\詳細設定

プロファイル管理\\ログ設定

プロファイル管理\\レジストリ

プロファイル管理\\ファイルシステム

プロファイル管理\\ファイルシステム\\同期

プロファイル管理\\ストリーム配信ユーザープロファイル

プロファイル管理\\クロスプラットフォーム設定

グループポリシーオブジェクトエディターでは、ほとんどのポリシーが「**コンピューターの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix**」の下に表示されます。リダイレクトされたフォルダーポリシーは、「**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix**」の下に表示されます。

グループポリシーエディターでは、ポリシーが「**ユーザーの構成**」というラベルのセクションの下にない限り、ポリシーは「**コンピューターの構成**」の下に表示されます。

プロファイル管理

プロファイル管理を有効にする

プロファイル管理を有効にできます。デフォルトでは、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。プロファイル管理は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように動作するかをテストした後にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

処理されるグループ

プロファイルが処理されるユーザーを指定できます。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定します。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME` の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されている場合、プロファイル管理はこれらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、プロファイル管理はすべてのユーザーを処理します。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。

除外されたグループ

プロファイルが処理されないユーザーを指定できます。以下のユーザーグループを使用してユーザーを指定できます。

Citrix Virtual Apps環境は、マルチセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。このポリシーがマルチセッションオペレーティングシステムで無効になっているか構成されていない場合、Profile Managementはドメインユーザーのログオンを処理しますが、ローカル管理者のログオンは処理しません。Citrix Virtual Desktops™環境は、シングルセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。シングルセッションオペレーティングシステムでは、Profile Managementはローカル管理者のログオンを処理します。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されている場合、Profile Managementはそれらのユーザーグループのメンバーを除外します。
2. この設定が無効になっている場合、Profile Managementはどのユーザーも除外しません。
3. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

ローカル管理者のログオンを処理する

Profile Managementが`BUILTIN\Administrators`グループのメンバーのログオンを処理するかどうかを指定できます。このポリシーを有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者であるCitrix Virtual Desktops展開で推奨されます。

Citrix Virtual Apps環境は、マルチセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。このポリシーがマルチセッションオペレーティングシステムで無効になっているか構成されていない場合、Profile Managementはドメインユーザーのログオンを処理しますが、ローカル管理者のログオンは処理しません。Citrix Virtual Desktops™環境は、シングルセッションオペレーティ

ングシステムの典型的なユースケースです。シングルセッションオペレーティングシステムでは、Profile Managementはローカル管理者のログオンを処理します。

ローカル管理者権限を持つドメインユーザーは、通常、割り当てられた仮想デスクトップを持つCitrix Virtual Desktopsユーザーです。デスクトップでProfile Managementに問題が発生した場合、このポリシーにより、ユーザーはログオン処理をバイパスしてログオンし、問題をトラブルシューティングできます。

注: ドメインユーザーのログオンは、通常、製品ライセンスへの準拠を確実にするために、グループメンバーシップによって課される制限の対象となる場合があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はローカル管理者によるログオンを処理しません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、管理者は処理されません。

ユーザー ストアへのパス

ユーザー ストアのストレージ パスを指定できます。ユーザー ストアは、ユーザー プロファイル（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存される中央のネットワーク上の場所です。

パスは次のいずれかです。

- ホームディレクトリに対する相対パス。ホームディレクトリは通常、Active Directory のユーザーの `#homeDirectory#` 属性として構成されます。
- UNC パス。通常、サーバー共有または DFS 名前空間を指定します。
- 無効または未構成。この場合、パスは `#homeDirectory#\Windows` です。

パス設定では、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: `%ProfVer%`）。システム環境変数は通常、追加のセットアップが必要です。
- ハッシュで囲まれた Active Directory ユーザー オブジェクトの属性（例: `#sAMAccountName#`）。
- Profile Management 変数。詳細については、Profile Management 変数製品ドキュメントを参照してください。

`%username%` と `%userdomain%` を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を完全に定義するために、カスタム属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\JohnSmith` に保存します (現在のユーザーの #sAMAccountName# が JohnSmith に解決される場合)
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.DOMAINCONTROLLER1\Win8x64` に展開される場合があります

重要: 使用する属性または変数に関係なく、このポリシーが NTUSER.DAT を含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが \\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile に存在する場合、ユーザー ストアへのパスを \\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64 に設定します (\UPM_Profile サブフォルダーではありません)。

ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

構成の優先順位:

1. ユーザー ストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホーム ディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。このポリシーが無効になっている場合、ユーザー設定はホーム ディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. ここでこのポリシーも.iniファイルも構成されていない場合、ホーム ドライブのWindowsディレクトリが使用されます。

ユーザー ストアの移行

Profile Managementが以前使用していたユーザー ストアの保存パスを指定できます (以前指定した `path to user store` 設定)。

この設定が構成されている場合、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は現在のユーザー ストアに移行されます。

パスは、絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。

どちらの場合でも、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数
- ハッシュ記号で囲まれたActive Directoryユーザーオブジェクトの属性

例:

- %ProfileVer% が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合、フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザーストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します。
- 現在のユーザーに対して `#SAMAccountName#` が JohnSmith に解決される場合、`\\server\share#SAMAccountName#` はユーザー設定を UNC パス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します。

構成の優先順位:

1. パスでは、`%username%` および `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できます。この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。
2. ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。
3. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

アクティブライトバック

アクティブライトバック機能を有効にできます。この機能が有効になっている場合、Profile Management は、セッション中にローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期します。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

アクティブライトバックレジストリ

Profile Managementが、セッション中にローカルコンピューターで変更されたレジストリエントリをユーザーストアに同期できるようにします。このポリシーは、**アクティブライトバック**ポリシーと併用してください。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定を構成しない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこの設定を構成しない場合、アクティブライトバックレジストリは無効になります。

オフラインプロファイルのサポート

オフラインプロファイル機能を有効にします。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザーストアと同期できます。

この機能は、頻繁にローミングするラップトップまたはモバイルデバイスのユーザーを対象としています。ネットワークが切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーがセッションを開始すると、プロファイルはローカルで更新されます。Profile Managementは、ネットワーク接続が復元された後にのみ、プロファイルをユーザーストアと同期します。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

Profile Management\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイルに一般的に表示されるフォルダーをリダイレクトするかどうかを指定し、リダイレクトターゲットを指定できます。ターゲットは、UNCパス（サーバー共有またはDFS名前空間の場合）またはユーザーのホームディレクトリに対する相対パスとして指定します。ホームディレクトリは通常、Active Directoryの`#homeDirectory#`属性で構成されます。

ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Managementは指定されたフォルダーをリダイレクトしません。

注: UNC パスをフォルダーリダイレクトに使用する場合、#homedirectory# 変数はサポートされません。**ユーザーのホームディレクトリにリダイレクト**ポリシーを選択した後、パスを指定する必要はありません。

Redirect `<folder-name>` フォルダーポリシーでは、`<folder-name>` フォルダーをリダイレクトする方法を指定できます。これを行うには、**有効**を選択し、リダイレクトされたパスを入力します。

注意: データ損失が発生する可能性があります。

ポリシーが有効になった後でパスを変更したい場合があります。ただし、変更する前に潜在的なデータ損失を考慮してください。変更されたパスが以前のパスと同じ場所を指している場合、リダイレクトされたフォルダーに含まれるデータが削除される可能性があります。

たとえば、連絡先パスを `path1` と指定します。その後、`path1` を `path2` に変更します。`path1` と `path2` が同じ場所を指している場合、ポリシーが有効になった後、リダイレクトされたフォルダーに含まれるすべてのデータが削除されます。

潜在的なデータ損失を回避するには、次の手順を実行します。

1. Active Directory グループポリシーオブジェクトを介して、Profile Management が実行されているマシンに Microsoft ポリシーを適用します。詳細な手順は次のとおりです。
    a. グループポリシー管理コンソールを開きます。
    b. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**に移動します。
    c. **リダイレクトする前に、古いフォルダーリダイレクトターゲットと新しいフォルダーリダイレクトターゲットが同じ共有を指していることを確認する**を有効にします。
2. 該当する場合、Profile Management が実行されているマシンに修正プログラムを適用します。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/977229>` および `<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2799904>` を参照してください。

プロファイル管理\プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

ログオフ後にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するかどうかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、ユーザーのログオフ後にユーザーのローカルプロファイルキャッシュが削除されます。この設定はターミナルサーバーに推奨されます。このポリシーが無効になっている場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

注: 「キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延」ポリシーを使用して、ログオフ時にプロファイルキャッシュがいつ削除されるかを制御できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延を、オプションで延長できます。ログオフ中にプロセスがファイルまたはユーザーレジストリハイブを開いたままにしていることがわかっている場合、遅延を延長すると便利です。大規模なプロファイルの場合、この設定はログオフを高速化することもできます。

値を0にすると、ログオフプロセスの終了時にプロファイルがすぐに削除されます。

Profile Managementは1分ごとにログオフをチェックします。値を60にすると、最後のチェックが行われた時間に応じて、ユーザーのログオフ後1〜2分以内にプロファイルが削除されます。

重要: このポリシーは、「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」が有効になっている場合にのみ機能します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルはすぐに削除されます。

既存のプロファイルの移行

ユーザーストアが空の場合に、Profile Managementがどの種類のユーザープロファイルをユーザーストアに移行するかを指定できます。

ユーザーがユーザーストアにプロファイルを持っていない場合、Profile Managementはログオン中に既存のプロファイルを「オンザフライ」で移行できます。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、**ローミング**を選択します。

ログオン中に次のイベントが発生します。ユーザーがユーザーストアにCitrixユーザープロファイルではなくWindowsプロファイルを持っている場合、Profile ManagementはWindowsプロファイルをユーザーストアに移行します。このプロセス後、Profile Managementは、同じユーザーストアへのパスで構成された現在のセッションおよびその他のセッションでユーザーストアプロファイルを使用します。

構成の優先順位:

1. この設定が有効な場合、プロファイル移行は、ローミングプロファイルとローカルプロファイル（デフォルト）、ローミングプロファイルのみ、ローカルプロファイルのみに対してアクティブ化できます。または、プロファイル移行を無効にすることもできます。
2. このポリシーが無効で、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
3. プロファイル移行が無効で、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
4. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
5. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile Managementは既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルをユーザーストアに移行します。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

この設定は、異なるオペレーティングシステム間での既存のアプリケーションプロファイルの自動移行を有効または無効にします。アプリケーションプロファイルには、**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリの両方が含まれます。この設定は、異なるオペレーティングシステム間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。

たとえば、オペレーティングシステム（OS）をWindows 10バージョン1803からWindows 10バージョン1809にアップグレードする必要があるとします。この設定が有効になっている場合、各ユーザーが最初にログオンするときに、Profile Managementは既存のアプリケーション設定をWindows 10バージョン1809に自動的に移行します。**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリが移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルが複数ある場合、Profile Managementは次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。
2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

注： ユーザーストアパスに`!CTX_OSNAME!`変数を記述して、OSの短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Managementは既存のアプリケーションプロファイルを特定できます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

ローカルプロファイルの競合処理

ユーザーストア内のプロファイルとローカルのWindowsユーザープロファイル（Citrixユーザープロファイルではない）の両方が存在する場合に、Profile Managementがどのように動作するかを指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっているか、デフォルト値の**ローカルプロファイルを使用**に設定されている場合、Profile Managementはローカルプロファイルを使用しますが、それを一切変更しません。
2. このポリシーが**ローカルプロファイルを削除**に設定されている場合、Profile Managementはローカルの Windowsユーザープロファイルを削除します。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。このポリシーが**ローカルプロファイルの名前を変更**に設定されている場合、Profile Managementはローカルの Windowsユーザープロファイルの名前を変更します（バックアップ目的のため）。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。
3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイル

テンプレートとして使用するプロファイルの保存パスを指定できます。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートプロファイルに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーの完全なパスです。

重要: パス設定に`NTUSER.DAT`を含めないでください。たとえば、`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`ファイルの場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。 UNCパスまたはローカルコンピューター上のパスである絶対パスを使用します。後者は、たとえばCitrix Provisioning™ Servicesイ

メージにテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、テンプレートは使用されません。
2. このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementはユーザープロファイルを作成する際に、ローカルのデフォルトプロファイルの代わりにテンプレートを使用します。ユーザーがCitrixユーザープロファイルを持たず、ローカルまたはローミングのWindowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。そして、このポリシーが無効になっていない場合、ローカルプロファイルはユーザーストアに移行されます。この設定は、**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**または**テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きする**チェックボックスを有効にすることで変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別することは、Windows強制プロファイルと同様に、変更が保存されないことを意味します。
3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートは使用されません。

プロファイル管理\詳細設定

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値である5回の再試行が使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

一部の展開では、`Index.dat`が参照しない余分なインターネットCookieが残されます。継続的なブラウジングの後、ファイルシステムに残された余分なCookieはプロファイルの肥大化につながる可能性があります。このポリシーを使用すると、Profile Managementを有効にしてIndex.dat

の処理を強制し、余分なCookieを削除できます。このポリシーはログオフ時間を増加させるため、この問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Index.datの処理は行われません。

自動構成を無効にする

Profile Managementは、Citrix仮想デスクトップ環境（たとえば、パーソナルvDiskの有無など）を検査し、それに応じてグループポリシーを構成します。未構成状態のProfile Managementポリシーのみが調整されるため、行ったカスタマイズはすべて保持されます。

このポリシーにより、展開が高速化され、最適化が簡素化されます。このポリシーを構成する必要はありません。ただし、次のいずれかの操作を行う場合は、自動構成を無効にできます。

- 以前のバージョンからの設定を保持するためのアップグレード
- トラブルシューティング

自動構成は、実行時に環境に応じてデフォルトのポリシー設定を自動的に構成する動的な構成チェッカーと見なすことができます。これにより、設定を手動で構成する必要がなくなります。実行時環境には以下が含まれます。

- ウィンドウズ オーエス
- Windows OSのバージョン
- Citrix仮想デスクトップの存在
- パーソナルvDiskの存在

環境が変更された場合、自動構成は以下のポリシーを変更する可能性があります。

- アクティブライトバック
- 常にキャッシュ
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除
- キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延
- プロファイルストリーミング

異なるOSにおける上記のポリシーのデフォルトステータスについては、以下の表を参照してください。

	マルチセッションOS	シングルセッションOS
アクティブライトバック	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は有効。
常にキャッシュ	無効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は有効。
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除	有効	以下のいずれかの状況が発生した場合は*無効*：Personal vDiskが使用されている、Citrix Virtual Desktopが割り当てられている、またはCitrix Virtual Desktopがインストールされていない。それ以外の場合は有効。
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	0秒	ユーザーの変更が永続的でない場合は60秒。それ以外の場合は0秒。
プロファイルストリーミング	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は有効。

ただし、自動構成が無効になっている場合、上記のすべてのポリシーはデフォルトで**無効**になります。

Windows 10、Windows Server 2016、およびWindows Server 2019でスタートメニューのローミングが正しく機能するようにするには、次の手順に従います。

1. 自動構成を有効にするか、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. Profile Managementのベストプラクティスの記事に記載されている構成手順を完了します。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここで構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、自動構成がオンになります。この場合、環境が変更されるとProfile Managementの設定が変更される可能性があります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

問題が発生した場合にProfile Managementがユーザーをログオフするかどうかを指定できます。

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生するとProfile Managementはユーザーに一時プロファイルを提供します。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。

構成の優先順位:

1. この設定が有効になっている場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。
2. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム

デフォルトでは、匿名の統計情報と使用状況データを送信することでCitrix製品の品質とパフォーマンスを向上させるために、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムが有効になっています。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

Outlookの検索インデックスローミングを有効にする

このポリシーを有効にすると、Profile ManagementはユーザープロファイルとともにOutlook検索データを自動的にローミングすることで、ユーザーにネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。このポリシーは、Outlookの検索インデックスを保存するために追加のストレージを必要とします。

このポリシーを有効にするには、ログオフしてから再度ログオンしてください。

Outlook検索インデックスデータベース – バックアップと復元

「Outlookの検索インデックスローミングを有効にする」ポリシーが有効になっている場合に、ログオン中にProfile Managementが何を行うかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、ログオン時にデータベースが正常にマウントされるたびに検索インデックスデータベースをバックアップします。Profile Managementは、そのバックアップを検索インデックスデータベースの良好なコピーとして扱います。データベースの破損により検索インデックスデータベースのマウントが失敗した場合、Profile Managementは検索インデックスデータベースを最後に確認された良好なコピーに戻します。

注: Profile Managementは、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは利用可能なVHDXストレージを消費します。

Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする

Profile Managementが、同じユーザーの同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供できるようにします。「Outlookの検索インデックスローミング」ポリシーと併用してください。

このポリシーを有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。

デフォルトでは、Outlook OSTファイルを保存するために使用できるVHDXディスクは2つだけです（ディスクごとに1ファイル）。ユーザーがさらにセッションを開始すると、そのOutlook OSTファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

マルチセッションシナリオでプロファイルコンテナのライトバックを有効にできます。

注: Citrix Profile Managementプロファイルコンテナは、Citrix Profile Management 2103以降で利用可能です。FSLogix Profile Containerは、Citrix Profile Management 2003以降で利用可能です。

ポリシーが有効になっている場合、すべてのセッションでの変更はプロファイルコンテナに書き戻されます。そうでない場合、最初のセッションのみがプロファイルコンテナで読み取り/書き込みモードであるため、最初のセッションでの変更のみが保存されます。

FSLogix Profile Containerでこのポリシーを使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- FSLogix Profile Container機能がインストールされ、有効になっていること。
- FSLogixでプロファイルタイプが**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていること。

ユーザーストアをレプリケートする

ログオンおよびログオフのたびに、ユーザーストアを複数の追加パスにレプリケートできます。デフォルトでは、ユーザーストアは**ユーザーストアへのパス**ポリシーが指定するパスに存在します。

セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このポリシーは現在、完全なコンテナソリューションをサポートしていません。このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にできます。

デフォルトでは、Citrix Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。そのため、現在のユーザーがユーザーストアにアクセスする権限を持っている必要があります。状況によっては、現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージリポジトリ（Azure Filesなど）にユーザーストアを配置したい場合があります。そのような場合は、このポリシーを有効にして、Profile Managementがストレージリポジリの資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにします。

Profile Managementが資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにするには、資格情報をWorkspace Environment Management™ (WEM) またはWindows資格情報マネージャーに保存します。Profile Managementを実行している各マシンで同じ資格情報を構成する必要をなくすために、Workspace Environment Managementを使用することをお勧めします。Windows資格情報マネージャーを使用する場合は、ローカルシステムアカウントを使用して資格情報を安全に保存してください。

> **注:**
>
> NTFS権限が保持されるようにするには、プロファイル全体をプロファイルコンテナに配置する必要があります。

> 構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHDXファイルのストレージパスを指定する

Profile Managementで使用されるVHDXファイルを保存するためのストレージパスを指定できます。

Citrix Profile Managementは、次のVHDXベースのポリシーを提供します: ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ、およびフォルダミラーリングの高速化。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする

このポリシーを有効にすると、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。

このポリシーが有効になっている場合、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーによって使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期と非同期の2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが次の条件の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンします。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンします。

このポリシーを有効にすると、レジストリ値はユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーがログオンするたびに処理モードが適用されます。

OneDriveコンテナを有効にする

OneDriveフォルダをユーザーとともにローミングできるようにします。

OneDriveコンテナは、VHDXベースのフォルダローミングソリューションです。Profile Managementは、ファイル共有上にユーザーごとにVHDXファイルを作成し、ユーザーのOneDriveフォルダをVHDXファイルに保存します。VHDXファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

プロファイル管理\ログ設定

ログ記録を有効にする

Profile Managementのログ記録を有効にするかどうかを指定できます。このポリシーは、Profile Managementのトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、エラーのみがログに記録されます。

ログ設定

Profile Managementがログに記録するイベントまたはアクションを選択できます。Citrixの担当者から要求された場合にのみ、すべてを選択してください。

構成の優先順位:

1. ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、エラーと一般情報がログに記録されます。

このポリシーのチェックボックスは、.ini ファイルの次の設定に対応しています: LogLevelWarnings, LogLevelInformation, LogLevelFileSystemNotification, LogLevelFileSystemActions, LogLevelRegistryActions, LogLevelRegistryDifference, LogLevelActiveDirectoryActions, LogLevelPolicyUserLogon, LogLevelLogon, LogLevelLogoff, および LogLevelUserName。

ログファイルの最大サイズ

Profile Management ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

Profile Management ログファイルの最大サイズのデフォルト値は 10 MB です。十分なディスク容量がある場合は、この値を増やしてください。ログファイルが最大サイズを超えて大きくなった場合、次のようになります。

1. 既存のファイルのバックアップ (.bak) が削除されます。
2. ログファイルの名前が .bak に変更されます。
3. 新しいログファイルが作成されます。

ログファイルは `%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager` または **ログファイルへのパス** ポリシーで指定された場所に作成されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の 10 MB が使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。

3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログファイルへのパス

ログファイルを保存するための代替パスを構成できます。

パスはローカルドライブまたはネットワークベースのドライブ (UNC パス) を指定できます。

- 大規模な分散環境ではリモートドライブが推奨されます。ただし、大量のネットワークトラフィックが発生する可能性があり、ログファイルには適さない場合があります。
- ローカルドライブは、永続的なハードドライブを持つプロビジョニングされた仮想マシンでよく使用されます。

この設定により、マシンの再起動時にログファイルが保持されます。永続的なハードドライブを持たない仮想マシンの場合、UNC パスを設定することでログファイルを保持できます。ただし、マシンのシステムアカウントは UNC 共有への書き込みアクセス権を持っている必要があります。オフラインプロファイル機能で管理されるラップトップには、ローカルパスを使用してください。

ログファイルに UNC パスを使用する場合、Citrix はログファイルフォルダーに適切なアクセス制御リストを適用することを推奨します。アクセス制御により、承認されたユーザーまたはコンピューターアカウントのみが保存されたファイルにアクセスできるようになります。

例:

- D:\LogFiles\ProfileManagement。
- \\server\LogFiles\ProfileManagement

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルトの場所 %SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager が使用されます。

プロファイル管理\プロファイルコンテナー設定

プロファイルコンテナー

VHDX ベースのネットワークディスク (プロファイルコンテナー) を使用してユーザープロファイルを保存できます。ユーザープロファイル全体または一部を保存するために使用できます。ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナーはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダーはすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナーのローカルキャッシュを有効にする

Citrix Profile Management プロファイルコンテナーのローカルキャッシュを有効にできます。このポリシーは、プロファイルコンテナーがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ適用されます。

ポリシーが**有効**に設定されている場合、各ローカルプロファイルは、そのCitrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。

プロファイルコンテナから除外するフォルダ

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するフォルダを指定できます。

プロファイルコンテナに含めるフォルダ

親フォルダーが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに保持するフォルダーを指定できます。

このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

プロファイルコンテナに含めるファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに含めるファイルを指定できます。

このリストのファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

プロファイルコンテナから除外するファイル

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するファイルを指定できます。

プロファイル管理\レジストリ

除外リスト

ログオフ時にProfile Managementが無視するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Policies

構成の優先順位:

- このポリシーが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。
- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

インクルージョンリスト

ログオフ時にProfile Managementが処理するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Adobe。

構成の優先順位:

1. このポリシーが有効になっている場合、このリストにあるキーのみが処理されます。このポリシーが無効になっている場合、HKCUハイブ全体が処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKCUのすべてが処理されます。

デフォルトの除外リストを有効にする - Profile Management 5.5

Profile Managementがユーザープロファイルに同期しないHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ファイルを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Management はデフォルトでレジストリキーを除外しません。
2. ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。
3. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーを構成しない場合、Profile Management はデフォルトでレジストリキーを除外しません。

NTUSER.DAT のバックアップ

NTUSER.DAT の最後に正常に動作したコピーのバックアップを有効にし、破損が発生した場合にロールバックできるようにします。

ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。ここでも .ini ファイルでもこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は NTUSER.DAT をバックアップしません。

プロファイル管理\ファイルシステム

除外リスト - ファイル

Profile Management が同期中に無視するファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスである必要があります。ワイルドカードが許可され、再帰的に適用されます。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop` フォルダー内の `Desktop.ini` ファイルを無視します。
- `%USERPROFILE%*.tmp` はプロファイル全体で `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
- `AppData\Roaming\MyApp*.tmp` はプロファイルの一部で `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ

Profile Managementが同期中に無視するディレクトリのデフォルトリストを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ディレクトリを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Managementはデフォルトでどのディレクトリも除外しません。
2. このポリシーをここで構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
3. このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile Managementはデフォルトでどのディレクトリも除外しません。

除外リスト - ディレクトリ

Profile Managementが同期中に無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスとして指定する必要があります。

例:

- デスクトップは、ユーザープロファイル内のデスクトップフォルダーを無視します

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、除外されるフォルダーはありません。

ログオン除外チェック

ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが何を行うかを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっているか、デフォルト値の**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルにそれらの除外されたファイルまたはフォルダーを同期します。
2. この設定が**除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**に設定されている場合、Profile Managementはユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。この設定が**除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**に設定されている場合、Profile Managementはユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。
3. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーを同期します。

ラージファイル処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル

シンボリックリンクとして作成されるファイルを指定できます。この設定は、ログオンパフォーマンスを向上させ、大容量ファイルを処理するために使用されます。

ファイルを参照するポリシーでワイルドカードを使用できます。例: `!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.OST`。

オフラインOutlookデータファイル（*`.ost`）を処理するには、**Outlook**フォルダーがProfile Managementで除外されていないことを確認してください。

これらのファイルは、複数のセッションで同時にアクセスすることはできません。

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

同期するディレクトリ

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するフォルダーを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルからの相対パスである必要があります。

Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザープロファイルストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにユーザープロファイルのサブフォルダーを追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。

同期するファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するファイルを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルからの相対パスである必要があります。ワイルドカードはファイル名とフォルダー名で使用できます。ただし、ワイルドカードはファイル名でのみ再帰的に適用されます。

例:

- AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat は、デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
- AppData\Local\MyApp*.cfg は、プロファイルフォルダー AppData\Local\MyApp およびそのサブフォルダー内の拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザープロファイルストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにユーザープロファイル内のファイルを追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。

ミラーするフォルダー

このポリシーは、トランザクションフォルダー（参照フォルダーとも呼ばれる）に関連する問題を解決するのに役立ちます。この種のフォルダーには、相互に依存するファイルが含まれており、あるファイルが他のファイルを参照します。

このポリシーを使用すると、Profile Managementは、ユーザープロファイルを同期する際に、トランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーされません。

フォルダーミラーリングの高速化

このポリシーと**ミラーするフォルダー**ポリシーの両方が有効になっている場合、Profile ManagementはミラーされたフォルダーをVHDXベースの仮想ディスクに保存します。ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチします。このポリシーを有効にすると、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなり、フォルダーミラーリングが高速化されます。

プロファイル管理\ストリーム配信されたユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

プロファイルストリーミング機能を有効にできます。この機能を有効にすると、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにのみユーザーストアからローカルコン

ピューターにフェッチされます。`NTUSER.DAT`ファイルと保留領域内のファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。NTUSER.DATにはレジストリエントリが保存されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする

ユーザープロファイル内のフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にできます。

このポリシーと**プロファイルストリーミング**ポリシーの両方が**有効**に設定されている場合、ユーザープロファイル内のフォルダーは、ユーザーがアクセスしたときにのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

常にキャッシュ

ログオン直後にユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされるファイルのサイズの下限を指定できます。

プロファイルストリーミング機能が有効になっている場合、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルコンピューターにフェッチされます。このオンデマンドのファイルフェッチメカニズムは、ユーザーが要求するファイルが大きい場合に読み込みが遅くなる原因となります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは、指定されたサイズより大きいファイルをログオン直後にローカルコンピューターにフェッチします。

ログオン直後にプロファイル全体をローカルコンピューターにフェッチするには、この制限をゼロに設定します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

保留領域ロックファイルのタイムアウト

Profile Managementがユーザーのファイルを解放するまでのタイムアウト期間（日数）を指定できます。タイムアウトが発生すると、ストレージサーバーが応答しなくなったときにユーザープロファイルストアがロックされたままである場合、ユーザーのファイルは保留領域からユーザープロファイルストアに書き込まれます。このポリシーを使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザープロファイルストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

ユーザープロファイルがストリーミングされるWindowsユーザーグループを指定できます。

このポリシーは、OU内のWindowsユーザーグループのサブセットのプロファイルをストリーミングします。他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーミングされません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

プロファイルストリーミングが無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイルに対する相対パスとして指定する必要があります。

例: `Desktop` と入力すると、ユーザープロファイル内の `Desktop` ディレクトリが無視されます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっている場合、除外されるフォルダーはありません。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、除外されるフォルダーはありません。

> **注:**

> プロファイルストリーミングの除外は、構成されたフォルダーがプロファイル処理から除外されることを示すものではありません。Citrix Profile Managementは引き続きそれらを処理します。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする

保留領域内のファイルおよびフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にできます。

保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの一貫性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。

デフォルトでは、このポリシーは無効になっており、保留領域内のすべてのファイルとフォルダーはログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。このポリシーを有効にすると、保留領域内のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、このポリシーをプロファイルストリーミングポリシーと組み合わせて使用してください。

このポリシーは、「フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする」ポリシーが有効になっている場合、保留領域内のフォルダーに適用されます。

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

クロスプラットフォーム設定を有効にする

クロスプラットフォーム設定を有効にできます。クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行には、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。

デフォルトでは、展開を容易にするために、クロスプラットフォーム設定は無効になっています。このポリシーは、この機能の十分な計画とテストを行った後にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定のユーザーグループ

クロスプラットフォーム設定機能が適用されるWindowsユーザーグループを指定できます。たとえば、このポリシーを使用して、テストユーザーグループのプロファイルのみを処理できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが構成されている場合、Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、この機能は「処理されたグループ」ポリシーで指定されたすべてのユーザーを処理します。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

クロスプラットフォーム定義へのパス

定義ファイルが置かれているネットワークの場所を指定できます。

このパスはUNCパスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパス

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。このストアは、ユーザーのクロスプラットフォーム設定が保存されるフォルダーを指します。

このストアは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されているユーザーストア内にあります。ユーザーはストアへの書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。**ユーザー ストアへのパス**で使用される変数を使用できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、`Windows\PM_CP` パスが使用されます。

2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース

このポリシーがそのプラットフォームのOUで有効になっている場合、プラットフォームをベースプラットフォームとして指定できます。このポリシーは、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータを移行します。デフォルトでは、このポリシーは無効になっています。

各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードとして使用するベースプラットフォームとして、どのプラットフォームのプロファイルデータを使用するかを決定します。

このポリシーが有効になっている場合、次のいずれかの状況が発生すると、Profile Management はシングルプラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。

- クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている。
- シングルプラットフォームプロファイルのキャッシュデータが、ストア内の定義データよりも新しい。

> **重要:**

> このポリシーが複数のOU、ユーザーオブジェクト、またはマシンオブジェクトで有効になっている場合、最初にユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。

Profile Management\Citrix Virtual Apps最適化設定

Citrix Virtual Apps™ の最適化を有効にする

この機能を有効にすると、ユーザーが起動または終了する公開アプリケーションに固有の設定のみが同期されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Appsの最適化設定は適用されません。

Citrix Virtual Apps の最適化定義へのパス

Citrix Virtual Apps の最適化の定義ファイルを保存するフォルダーを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Appsの最適化設定は適用されません。

> **注:**
>
> フォルダーはローカルストレージまたはSMBファイル共有に配置できます。

統合

プロファイル管理とCitrix Virtual Apps™

Citrix Virtual Appsサーバーでこのバージョンのプロファイル管理を使用するには、プロファイル管理EULAに従う必要があります。プロファイル管理をローカルデスクトップにインストールして、ユーザーがローカルプロファイルを公開リソースと共有できるようにすることもできます。

注: プロファイル管理はCitrix Virtual Desktops™では自動的に構成されますが、Citrix Virtual Apps環境では構成されません。Citrix Virtual Apps展開のプロファイル管理設定を調整するには、グループポリシーまたは.iniファイルを使用してください。

プロファイル管理は、リモートデスクトップサービス（旧称：ターミナルサービス）を使用するCitrix Virtual Apps環境で機能します。これらの環境では、サポートされているオペレーティングシステムごとにOUを設定する必要があります。詳細については、Microsoftドキュメントを参照してください。

異なるバージョンのCitrix Virtual Appsを含むファーム、または異なるオペレーティングシステムを実行するファームでは、Citrixは各バージョンまたはオペレーティングシステムを実行するサーバーごとに個別のOUを使用することを推奨します。

重要: 複数のユーザーによって共有されるフォルダー（例：Citrix Virtual Appsで公開された共有アプリケーションデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

ストリーミングアプリケーション

プロファイル管理は、アプリケーションがユーザーデバイスに直接ストリーミングされる環境、またはCitrix Virtual Appsサーバーにストリーミングされ、そこからユーザーに公開される環境で使用できます。

Citrix Virtual Appsのクライアント側アプリケーション仮想化技術は、アプリケーションを自動的に分離するアプリケーションストリーミングに基づいています。アプリケーションストリーミング機能により、アプリケーションをCitrix Virtual Appsサーバーとクライアントデバイスに配信し、保護された仮想環境で実行できます。ユーザーにストリーミングされるアプリケーションを分離する理由は数多くあり、例えば、アプリケーションの競合を防ぐためにユーザーデバイス上でアプリケーションがどのように相互作用するかを制御できることなどが挙げられます。例えば、同じアプリケーションの異なるバージョンが存在する場合、ユーザー設定の分離が必要です。Microsoft

Office 2003がローカルにインストールされ、Office 2007がユーザーのデバイスにストリーミングされる場合があります。ユーザー設定を分離しないと競合が発生し、両方のアプリケーション（ローカルおよびストリーミング）の機能に深刻な影響を与える可能性があります。

ストリーミングアプリケーションでのプロファイル管理の使用に関する要件については、システム要件を参照してください。

プロファイル管理とCitrix Virtual Desktops™

重要: Citrix Virtual Desktops に統合されている Profile Management 機能を使用することをお勧めします。詳細については、 Citrix Virtual Desktops のドキュメント を参照してください。このトピックの情報は、別の展開、つまり、Profile Management コンポーネントが個別にインストールおよび構成されている Citrix Virtual Desktops の使用に適用されます。

Citrix Virtual Desktops 展開環境での Profile Management のインストールとアップグレード

このバージョンの Profile Management を Citrix Virtual Desktops で使用するには、Profile Management EULA に従う必要があります。EULA の条項に従い、Citrix Virtual Desktops 環境で Citrix Virtual Apps™ と Profile Management を使用することもできます。

Citrix Virtual Desktops 展開環境で Profile Management をアップグレードする場合は、Profile Management のアップグレード で説明されているログファイルの場所への影響を考慮してください。

Quick Deploy セットアップの Citrix Virtual Desktops については、構成の決定 の推奨事項を参照してください。

Citrix Virtual Desktops 展開環境での Profile Management の構成

イメージを展開する前に Profile Management が正しく構成されていない場合、Profile Management サービスはグループポリシーが適用される前に開始されます。これを回避するには、イメージを本番環境に投入する前に、文書化された手順を使用して構成を実行してください。

重要：複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、複数の仮想デスクトップで共有できるデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

Personal vDisk 展開環境での Profile Management の構成

Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用する場合、Citrix ユーザープロファイルはデフォルトで仮想デスクトップのパーソナル vDisk（通常は P: ドライブ）に保存されます。プロファイルはユーザーの C: ドライブには保存されません。しかし、Profile Management はプロファイルを C: ドライブにあると想定しています。そのため、Virtual Delivery Agent のインストールまたはアップグレード中にマスターイメージのレジストリを変更する必要があります。さらに、Personal vDisk の空き容量が増えたため、マスターイメージ上のアプリケーションのデフォルトのディスク容量割り当てを増やすことも推奨されます。これらの変更に関する手順については、「Managing Citrix Virtual Desktops documentation」を参照してください。

Personal vDisk にプロファイルのコピーが残っている間に、ユーザーストア内のプロファイルのコピーを削除しないでください。これを実行すると、Profile Management エラーが発生し、仮想デスクトップへのログオンに一時プロファイルが使用されます。詳細については、一般的な問題のトラブルシューティング の「ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る」を参照してください。

Windows アプリ - マイクロソフト ストア

Citrix Virtual Desktops 環境では、Microsoft Store のアプリケーション（UWP アプリとも呼ばれます）がサポートされています。プールされたマシン（プールランダム、静的、または RDS）で Microsoft Store アプリケーションを使用するには、グループポリシー管理エディターを開き、**ポリシー \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> ファイルシステム \> 同期** で次の設定を構成します。

- ミラーリングするフォルダーを有効にし、`appdata\local\packages` をミラーリングするフォルダーのリストに追加します
- 同期するファイルを有効にし、`!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*` を同期するファイルのリストに追加します

ユーザーがパーソナルvDisk（推奨ソリューション）を備えた専用デスクトップにアクセスし、そのプロファイルがすでに別のデスクトップで作成されている場合、Microsoft Storeアプリケーションが動作しない可能性があります。

Citrix Virtual Desktops の設定例

このトピックでは、一般的なCitrix Virtual Desktops展開で使用されるProfile Managementポリシー設定を一覧表示します。Windows 7仮想デスクトップはCitrix Provisioning™ Servicesで作成され、複数のユーザーで共有されます。この例では、プールされたランダムカタログから作成さ

れ、ログオフ時に削除されるデスクトップは、静的ワークステーション（モバイルノートPCではない）での使用を目的としており、パーソナルvDiskは使用されません。

ポリシーがリストされていない場合、グループポリシーで選択または入力は行われておらず、デフォルト設定が適用されます。

次の点に注意してください。

- **ユーザーストアへのパス** - ユーザーストアへのパスにProfile Management変数を組み込むことができます。この例では、パスが解釈されるときにそれぞれWin7とx86に展開される\!CTX_OSNAME\!と\!CTX_OSBITNESS\!を使用しています。AD属性#sAMAccountName#もユーザー名を指定するために使用されます。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する** - このポリシーを無効にしても安全です。デスクトップにはパーソナルvDiskが含まれておらず、ユーザーがログオフすると削除されるためです。したがって、ローカルにキャッシュされたプロファイルを保持する必要はありません。（ログオフ時にデスクトップが破棄されない場合は、このポリシーを有効にしてください。）」
- **プロファイルストリーミング** - この設定を有効にすると、この展開でのログオン時間が改善されます。
- **アクティブライトバック** - このポリシーは、この展開のプールされたデスクトップがユーザーに一時的に割り当てられるだけであるため、有効になっています。そのため、ユーザーはプロファイルを変更する可能性がありますが、デスクトップセッションを閉じるのを忘れる（または気にしない）可能性があります。この設定を有効にすると、プロファイル内のローカルファイルの変更がログオフ前にユーザーストアにミラーリングされます。

注: Active write backポリシーを有効にすると、セッション内で多数のファイル操作（ファイルの作成、ファイルのコピー、ファイルの削除など）を実行すると、高いシステムI/Oアクティビティが発生し、Profile Managementがファイル変更をユーザーストアに同期している間、一時的なパフォーマンス問題が発生する可能性があります。

- **ローカル管理者のログオンを処理する** - この設定を有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者であるCitrix Virtual Desktops展開で推奨されます。
- **処理されたグループ** - すべてのドメインユーザーのプロファイルはProfile Managementによって管理されます。
- **除外リスト - ディレクトリ** (ファイルシステム) および **除外リスト** (レジストリ) - これらの設定は、リストされた一時ファイルまたはキャッシュファイル、およびリストされたレジストリエントリが処理されるのを防ぎます。これらのファイルとエントリは、一般的にユーザープロファイルに保存されます。

- **同期するディレクトリ** および **同期するファイル** - ユーザーのアプリケーションデータがどこに保存されているかを知ることで、これらの設定を定義するのに役立ちました。

重要: Citrix Virtual Desktopsの展開は様々であるため、決定するProfile Managementポリシー設定は、この例のものとは異なる可能性があります。設定を計画するには、 構成を決定する のアドバイスに従ってください。

Citrix/プロファイル管理

Profile Management を有効にする

> 有効

処理されるグループ

> `MyDomainName\Domain Users`

ユーザーストアへのパス

> `\\MyServer.MyDomain\MyUserStore#sAMAccountName#\!CTX_OSNAME!_!CTX_OSBITNESS!`!

アクティブライトバック

> 有効

ローカル管理者によるログオンの処理

> 有効

Citrix/プロファイル管理/プロファイルの処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

> 無効

Citrix/プロファイル管理/詳細設定

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

有効

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム

除外リスト - ディレクトリ

```
$Recycle.Bin


`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`


`AppData\Local\Microsoft\Outlook`


`AppData\Local\Temp`


`AppData\LocalLow`


`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu`


`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\cache`


`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\log`


`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\tmp`
```

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム/同期

同期するディレクトリ

> `AppData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Dazzle Apps`

ミラーリングするフォルダー

> `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

Citrix/プロファイル管理/ストリーミングユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

> 有効

プロファイル管理とUE-V

Profile Management 5.xとMicrosoft User Experience Virtualization (UE-V) 2.0は、同じ環境で共存できます。複数のプロファイルバージョン（例: バージョン1とバージョン2のプロファイル）が存在する場合、UE-Vは役立ちます。このため、UE-Vが存在する場合は、Citrix Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能を使用しないでください。UE-Vは、より多くのアプリケーション、ユーザーセッション中の同期、およびアプリケーションのXML構成と生成をサポートするため、その機能よりも優先される場合があります。

Profile ManagementがUE-Vと共存する場合、クロスプラットフォーム設定機能が有効になっているかどうかにかかわらず、次の点に注意してください。

- `AppData\Local\Microsoft\UEV`フォルダーを除外します。UE-Vによってキャプチャされたプロファイル設定は、Profile Managementによってキャプチャされたプロファイル設定を上書きします。
- UE-Vによって制御されるプロファイルを、Profile Managementのみによって制御されるプロファイルと共有しないでください。共有した場合、「最後の書き込みが優先されます」。つまり、プロファイルを同期する最後のコンポーネント（UE-VまたはProfile Management）が、どのデータが保存されるかを決定し、データ損失につながる可能性があります。

注: UE-VにはMicrosoft Desktop Optimization Pack (MDOP)が必要です。

プロファイル管理とCitrix Content Collaboration™

この記事の情報は、Citrix Content Collaborationの展開におけるProfile Managementの使用に適用されます。その一部は、他のインターネットベースのファイル共有システムにも役立つ場合があります。

Profile Management 4.1.2以降でCitrix Content Collaborationを使用できます。Citrix Content Collaborationはオンデマンドモードでのみサポートされています。

インストール

ShareFile 2.7を使用している場合、互換性の問題を回避するために、Profile Managementをインストールする前にこのバージョンをインストールしてください。このインストール依存関係はShareFile 2.6には存在しません。

除外

Citrix Content Collaborationは、構成データをローカルの`\AppData\Roaming\ShareFile`フォルダーに保存します。Citrixユーザープロファイルを持つユーザーの場合、ユーザー固有のCitrix Content Collaboration構成が保持されるように、このデータはユーザープロファイルとともにローミングする必要があります。この`ShareFile`フォルダーはプロファイルの一部であるため、Profile Managementの構成は不要です。構成データはデフォルトでローミングされます。

ただし、Citrix Content Collaborationによって管理されるユーザーデータは、プロファイルのルートにある`ShareFile`フォルダー（`%USERPROFILE%\ShareFile`）に含まれています。このデータはCitrix Content Collaborationサーバーによって管理され、同期されるため、プロファイルとともにローミングしてはなりません。したがって、このフォルダーをProfile Managementの除外対象として追加する必要があります。除外設定の手順については、「アイテムの包含と除外」を参照してください。

パーソナルvDisk

Personal vDiskを使用して仮想デスクトップを作成する場合、vDisk上のユーザーデータの場所でCitrix Content Collaborationを構成します。これにより、デスクトップとCitrix Content Collaborationサーバー間でファイル同期が行われるようになります。デフォルトでは、Personal vDiskはデスクトップ上でP:ドライブとしてマッピングされるため、データは`P:\Users\<user name\>`に配置される可能性があります。この場合、Citrix Content CollaborationのLocalSyncFolderポリシーを使用して場所を設定します。

重要: Profile ManagementとPersonal vDiskのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性のある不要な同期を防ぐため、仮想デスクトップで同期する必要がある場合を除き、大きなファイルを含むフォルダーでは**Folder-ID**設定を使用することをお勧めします。これはShareFileの設定です。

プロファイル管理と App-V

Microsoft Application Virtualization 5.x (App-V 5.x) と同じ環境で Profile Management を使用できます。

> **注:**

> Profile Management は、グローバルに公開された App-V のみをサポートします。

> Profile Management の除外機能を使用して、次の項目を除外します。

- プロファイル管理\\ファイルシステム\\除外リスト\\ディレクトリ:
  - `AppData\Local\Microsoft\AppV`
  - `AppData\Roaming\Microsoft\AppV\Client\Catalog`
- プロファイル管理\\レジストリ\\除外リスト：
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Integration`
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing`

除外設定の手順については、「項目の含める/除外」を参照してください。

App-V で **UserLogonRefresh** 設定が有効になっている場合は、Profile Management のプロファイルストリーミングポリシーを無効にします。この制限は、**UserLogonRefresh** とプロファイルストリーミングの非互換性によるものです。

App-V アプリケーションをシーケンスする方法の例については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/application-management/app-v/appv-sequence-a-new-application>` を参照してください。

App-V が有効なサードパーティの Profile Management ソリューションの構成については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoft-desktop-optimization-pack/appv-v5/performance-guidance-for-application-virtualization-50>` を参照してください。
Microsoft Windows 10 システムでは `Software\Classes` を含めないでください。

プロファイル管理とプロビジョニングサービス

この記事では、Citrix Provisioning Servicesで作成された仮想ディスク（vDisk）上のCitrixユーザープロファイルを維持するためのアドバイスを記載しています。このアドバイスに従う前に、「永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有」で説明されているように、vDisk構成がProfile Management構成にどのように影響するかを理解してください。

サポートされているモード

Profile Managementは、標準イメージモードおよびプライベートイメージモードで実行されているvDiskで使用できますが、差分ディスクイメージモードでは使用できません。

マスターターゲットデバイスから不要なローカルキャッシュプロファイルを削除するには

不要なローカルキャッシュプロファイルが保存されないようにするには、マスターターゲットデバイスイメージを取得する前に、標準イメージモードで実行されているvDiskからこれらのプロファイルを削除してください。ただし、現在ログオンしているローカル管理者のプロファイルは削除しないでください。これを実現する良い方法は次のとおりです。この手順中に、エラーメッセージが表示される場合があります。

1. コンピューターを右クリックします。
2. プロパティを選択します。
3. ［システムの詳細設定］をクリックします。
4. ［詳細設定］タブで、［ユーザープロファイル］の［設定］をクリックします。
5. 削除する各プロファイルを強調表示し、［削除］をクリックします。

vDiskイメージからログファイルを取得する

このトピックでは、Citrix Provisioning™ Servicesで作成された共有（vDisk）イメージに存在するログファイルの使用に関するガイダンスを提供します。Profile Managementはログオフ時にファイルを保存します。ただし、vDiskイメージを使用する場合、ベースイメージがリセットされる可能性があり、その結果ログファイルが削除されるという事実に注意してください。したがって、ファイルを回復するために何らかの措置を講じる必要があります。講じる措置は、ログファイルがログオン時に削除されるかログオフ時に削除されるかによって異なります。

vDiskイメージの使用はCitrix Virtual Desktops™の展開で一般的であるため、このトピックのガイダンスではその製品を例として使用します。

ログオフ時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイル全体またはその一部がネットワーク上のユーザーストアに保存されない場合、ログファイルもそこに保存されません。

Provisioning Servicesのライトキャッシュがprovisioning Servicesを実行しているコンピューターに保存されている場合、この問題は発生しません。そして、ログファイルはユーザープロファイルストアに保存されます。

ライトキャッシュがローカルに保存されている場合、この手順ではユーザーと同じデバイスからログオンする必要があるかもしれません。ただし、ライトキャッシュがRAMにローカルに保存されている場合、これも失敗する可能性があります。

ライトキャッシュがProvisioning Servicesを実行しているコンピューターにない場合、vDiskイメージのコピーを作成する必要があるかもしれません。それを新しい仮想マシンに割り当て、ライトキャッシュがそのコンピューターに保存されるようにイメージ上のライトキャッシュを変更します。

1. Citrix仮想デスクトップで、デスクトップグループを作成し、1つの仮想マシンを追加して、vDiskイメージを指すようにします。
2. 1人のテストユーザーと管理者に仮想マシンへのアクセスを許可します。
3. デスクトップグループのアイドルプール数を終日1に変更します（電源管理によるマシンのシャットダウンを停止するため）。ログオフ動作を「何もしない」に設定します（マシンの再起動とイメージのリセットを防ぐため）。
4. テストユーザーとして仮想デスクトップにログオンし、その後ログオフします。
5. XenCenter®またはVMwareコンソールから管理者としてログオンし、ログファイルを取得します。

デスクトップグループの作成とプロパティの変更に関する詳細については、Citrix Virtual Desktops documentationを参照してください。

ログオン時に削除されるログファイルを取得するには

ネットワーク上のユーザープロファイルストアにプロファイルが存在するにもかかわらず、ユーザーがログオンしたときに正しくロードされない場合、ログファイルのエントリは失われます。

1. `\\<vmhostname>\C$` にドライブをマップし、ユーザーがセッションからログオフする前に、ログファイルを見つけます。ログファイルは完全ではありません（一部のエントリが欠落している可能性があります）が、トラブルシューティングしている問題がログオン時に発生している場合、問題の原因を特定するのに十分な情報を提供できます。

Provisioning Servicesログファイルを再配置するには

標準イメージモードを使用すると、システムがシャットダウンしたときにProvisioning Servicesイベントログファイルが失われます。これを防ぐためにファイルのデフォルトの場所を変更する方法については、Knowledge Centerの記事CTX115601を参照してください。

プロビジョニングされたイメージでのProfile Managementの事前構成

Citrix Provisioning Services、Citrix XenServer、VMware ESXなどのプロビジョニングソフトウェアを使用すると、Profile Managementがプレインストールされたイメージを構築できます。その際、イメージのセットアップ中にレジストリに一部のグループポリシー設定が取り込まれる可能性があります。たとえば、Provisioning Servicesでプライベートイメージモードの場合に発生します。イメージを展開しても、設定は残っています。たとえば、Provisioning Servicesで標準イメージモードに戻した場合などです。理想的には、仮想マシンが起動したときの状態と、ユーザーがログオンしたときの要件に適したデフォルトを選択してください。少なくとも、永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有で説明されているポリシーに適切なデフォルトが設定されていることを確認してください。

Citrix Profile Management Serviceが起動する前に`gpupdate`が実行されない場合、デフォルトが使用されます。したがって、ほとんどの場合に適切なデフォルトであることを確認するのが最善です。この手順を使用して、イメージに保持したいこれらの設定やその他の設定を事前構成します。

注：Provisioning Servicesを使用する場合は、まずProfile Managementの.iniファイルでイメージを事前構成することをお勧めします。そして、テストが成功したことが確認されてから、設定を.admまたは.admxファイルに転送してください。

1. .admまたは.admxファイルを使用する場合は、適切なGPOでファイルを使用して目的の設定を変更します。.iniファイルを使用する場合は、この手順を省略します。変更は後の手順で行います。
2. ログレベルにも同じ変更を加えます。
3. 次のいずれかを実行します。
    - イメージをプライベートイメージモード（Citrix Provisioning™ Services）に切り替え、その上でオペレーティングシステムを起動します。
    - オペレーティングシステムを起動します（Citrix XenServer®またはVMware ESX）。

4. 管理者アカウント（設定した可能性のあるテストユーザーアカウントではない）を使用してログオンし、`gpupdate /force`を実行します。この手順により、レジストリが正しく構成されます。
5. .iniファイルを使用する場合は、ファイル内の目的の設定を変更します。
6. Profile Management Serviceを停止します。
7. 新しく作成されるログファイルとの混同を避けるため、古いProfile Managementログファイルと構成ログファイルを削除します。これらは古いイメージの名前を使用するファイル名を持っています。更新されたイメージには新しいファイル（新しいイメージの名前を持つ）があるため、これらは冗長です。
8. 次のいずれかを実行します。
    - イメージを標準イメージモード（Citrix Provisioning Services）に戻します。
    - 更新されたイメージ (Citrix XenServer または VMware ESX) を保存します。
9. イメージ上でオペレーティングシステムを起動します。

プロファイル管理とセルフサービスプラグイン

デフォルトでは、Profile Management は Windows の「**スタートメニュー**」フォルダーを除外します。Citrix Self-service Plug-in のユーザーは、購読しているアプリケーションを「**スタートメニュー**」で確認できません。このデフォルトの動作を調整するには、「**除外リスト - ディレクトリ**」ポリシーからフォルダー `%APPDATA%\Microsoft\Windows\Start Menu` を削除します。さらに、構成に GPO を使用する場合は、Profile Management の .ini ファイルを削除することをお勧めします。これらの操作により、購読しているアプリケーション（およびユーザーが作成したサブフォルダー）を含む「**スタートメニュー**」フォルダーが Profile Management によって処理されるようになります。

注： Group Policy ではなく Profile Management の .ini ファイルを使用している場合は、そのファイルのデフォルトの除外リストからこのエントリを削除してください。

プロファイル管理とOutlook

この記事では、Microsoft Outlookとローミングプロファイルを統合するためのベストプラクティスについて説明します。

ユーザーがOutlookデータをネットワーク共有やローカルではなく、サーバーに保存するようにすることは良い習慣です。

ローミングプロファイルを使用する場合、環境変数 `%UserProfile%` で定義された場所（ローカルコンピューター上）にあるファイルとフォルダーは、`%UserProfile%\Local Settings` という1つのフォルダーを除いて、ユーザーとともにローミングします。この例外はOutlookユーザーに影響します。なぜなら、Microsoftの推奨により、デフォルトで一部のOutlookデータ（例えば、`.ost`、`.pst`、および `.pab` ファイル）がこの非ローミングフォルダーに作成されるためです。

重要: この場所にあるファイルは通常サイズが大きく、ローミングプロファイルのパフォーマンスを妨げます。

以下のプラクティスは、Outlookを使用するローミングプロファイルのトラブルシューティングを減らし、ユーザーと管理者による適切なメール管理を促進します。

- 可能であれば、`.pst` ファイルの使用を禁止するMicrosoft Office用のADMテンプレートを使用してください。
- ユーザーがより多くのスペースを必要とする場合は、ネットワーク共有ではなく、Microsoft Exchangeサーバーのストレージを増やしてください。
- 個々のユーザーに `.pst` ファイルの例外を許可したり、個人のストレージ容量を増やしたりするのではなく、会社全体でメール保持ポリシー（会社全体のメールストレージサーバーを含むもの）を定義し、適用してください。このポリシーは、ユーザーが受信トレイへのメール復元を簡単に要求できるようにすることで、`.pst` ファイルへの依存を抑制する必要もあります。
- `.pst` ファイルを禁止できない場合は、プロファイル管理またはローミングプロファイルを構成しないでください。**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能は、`.pst` ファイル向けには設計されていません。

Password ManagerとシングルサインオンでWindowsプロファイルを使用する

この記事には、プロファイル管理に特化した情報は含まれていません。Citrix Single Sign-onがローカルプロファイル、移動プロファイル、強制プロファイル、またはハイブリッドプロファイルで最適に動作するように、特定のWindowsオプションを構成する方法について説明します。このトピックは、Citrix Single Sign-on 4.8または5.0に適用されます。

ローカルプロファイル

ローカルプロファイルは、ユーザーがログオンしたローカルサーバーに保存されます。Password Managerとシングルサインオンは、ユーザーレジストリの

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password Manager`ハイブにレジストリ情報を次の場所に保存します。

`%SystemDrive%\Documents`および`Settings\%username%\NTUSER.DAT`。

ファイルは次の場所にも保存されます。

`%SystemDrive%\Documents and Settings\%username%\Application Data\Citrix\MetaFrame Password Manager`。

Windows 7では、シングルサインオンは以下を使用します。

`%APPDATA%\Roaming\Citrix\MetaFrame Password Manager`

重要: シングルサインオンが以下のファイルに対してフルコントロールアクセス権を持つことが不可欠です。

ファイル名	説明
%username%.mmf	aelist.iniへのポインターを含むユーザーの資格情報ファイル。
entlist.ini	同期ポイントまたはActive Directoryでエンタープライズレベルで作成されたアプリケーション定義ファイル。
aelist.ini	ユーザーのローカルアプリケーション定義ファイル (applist.ini) とエンタープライズアプリケーション定義 (entlist.ini) をマージして作成されたアプリケーション定義ファイル。

移動プロファイル

移動プロファイルはネットワーク共有に保存され、ユーザーがログオンするたびにローカルサーバーのコピーに同期されます。移動プロファイルの展開を成功させるには、SAN (System Area Network) や NAS (Network Area Storage) などの高速ネットワーク接続が必要です。その他の一般的な展開には、プロファイルが高可用性サーバーに保存されるクラスタリングソリューションが含まれます。

移動プロファイルと強制プロファイルの展開には、次の2つの問題があります。

- 単一の移動プロファイルは、1つのファイル同期ポイントでのみ使用できます。複数の同期ポイントを使用すると、メモリマップドファイル (MMF) のデータが破損する可能性があります。
- 移動プロファイルが複数の同時セッションで使用される場合、バックエンドのMMFを共有します。すべてのアクティブなセッションは、再試行ロックカウンター、最終使用データカウンター、イベントログエントリなどの共通セッションデータを共有します。

強制プロファイルまたはハイブリッドプロファイル

強制プロファイルは、定義上、ユーザーの読み取り専用プロファイルです。シングルサインオンには、**Application Data** の下のプロファイルフォルダーへの書き込み権限が必要です。強制プロファイルでは、ユーザーが変更を加えることはできますが、ログオフ時に変更がプロファイルに保存されることはありません。シングルサインオンが強制プロファイルで正しく機能するためには、Application Dataフォルダーをリダイレクトする必要があります。

レジストリの変更は、ユーザーがログオンするたびに書き込まれます。資格情報が同期ポイントと同期されますが、変更はプロファイルに保存されません。

Windows 2000以降、Microsoftは**Application Data**フォルダーをリダイレクトするメカニズムを提供しています。ただし、Windows NT4ドメインを使用する場合は、**Application Data**フォルダーの場所を変更できるログオンスクリプトが必要です。これには、`Kix` や `VBScript` などのツールを使用して、**Application Data**フォルダーの書き込み可能な場所を定義することで実現できます。

次の例では、ユーザーログオン中に `Kix` を使用して **Application Data** フォルダーをリダイレクトします。

重要: このサンプルスクリプトは情報提供のみを目的としています。テストせずに環境で使用しないでください。

```
$LogonServer = "%LOGONSERVER%"

$HKCU = "HKEY_CURRENT_USER"

$ShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Shell

Folders"
```

```
$UserShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User

Shell Folders"

$UserProfFolder =

"$LogonServer\profiles\@userID"

$UserAppData =

"$LogonServer\profiles\@userID\Application Data"

$UserDesktop =

"$LogonServer\profiles\@userID\Desktop"

$UserFavorites =

"$LogonServer\profiles\@userID\Favorites"

$UserPersonal = "X:\My Documents"

$UserRecent =

"$LogonServer\profiles\@userID\Recent"

if (exist("$UserAppData") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserAppData"'

endif

if (exist("$UserDesktop") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserDesktop"'

endif

if (exist("$UserRecent") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserRecent"'
```

```
endif

if (exist("$UserFavorites") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserFavorites"'

endif
```

ハイブリッドプロファイルは、強制プロファイルの問題に対するもう1つの解決策です。ユーザーがログオンすると、強制プロファイルがロードされ、カスタムアプリケーションがユーザーが利用できるアプリケーションに基づいてユーザーレジストリハイブをロードおよびアンロードします。強制プロファイルと同様に、ユーザーはセッション中にレジストリのそれらの部分を変更できます。強制プロファイルとの違いは、ユーザーがログオフするときに変更が保存され、再度ログオンするときに再ロードされることです。

ハイブリッドプロファイルを使用する場合、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password` レジストリキーはログオンおよびログオフプロセスの一部としてインポートおよびエクスポートする必要があります。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーオブジェクトとActive Directoryを使用して実装されます。これは、ユーザープロファイルの一部であるフォルダーの場所を定義するためにグループポリシーを使用します。

リダイレクトできるフォルダーは4つあります。

- マイドキュメント
- アプリケーションデータ
- デスクトップ
- スタートメニュー

グループポリシーを使用して、基本リダイレクトと高度なリダイレクトの2つのリダイレクトモードを設定できます。どちらもシングルサインオンでサポートされています。Windows 2000では、アプリケーションデータを格納する共有を`%username%`変数を使用して参照する必要があります（例：`\\servername\sharename\%username%`）。

フォルダーリダイレクトはユーザーに対してグローバルであり、そのユーザーのすべてのアプリケーションに影響します。**Application Data**フォルダーを使用するすべてのアプリケーションは、これをサポートする必要があります。

フォルダーリダイレクトの詳細については、以下のMicrosoftの記事を参照してください。

方法: フォルダーリダイレクトを使用して安全なリダイレクトフォルダーを動的に作成する

Windowsのフォルダーリダイレクト機能

管理者がリダイレクトされたフォルダーにアクセスできるようにする

ベストプラクティス

- 可能な場合は、Application Dataフォルダーをリダイレクトします。このアプローチにより、ネットワークパフォーマンスが向上し、ユーザーがログオンするたびにこれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなります。
- Password Manager Agentのトラブルシューティングを行う際は、ログオンしているユーザーが自身のApplication Dataフォルダーに対してフルコントロールのアクセス許可を持っていることを常に確認してください。

トラブルシューティング

Profile Managementの設定を確認する

問題のトラブルシューティングの最初のステップとして、現在のProfile Managementの設定を次のように確認します。

1. Citrix Directorでトラブルシューティングを開始します。このコンソールには、問題の診断と修正に役立つプロファイルのプロパティが表示されます。
2. UPMConfigCheckツールを使用して、稼働中のProfile Management展開を調査し、最適に構成されているかどうかを判断します。

   このツールのインストールと使用方法の詳細については、Knowledge Centerの記事CTX132805を参照してください。
3. Profile Managementの.iniファイルが使用されている場合は、影響を受けるマシンでその構成を確認します。
4. リストとして入力するProfile Managementポリシー（除外リストや包含リストなど）を無効にするには、ポリシーを「Disabled」に設定します。「Not Configured」に設定しないでください。
5. 影響を受けるマシンで`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies`レジストリエントリを確認します。GPタトゥーイングの問題により古いポリシーがある場合は、それらを削除します。タトゥーイングは、ポリシーがGPから削除されてもレジストリに残る場合に発生します。
6. 各ユーザーに適用されているProfile Management設定を含むUPMSettings.iniファイルを確認します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。

Profile Managementログファイルを確認する

ログファイルは、システム動作のトラブルシューティングに役立ちます。Profile Management設定の確認後、Profile Managementのログ記録を有効にし、問題を再現してログファイルを確認してください。

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログ記録を有効にする。

2. マシンで問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager`フォルダー内のProfile Managementログファイル（例: #computername#.#domainname#_pm.log）でエラーと警告を確認します。それぞれ「ERROR」または「WARNINGS」という単語を検索して見つけます。

   ログファイルの詳細については、この記事の後半にあるリファレンスを参照してください。
4. ユーザーストアへのパスが正しいことを確認します。
5. Active Directoryからのすべての情報が正しく読み取られたことを確認します。
6. タイムスタンプを確認して、時間がかかりすぎるアクションがないか調べます。

> **ヒント:**
>
> Microsoft Excelを使用してProfile Managementログファイルを確認できます。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX200674を参照してください。

Profile Managementのログ記録を有効にする

Profile Managementのログ記録は、Profile Management展開で問題のトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にしてください。問題が解決したら、ログ記録を無効にし、機密情報が含まれている可能性があるためログファイルを削除してください。

Profile Managementのログ記録は、次の方法で有効にできます。

- アクティブディレクトリ内のGPO
- シトリックス スタジオ
- ワークスペース エンバイロメント マネジメント™ (WEM)

GPOを使用してProfile Managementのログ記録を有効にし、関連設定を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、グループポリシーオブジェクトを作成します。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrixコンポーネント > Profile Management > ログ設定**にアクセスします。
3. Profile Managementのログ記録を次のように有効にします。
   a. **ログ記録を有効にする**をダブルクリックします。
   b. **有効**をクリックします。

c. **OK**をクリックします。

4. Profile Managementがすべてのイベントとアクションをログに記録するように有効にします。

   a. **ログ設定**をダブルクリックします。

   b. すべてのイベントとアクションを選択します。それらの説明の詳細については、イベントとアクションを参照してください。

   c. **OK**をクリックします。

5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、次の手順に従います。

   a. 「**ログファイルの最大サイズ**」をダブルクリックします。

   b. 「**有効**」をクリックし、「**最大サイズ (バイト単位)**」フィールドにサイズを入力します。

   c. 「**OK**」をクリックします。

> 「**ヒント:**」:
>
> 最大サイズに達すると、Profile Management はバックアップファイル (例: Logfilename.log.bak) を1つ保持します。

6. マシンで `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   これらのポリシーはマシンに適用されます。

ログ設定ポリシーの詳細については、「Profile Management のポリシーの説明とデフォルト」を参照してください。

リファレンス

このセクションでは、次の情報を提供します。

- ログの種類
- イベントとアクション
- Profile Management ログファイルのフィールド

ログの種類

この表は、Profile Management のトラブルシューティングに使用できるログを示しています。

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
Profile Management ログファイル	#computername#.#domainname#_pm.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	情報メッセージ、警告、エラーは、Profile Management ログファイルに書き込まれます。ドメイン名はコンピューターのドメインです。コンピューター名が特定できない場合、このログファイルは UserProfileManager.log と呼ばれます。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインが特定できない場合、ログファイルは #computername#_pm.log と呼ばれます。
Profile Management 構成ログファイル	#computername#.#domainname#_pm_config.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	構成ログファイルは、ログ記録がオフになっている場合でも、GPO および .ini ファイルの設定をキャプチャします。コンピューター名が特定できない場合、UserProfileManager_pm_config と呼ばれます。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインが特定できない場合、ログファイルは #computername#_p

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			m_config.log と呼ばれます。
Windows イベントログ	Application.evtx	%SystemRoot%\System32\winevt\Logs	Microsoftイベントビューアーで表示するWindowsイベントは、主にエラー報告に使用されます。エラーのみが書き込まれます。

イベントとアクション

この表は、Profile Managementがログに記録できるイベントとアクションを一覧表示します。

種類	説明
一般的な警告	すべての一般的な警告。
一般的な情報	すべての一般的な情報。
ファイルシステム通知	処理されたファイルまたはフォルダーが変更されるたびに、1つのログエントリが作成されます。
ファイルシステムアクション	Profile Managementによって実行されるファイルシステム操作。
レジストリアクション	Profile Managementによって実行されるレジストリアクション。
ログオフ時のレジストリの差異	セッション中に変更されたHKCUハイブ内のすべてのレジストリキー。重要：この設定は、ログファイルに大量の出力を生成します。
Active Directoryアクション	Profile ManagementがActive Directoryをクエリするたびに、エントリがログファイルに書き込まれます。
ポリシー値	Profile Managementサービスが開始されるか、ポリシーの更新が行われると、ポリシー値がログファイルに書き込まれます。

種類	説明
ログオン	ログオン中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。
ログオフ	ログオフ中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。
パーソナライズされたユーザー情報	該当する場合、ユーザー名とドメイン名がログファイルの専用列に記録されます。

ログファイルフィールド

Profile Managementログファイルの各行には、セミコロンで区切られた複数のフィールドがあります。この表は、ログファイルフィールドの一覧です。

フィールド	説明
日付	ログエントリの日付
時刻	ログエントリの時刻（ミリ秒を含む）
重大度	INFORMATION、WARNING、またはERRORのいずれか
ドメイン	ユーザーのドメイン（該当する場合）
ユーザー名	ユーザーの名前（該当する場合）
セッションID	セッションID（該当する場合）
スレッドID	この行を作成したスレッドのID
機能と説明	その時点で実行されているProfile Management機能の名前とログメッセージ

Windows イベントの確認

Profile Management によってログに記録された Windows イベントは、トラブルシューティングのための診断情報も提供します。Windows イベントは、`%SystemRoot%\System32\winevt\Logs\` フォルダーの Application.evtx ファイルに保存されます。

Windows イベントビューアーを使用してイベントを表示するには、次の手順に従います。

1. Windows マシンで **イベントビューアー** を起動します。
2. 左ペインで **Windows ログ > アプリケーション** ノードを選択します。

   イベントは右ペインに表示されます。

イベント一覧

Profile Management によってログに記録されるイベントは、すべてが連続して番号付けされているわけではなく、このバージョンの Profile Management で使用されるわけでもありません。ただし、以前のバージョンからアップグレードした場合は、ログに記録される可能性があります。

イベントID	説明	原因	対処法
6	Citrix Profile Management サービスが開始されました。	Citrix Profile Management サービスが開始されました。これは、自動起動、手動起動、または再起動の結果である可能性があります。	起動または再起動が計画外であった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
7	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。これは手動による停止、またはシャットダウン処理の一部である可能性があります。	サービスの停止が計画外であった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
8	ユーザーのプロファイルは、Citrix Profile Managementの新しいバージョンによって変更されたため、このバージョンでは使用できません…	このマシンのCitrix Profile Management サービスは、新しいバージョンのProfile Managementがユーザーストア内のユーザープロファイルを変更したことを検出	このコンピューター（およびユーザーストアを共有し、以前のバージョンの Profile Management を使用している他のすべてのコンピューター）を最新バー

イベントID	説明	原因	対処法
		しました。データ損失の可能性を防ぐため、以前のバージョンのProfile Managementは一時プロファイルの使用に戻ります。	ジョンにアップグレードしてください。
9	ログオンフックの検出で問題が発生しました…	Citrix Profile Managementサービスは、ログオン通知の設定中に問題を検出しました。Citrix Profile Managementサービスでは、インストールパスにスペースが含まれていないこと、またはサービスがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートが有効になっていることが必要です。	Citrix Profile Managementをスペースのないパスに再インストールするか、Profile Managementがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートを有効にしてください。
10	ユーザーストアへのユーザーパスは…	指定された場所に有効なCitrixユーザープロファイルが見つかりました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
11	spsMain: CreateNamedPipeが失敗しました…	(このイベントは使用されなくなりました。)	なし。
12	StartMonitoringProfile: ログオン中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してく

イベントID	説明	原因	対処法
		変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Management はこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ださい。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
13	StopMonitoringProfile: ログオフ中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーの監視を停止できませんでした。Windows変更ジャーナル管理で問題が検出され、サービスが変更の監視を停止できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。ユーザーのファイルおよびレジストリの変更は同期されません。	Profile Management によって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
14	CJIncreaseSizeIfNecessary: 変更ジャーナルの作成/サイズ変更に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	Profile Management によって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュー

イベントID	説明	原因	対処法
		ジャーナルを作成またはサイズ変更しようとしたときに問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
15	CJInitializeForMonitoring: ジャーナルを照会できません…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを照会しているときに問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
16	CJInitializeForMonitoring: 初期MFTスキャンがエラーで終了しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュー

イベントID	説明	原因	対処法
		ジャーナルの初期スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
17	CJInitializeForMonitoring: サービス開始以降のFS変更の処理に失敗しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出されました。このエラーは、サービスが変更を監視するのを妨げません。Citrix Profile Managementはこのディレクトリを通常どおり処理します。	このエラーはProfile Managementの動作を妨げるものではありませんが、念のためエラーを確認してください。Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
18	CJProcessAvailableRecords: 内部エラー…	Citrix Profile Managementサービスで、プロファイル	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイル

イベントID	説明	原因	対処法
		または拡張同期用に構成されたフォルダーの監視中に障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが最近の変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーの処理を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	または拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
19	USNChangeMonitor: 変更ジャーナルの初期化に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスで、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーの監視中に障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを準備中に問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのディレクトリの処理を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
20	CADUser::Init: DNSドメインとADsPath	ログオンしているユーザーに関する情	コンピューターがドメインコントロー

イベントID	説明	原因	対処法
	の特定に失敗しました…	報をActive Directoryにクエリ中に問題が発生しました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ラーへの機能するネットワークパスを持っていることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
21	DNSドメインとADsPathの特定に失敗しました…	この問題は、Microsoft TechNetの記事263693に記載されているように、メモリ割り当ての制限によって引き起こされる可能性があります。	この問題の解決策は、Citrix Knowledge Centerの記事 CTX124953に記載されています。
22	ファイルアクセスが遅かった。ユーザーは、ユーザー ストアからファイルがフェッチされる際に遅延を経験しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Management はこの操作に遅延を検出しました。ユーザーには警告メッセージが表示されました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズ向けアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Management のドキュメントを参照してください。

イベントID	説明	原因	対処法
23	ファイルアクセスが拒否される可能性があります。ユーザーは、ユーザー ストアからファイルがフェッチされる際に長い遅延を経験しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Management はこの操作に非常に大きな遅延を検出したため、アクセスが拒否される可能性があります。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズ向けアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Management のドキュメントを参照してください。
24	RevertToSelf がエラーコードで失敗し、Profile Management がシャットダウンされました。	一部のログオンおよびログオフ処理は、偽装を使用して実行されます。RevertToSelf 関数は通常、偽装が完了したときに呼び出されます。この場合、関数は呼び出されませんでした。そのため、セキュリティ上の理由から、Profile Management ソフトウェアはシャットダウンされました。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。	セキュリティ侵害が疑われる場合は、組織の手順に従って対処し、Profile Management を再起動してください。
25	ユーザーのプロファイルは Citrix Profile Management によっ	このコンピューター上のCitrix Profile Management Service	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であ

イベントID	説明	原因	対処法
	て管理されていますが、ユーザー ストアに到達できません…	は、指定されたユーザーストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないことが原因です。	り、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
26	デフォルトのプロファイル場所が無効です。この場所のプロファイルは正しく監視できません…	このコンピューター上のプロファイルは、ドライブ文字（例: C:）にマウントされたディスク上にある必要があります。	このコンピューター上のプロファイルをドライブ文字にマウントされたディスクに移動し、Profile Managementを再起動してください。
27	ユーザーのプロファイルフォルダーがデフォルトのプロファイル場所にありません…	レジストリ内で、このユーザーのプロファイルの場所とデフォルトプロファイルの場所が一致しません。これは、たとえば、Profile Management Serviceを実行しているマシン上の異なるボリューム間でプロファイルが移動された場合に発生する可能性があります。	このユーザーのプロファイルがデフォルトのフォルダーの場所にあることを確認してください。必要に応じて適切なツールを使用し、ファイルシステム内のプロファイルデータがプロファイルのレジストリ設定と一致するようにしてください。
28	ユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしようとしているときにエラーが発生しました。	このCitrixユーザープロファイルの作成に使用されたデフォルトまたはテンプレートプロファイルのレジストリに権限の問題がある可能性があります。	必要に応じて、SetAclなどのサードパーティユーティリティを使用して、Profile Managementユーザーストア内のユーザーのレジストリハイブのセキュリ

イベントID	説明	原因	対処法
			ティ権限をリセットしてください。
29	テンプレートプロファイルパスが構成されていますが、プロファイルが見つかりませんでした...	指定されたフォルダーにはNTUSER.DATファイルが含まれていないため、テンプレートプロファイル設定で使用できません。この問題は、NTUSER.DATファイルを含むフォルダーではなく、NTUSER.DATファイルのフルパスが構成されている場合に頻繁に発生します。テンプレートプロファイル設定は、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。	テンプレートプロファイルを含むフォルダーへの有効なパスが構成されていることを確認してください。そのパスにNTUSER.DATが含まれていることを確認してください。このファイルが有効であり、すべてのファイルへの読み取りアクセスを許可するようにフォルダーのアクセス権が正しく設定されていることを確認してください。
33	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローカルプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
34	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローミングプロファイルからユーザース	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。

イベントID	説明	原因	対処法
	トアにプロファイルを作成しました		
35	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるテンプレートプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています
36	USER の既存のプロファイルフォルダを、このユーザーの新しいCitrix強制プロファイル用に準備できません。可能であれば、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。	Citrix強制プロファイルは、ログオンごとにテンプレートプロファイルのコピーを使用します。既存のプロファイルはすべて削除され、Citrix強制プロファイルは指定されたテンプレートの場所からコピーされます。このプロセスは失敗しました。	既存のプロファイルフォルダを手動で削除してください。ファイルが別のプロセスによってロックされており、削除が失敗する場合は、コンピューターを再起動する必要があるかもしれません。テンプレートフォルダが存在し、ユーザーがその内容を読み取る権限を持っていることを確認してください。
37	ユーザーのユーザーストアパスに到達できません。このユーザーには一時プロファイルが作成され、このユーザーストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上のCitrix Profile Managementサービスは、指定されたユーザーストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。

イベントID	説明	原因	対処法
38	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザーストアパスが見つかりません。このユーザーには一時プロファイルが作成され、このユーザーストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上のCitrix Profile Managementサービスは、指定されたユーザーストア内のプロファイルを見つけることができません。これは、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないためである可能性があります。しかし、ユーザーストア内のプロファイルが削除または移動されたためである可能性もあります。あるいは、ユーザーストアへのパスが変更され、ユーザーストア内の既存のプロファイルを正しく指していない可能性もあります。	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であることを確認してください。また、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作しており、ユーザーストアへのパスが既存のプロファイルを指していることを確認してください。ユーザーストア内のプロファイルが削除されている場合は、ローカルマシン上のプロファイルを削除してください。
42	ユーザー `<userdomain>\<username>` のポリシー設定を更新しようとしているときにエラーが発生しました。ポリシー設定が正しく適用されていない可能性があります。エラーコード: `<error code>`	Citrix Profile Managementは、Citrixグループポリシー設定の更新に失敗しました。	Citrix Group Policy Client-Side Extension がインストールされ、正常に動作していることを確認します。

イベントID	説明	原因	対処法
3005	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への仮想ディスクのマウントに失敗しました。	Citrix Profile Management は、仮想ディスクをアクセスポイントにマウントできませんでした。この問題は、仮想ディスクにアクセスできない場合、アクセスポイントが空でない場合、または仮想ディスクがすでにマウントされている場合に発生する可能性があります。	マシンを再起動し、問題が解決したかどうかを確認します。解決しない場合は、CDF トレースを収集し、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。
3008	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への検索データベースのマウントに失敗しました。	Windows Search サービスは、検索データベースをマウントできませんでした。この問題は、検索データベースが破損している場合に発生する可能性があります。	CDF トレースを収集し、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

一般的な問題のトラブルシューティング

この記事では、一般的なProfile Managementの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

ログオンが遅い

ユーザーのログオンが遅い場合は、次の手順に従ってトラブルシューティングを行ってください。

1. Citrix Directorのパネルでプロファイルの読み込み時間を確認します。予想よりも大幅に長い場合は、ユーザープロファイルの読み込みが原因でログオンが遅くなっています。

   詳細については、(/ja-jp/citrix-virtual-apps-desktops/director/troubleshoot-deployments/user-issues/user-logon.html)のを参照してください。

2. Citrix Profile Managementログファイルでプロファイルの処理時間を確認します。

`C:\Windows\System32\Log Files\User Profile Manager`にあるProfile Managementログファイルで、`DispatchLogonLogoff`で始まるエントリを見つけます。次の例は、ログオン処理時間が10.22秒であることを示しています。

`DispatchLogonLogoff: ---------- Finished logon processing successfully in [s]: <10.22>.`.

3. 推奨されるProfile Managementポリシーが適用されていることを確認してください。

   (/ja-jp/profile-management/current-release/how-to/improve-user-logon-performance.html)ので、ログオンパフォーマンスを改善するための推奨事項に従ってください。

4. Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

   ログオンの遅延が続く場合は、Citrixテクニカルサポートに連絡して、さらにサポートを受けてください。詳細については、(/ja-jp/profile-management/current-release/troubleshoot/collect-diagnostics.html)のを参照してください。

プロファイルがストリーミングされていることを確認する

ストリーミングユーザープロファイルを有効にしており、この機能がユーザーのプロファイルに適用されていることを確認したい場合は、次の手順を実行します。

1. Profile Managementログファイルで次の種類のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;16:16:35.369;INFORMATION;;;;1140;ReadPolicy: Configuration
   value read from policy: PSEnabled=<1>
   ```

   最後の項目は、機能が有効になっている場合、PSEnabled=\<1\> に設定する必要があります。

2. Profile Management ログファイルで、ユーザーの次のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;20:17:30.401;INFORMATION;<domain name>;<user
   name>;2;2364;ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile
   support enabled.
   ```

   ストリーミングされたユーザープロファイルが適用されていない場合、項目には「ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile support disabled」と表示されます。

適用されているポリシーを特定する

UPMSettings.ini ファイルを使用して、適用されている Profile Management ポリシーを特定します。このファイルは、ユーザー ストア内の各 Citrix ユーザー プロファイルのルート フォルダーに存在します。このファイルを調べることは、ポリシーの結果セット (RSoP) を使用するよりも便利な場合があります。特に、GPO と .ini ファイル設定を組み合わせてポリシーを決定している場合に便利です。

UPMFRSettings.ini ファイルを使用して、除外リストにあるため処理されないプロファイル フォルダーを特定します。UPMFRSettings.ini ファイルもルート フォルダーに存在します。

破損したプロファイル データを除外する

ユーザープロファイルが破損しており、特定ファイルまたはフォルダーに問題があることが確実な場合は、同期プロセスから除外します。その方法は、そのファイルまたはフォルダーを除外リストに追加することです。

レジストリ エントリへの接続をクリーンアップする

一部のシナリオ (Profile Management が関係するものに限らず) では、ユーザーがログオフした後もレジストリ プロファイル データへの接続が保持されます。この保持により、ログオフが遅くなったり、ユーザー セッションが完全に終了しなかったりする可能性があります。Microsoft の User Profile Hive Cleanup (`UPHClean`) ツールは、これらのシナリオの解決に役立ちます。

ローカル プロファイルを削除する

Microsoft Delprof.exe と Sepago Delprof2 は、ユーザー プロファイルの削除に役立つツールです。

プロファイルが保存されている場所を特定する

プロファイルの問題を診断するには、ユーザーのプロファイル内のファイルがどこに保存されているかを特定する必要があります。次の手順は、プロファイルが保存されている場所をすばやく特定する方法を提供します。

1. イベント ビューアーで、左側のペインの をクリックします。
2. 右ペインの「ソース」で、関連するCitrix Profile Managementイベントを見つけてダブルクリックします。
3. イベントに関連付けられたユーザー ストアへのパスは、タブにリンクとして表示されます。
4. ファイルを調べたい場合は、リンクをたどってユーザー ストアを参照してください。

サーバーの確認

サーバーがユーザーのログオンとログオフを正しく処理しているかどうかを確認するには、ユーザー ストア内のユーザー プロファイルにあるPmCompatibility.iniというファイルをチェックします。このファイルはプロファイルのルートフォルダーにあります。ファイルの最後の項目は、ユーザーが最後にログオフしたサーバーの名前です。たとえば、サーバーがProfile Management 5.0を実行している場合、項目は次のようになります。

```
[LastUpdateServerName]

5.0=<computer name>
```

ロールバック

Profile Managementの以前のバージョンにロールバックするには、ユーザー ストアをホストするファイルサーバーでコマンドラインから **del /s** を実行します。このコマンドは、各プロファイルからPmCompatibility.iniファイルを削除します。たとえば、ユーザー ストアへのローカルパスが `D:\UpmProfiles` の場合、次を実行します。

```
del /s D:\UpmProfiles\pmcompatibility.ini
```

コマンドが完了すると、ユーザーは以前のバージョンを実行しているコンピューターにログオンし、ユーザー ストアからプロファイルを受け取ることができます。

ユーザー ストア内の除外フォルダー

除外フォルダーはユーザー ストアに表示されます。この問題は想定されており、修正措置は不要です。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアに作成されますが、その内容は同期されません。

ログファイル内の情報不足

デバッグモードをアクティブにしても、完全なログ記録が自動的に有効になるわけではありません。ログ設定で、ログに記録するイベントのすべてのチェックボックスが選択されていることを確認してください。

ヒント: リストの最後のチェックボックスを有効にするには、スクロールダウンする必要がある場合があります。

GPO設定が機能しない

GPO設定を変更しても、Citrix Profile Management Serviceを実行しているコンピューターで機能しません。この問題は、GPがすぐに更新されるのではなく、展開で指定されたイベントまたは間隔に基づいているために発生します。GPをすぐに更新するには、コンピューターで `gpupdate /force` を実行します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る

デフォルトでは、問題が発生した場合（例: ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。または、Profile Management を構成してエラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることもできます。このアプローチはトラブルシューティングに役立ちます。

この機能の構成方法については、ユーザーのログオフを強制するを参照してください。

特定の状況では、ユーザーがログオンしたときに、キャッシュされたプロファイルの代わりに新しいプロファイルを受け取ることがあります。

ユーザー ストア内のコピーが削除された後にローカル プロファイルが存在する場合、ユーザーは一時プロファイルを受け取ることもあります。この状況は、ユーザー ストアがクリアされたにもかかわらず、ログオフ時にローカル プロファイルが削除されなかった場合に発生する可能性があります。

Profile Management は、このような部分的なプロファイルの削除をネットワーク、共有、または権限のエラーとして扱い、ユーザーに一時プロファイルを提供します。このため、部分的な削除は推奨されません。この問題を回避するには、影響を受けるコンピューターにログオンし、プロファイルを手動で削除してください。

展開にパーソナル vDisk が含まれている場合、これらのディスクのデフォルト処理が正しく調整されていないと、ユーザーは一時プロファイルを受け取る可能性があります。詳細については、ユーザープロファイルの移行を参照してください。

仮想デスクトップセッションが応答しなくなったときにプロファイルデータが失われる

Citrix Virtual Desktops の展開において、リモートデスクトッププロトコル (RDP) セッションから切断すると、仮想デスクトップが応答しなくなったり、再起動したりする可能性があります。この

動作は、セッション終了時にプロファイルデータが失われるため、Profile Management に影響を与えます。この問題は、Citrix Virtual Delivery Agent バージョン 3.1.3242 以降で修正されています。

ユーザーがログオンできない (イベント ID: 1000、ソース: Userenv)

ユーザーが Citrix 環境にログオンできず、「Windows did not load your roaming profile and is attempting to log you on with your local profile... Contact your network administrator.」というエラーメッセージが表示されます。このエラーは、Windows アプリケーションイベントログ (イベント ID: 1000、ソース: Userenv) に表示されます。

印刷

Citrix Virtual Desktops™ 環境では、ユーザーはデフォルトプリンターを選択できますが、ログオン間でその選択が保持されないことがあります。この問題は、標準イメージモードの Citrix Provisioning Services Personal vDisk に基づくプールされた仮想デスクトップでプリンターを設定するために、Citrix Virtual Desktop のポリシーが使用されている場合に確認されています。

この問題は Profile Management に起因するものではありません。Profile Management のログファイルには、プリンターのレジストリエントリがログオフ時にコピーされたことが示されていますが（これは予期される動作です）、ユーザーの NTUSER.dat にそのエントリが含まれていません（これは予期されない動作です）。この問題は実際には、Citrix Virtual Desktops が `DefaultPmFlags` レジストリ設定を使用する方法に起因しています。

プロファイルに予期しないプリンターが追加されることがあります。ユーザーがそれらを削除しても、次回のログオン時にプリンターが再表示されます。詳細については、Profile Management サポートフォーラムを参照してください。

複数のプラットフォームでのアプリケーション設定に関する問題

複数のプラットフォーム間でアプリケーション設定が正しくローミングされないという問題が発生する場合があります。通常、これらの問題は次の原因で発生します。

- あるシステムから別のシステムに適用できない設定。たとえば、すべてのシステムに存在するわけではないハードウェア固有の設定などです。
- 異なるシステムに異なる方法でインストールされているアプリケーション。例：
    - あるシステムではC:ドライブにインストールされているが、別のシステムではD:ドライブにインストールされているアプリケーション。
    - あるシステムでは `C:\Program Files` にインストールされているが、別のシステムでは `C:\Program Files (x86)` にインストールされているアプリケーション。

    - あるシステムにはインストールされているが、別のシステムにはインストールされていないExcelアドイン。

- 設定情報をプロファイルに保存しないアプリケーション。たとえば、ローカルマシンの設定内またはユーザープロファイルの外部に保存されている情報などです。
- レジストリに保存されている言語固有の構成設定。Profile Managementは、バージョン1プロファイルの言語固有のフォルダー名を自動的に翻訳しますが、レジストリ内のものは翻訳しません。

ほとんどの場合、これらの問題を引き起こすシステムの標準化を改善することで、問題を最小限に抑えることができます。ただし、多くの場合、問題はOSまたはそれぞれのアプリケーションの（複数のプラットフォームとの）固有の非互換性に起因します。問題のある設定が重要でない場合は、プロファイルから除外することで問題が解決する可能性があります。

不明なアカウントが所有するプロファイル

まれに、プロファイルが不明なアカウントに属しているように見えることがあります。コンピューターの**システムプロパティ**ダイアログボックスの**詳細設定**タブで、ユーザープロファイルの**設定**をクリックすると、「アカウント不明」と表示されます。この問題は、イベントログエントリ *「コンポーネント \<application ID\> のイベント作成のプロファイル通知に失敗しました。エラーコードは???」* とともに発生します。レジストリでは、アプリケーションIDはMicrosoftコンポーネントであるSHACCTプロファイル通知ハンドラーを指します。

この問題が環境で発生していることを確認するには、Profile Managementがデータを処理しないユーザーとしてログオンし、これらの症状を確認します。

これはProfile Managementの問題ではなく、Active Directoryが仮想マシンのスナップショットと適切に連携しないことが原因である可能性があります。Citrixユーザープロファイルの操作には影響ありません。ユーザーはログオンおよびログオフでき、プロファイルの変更は保持されます。

高度なトラブルシューティングを実行する

現在のProfile Management設定を確認し、Profile Managementログが有用な情報のソースではないと判断した後、このチェックリストを使用してさらにトラブルシューティングを行います。

- 分析しているマシンから結果セットのポリシー (RSoP) レポートを確認し、すべてのGPOが期待どおりに適用されていることを確認します。

  レポートを生成するには、マシンで `gpresult` コマンドを実行します。

- 最新バージョンのProfile Managementがインストールされていることを確認します。詳しくは、「Profile Managementのバージョンを確認する」を参照してください。
- 他のユーザーからの解決策については、Profile Managementサポートフォーラムを確認してください。
- 影響を受けるマシンと同じオペレーティングシステムを持つクリーンなマシンで問題を再現してみてください。ソフトウェア製品を1つずつインストールし、各インストール後に問題が再現できるかどうかを確認します。詳しくは、「テスト環境にProfile Managementを展開する」を参照してください。

Profile Managementのバージョンを確認する

バージョン情報を確認するには、次の手順に従います。

1. WindowsエクスプローラーでUserProfileManager.exeファイルを右クリックします。
2. **>** をクリックします。
3. 最新バージョンでない場合は、My Accountサイトから最新バージョンをダウンロードします。Citrix®製品を選択し、ダウンロードセクションからProfile Managementをダウンロードします。

> **ヒント:**
>
> アップグレード後、必要に応じて以降の機能を有効にできます。

テスト環境にProfile Managementを展開する

ログファイルが問題のトラブルシューティングに役立たない場合は、次の例で使用されているトラブルシューティングアプローチを試してください。このアプローチは、次の目的で使用できます。

- どの構成設定が読み取られているかを特定します。
- 構成設定がどこから読み取られているかを特定します（複数のADMファイルが存在する場合）。
- ログファイルがプロファイルに加えられた変更を正しく追跡していることを確認します。

展開例

この例での展開は次のとおりです。

- Citrix Virtual Apps™ サーバーはWindows Server 2003で実行されています。
- ユーザーは、Plug-in for Hosted Apps for Windows を使用して、公開されたリソースに接続しています。
- INIファイルベースの構成の代わりに、OUベースのGPOが使用されます。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの不適切な使用によって生じた問題が解決できることを保証することはできません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

トラブルシューティングのワークフロー

この例には、1台のサーバーのみで構成される小さなテストOUが含まれています。サーバーのプロファイル設定を編集できます。その後、ログファイルとポリシーの結果セット（RSoP）レポートで設定の変更を追跡します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 実稼働環境から、Citrixユーザープロファイルをホストしているサーバーの1つを削除します。次に、そのサーバーを新しいOUに追加します。
2. サーバーからProfile Managementを削除し、再インストールします。再インストールするときは、短いファイル名（8.3形式のファイル名とも呼ばれます）が次のようにアクティブ化されていることを確認します。
    - 次のレジストリエントリが1（DWORD値）に設定されている場合は、0に設定してProfile Managementを再インストールします: `HKLM\System\CurrentControlSet\Control\FileSystem\NtfsDisable8Dot3NameCreation`。これにより、短いファイル名のサポートが有効になります。
    - エントリが1に設定されていない場合は、各サブフォルダー名が8文字以下の場所にProfile Managementを再インストールします。例: `c:\prof-man`。 それ以降のオペレーティングシステムでは、このレジストリエントリを調整する必要はありません。
3. サーバーにドメイン管理者としてログオンします。
4. ローカルポリシーを調べ、このレベルのADMファイルを削除します。
5. 新しいOUに割り当てられているGPOへのリンクをすべて削除します。

6. サーバーで、レジストリエディターからキーとすべてのサブキーを削除します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`。
7. Profile Managementの.iniファイルをすべて削除します。
8. **マイコンピューター \> プロパティ \> 詳細設定**を使用して、テストしたいプロファイル以外のすべてのプロファイルを削除します。表示されるエラーを調査します。
9. Authenticated Usersグループにファイルのフルコントロールを付与します。これにより、ユーザーとしてログオンしたときにProfile Managementのログファイルを確認できます。ログファイルは `C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager\<domainname>#<computername>_pm.log` です（\<domainname\> はコンピューターのドメイン、\<computername\> はその名前です）。ドメインを特定できない場合、ログファイルはUserProfileManager.logになります。
10. 次の設定のみを含むGPOを作成し、新しいOUにリンクします。GPOがAuthenticated Usersグループに割り当てられていることを確認します。これらの設定を有効にして構成します。
    a. Profile Managementを有効にします。
    b. ユーザーストアへのパス。
    c. ログ記録を有効にします。
    d. ログ設定。すべてのイベントとアクションを選択します。
    e. 既存のプロファイルの移行。ローミングプロファイルとローカルプロファイルを選択します。
    f. ローカルプロファイルの競合処理。ローカルプロファイルの名前を変更を選択します。
    g. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除します。
    h. 「*ローカル管理者によるログオンを処理する*」設定を無効にします。これにより、Profile Managementが誤って構成され、ユーザーのログオンが妨げられた場合でも、管理者としてログオンできます。
11. OUを右クリックし、**継承のブロック**を選択して、GPOリンクがOUに適用される方法を制御します。
12. ログオンしたことがなく、サーバー上のローカル管理者グループのメンバーではないドメインテストユーザーを作成します。
13. このユーザーにフルデスクトップを公開し、ユーザーがRemote Desktop Usersグループに属していることを確認します。
14. ドメインに複数のドメインコントローラー（DC）がある場合は、サーバーと同じサイト内のすべてのDC間でADレプリケーションを強制します。

15. ドメイン管理者としてサーバーにログオンし、ログファイルを削除し、Citrix Profile Managementサービスを再起動して、`gpupdate /force`を実行します。
16. レジストリを確認し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`内の値が新しいGPOの値のみであることを確認します。
17. 管理者としてログアウトします。
18. Internet Explorerの設定をいくつか変更し、My Docsフォルダーに空のテストファイルを作成します。
19. Profile Managementログファイルへのショートカットを作成します。それを開いてエントリを調べます。注意が必要な項目を調査します。
20. ドメイン管理者としてログアウトし、再度ログオンします。
21. `gpresult`を実行して、テストユーザーとサーバーのRSoPレポートを生成します。

レポートに期待するものが含まれていない場合は、注意が必要な項目を調査します。

Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ

このセクションのトラブルシューティングのヒントを確認し、発生した問題がProfile Managementに起因すると考えられる場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。常に以下のファイルと、可能な限り多くの情報を収集して提供してください。

Profile Managementログファイルを収集する

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションをログに記録するように、マシンでProfile Managementを有効にします。詳しくは、「Profile Managementのログ記録を有効にする」を参照してください。
2. 影響を受けるマシンで問題を再現します。
3. %SystemRoot%\\System32\\Logfiles\\UserProfileManagerからProfile Managementログファイルとそのバックアップファイルを収集します。

影響を受けるマシンからのログファイルには、少なくとも次の情報が含まれます。

- サービスの開始（Profile Managementのバージョンとビルド番号を含む）
- サービスによる構成の読み取り
- 影響を受けるユーザーの完全なログオンプロセス
- 問題発生時のユーザーのアクティビティ

- 影響を受けるユーザーの完全なログオフプロセス

Windowsイベントログファイルを収集する

影響を受けるマシンで問題を再現した後、次の手順に従ってWindowsイベントログファイルを収集します。

1. `%SystemRoot%\System32\winevt\Logs` フォルダーを見つけます。
2. Application.evtxファイルを集めます。

インストールされているソフトウェアの詳細を収集する

影響を受けるマシンにインストールされている以下のソフトウェアの詳細を収集します。

- オペレーティングシステム、言語、およびバージョン。
- Citrix 製品およびバージョン。

.iniファイルを集める

Profile Managementに関連付けられている.iniファイルを集めるには、次の手順に従います。

1. ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーを見つけます。
2. 次の.iniファイルを集めます。
    - UPMSettings.ini
    - UPMFRSettings.ini
    - PmCompatibility.ini

CDFControl を使用して診断トレースログを収集する

CDFControlを使用して診断トレースログを次のように収集します。

1. Knowledge Centerの記事CTX111961からCDFControlツールをダウンロードします。
2. CDFControl実行可能ファイルを実行します。
3. 表示されるウィンドウで、必要に応じて1つ以上のトレースモジュールを選択します。機能の説明の詳細については、次の表を参照してください。
4. **Start Tracing**をクリックします。
5. 問題を再現します。
6. **Stop Tracing**をクリックします。
7. トレースログはCDFControl実行可能ファイルと同じフォルダーにあります。

この表は、CDFControlのトラックモジュールの機能を示しています。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_GPCSE	Profile ManagementからCitrix Group Policyクライアント側拡張機能に送信されたユーザーグループポリシー評価要求をトレースします。
UPM_DLL_OUTLOOK_HOOK	OutlookのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_Perfmon	Profile Management に関連付けられた Windows パフォーマンスモニターカウンターと、Profile Management によって生成されたエラーをトレースします。
UPM_DLL_SearchSvc_Hook	Windows Search Service の Profile Management フックモジュールをトレースします。Outlook 検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_WfShell	公開アプリケーションのデスクトップ準備完了イベントを報告する Profile Management `Wfshell` プラグインをトレースします。
UPM_Driver	Citrix ストリーミングユーザープロファイルドライバーが使用されるたびに、ファイルシステムの変更をトレースします。
UPM_Service	Profile Management Service が呼び出されるたびに情報をトレースします。例としては、ログオン時、ログオフ時、セッション中の同期、または定期メンテナンスの実行時などがあります。
UPM_SessionLaunchEvaluation	Profile Management の一意のトランザクション ID に関連付けられた起動イベントをトレースします。

トレースモジュール	説明
UPM_WMI	Profile Management VDA WMI プラグインイベントをトレースします。

その他の情報の収集

可能であれば、次の情報を収集してください。

- `gpresult` コマンドを実行して取得した、影響を受けるマシンとユーザーのポリシーの結果セット (RSoP) レポート。
- アプリケーションイベントログ。
- 利用可能な場合は、**Userenv** デバッグファイル。このツールに関する情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

注：

Citrix Provisioning Services が展開の一部であり、プロファイルが初期化されているときに問題が発生する場合、データ収集は複雑になる可能性があります。そのシナリオでは、.ini ファイルで前述の構成更新を行い（GPO ログ設定を無効にして）、プロビジョニングされたイメージでのプロファイル管理の事前構成 の手順に従うことをお勧めします。

プロファイル管理のベストプラクティス

Windowsユーザープロファイルは、特定のユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。ユーザーは、管理構成に応じてこれらの設定をカスタマイズできます。

Windows 10および11の互換性

Citrix Profile Managementは、Profile Managementのリリース時点で利用可能なWindows 10および11の最新バージョンをサポートしています。また、Windows 10および11の以前のすべてのバージョンもサポートしています。たとえば、Citrix Profile Managementバージョン1912は、Windows 10の最新バージョンが1909（RS7）であった時期に出荷されていました。Profile Management 1912は、Windows 1909（RS7）およびWindows 10の以前のすべてのバージョンをサポートしています。

詳細については、Knowledge Centerの記事CTX224843を参照してください。

> **注:**
>
> Citrixユーザープロファイルが存在するOSをアップグレードしようとすると、失敗する可能性があります。アップグレードを続行するには、ローカルマシンからCitrixユーザープロファイルを削除してください。

Windows 10のスタートメニューのカスタマイズ

部分的にロックダウンされたカスタマイズレイアウトを使用し、グループポリシーを通じてカスタマイズを展開することをお勧めします。スタートメニューのレイアウトのカスタマイズの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/desktop/customize-start-layout>`を参照してください。

スタートメニューのローミング

スタートメニューにピン留めされたアプリケーションは、数回のログオン後に以下のオペレーティングシステムで消えることがあります。

- Windows 10バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2016 Standardおよび`Datacenter`エディション
- Windows Server 2019 Standardおよび`Datacenter`エディション
- 仮想デスクトップ用 Windows 10 Enterprise

> **注:**
>
> Windows 10とWindows Server 2016/2019の両方に同じポリシーを使用することはできません。VDIおよび共有デスクトッププラットフォームには個別のポリシーを構成するか、Profile Management 2103以降を使用している場合は自動構成を使用してください。

スタートメニューのローミングを自動的に有効にする

Profile Management 2103以降を使用している場合、スタートメニューのローミングは自動的に有効になります。

Profile Management 2106以降を使用している場合は、**Profile Management \> File system \> Synchronization**にある**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることをお勧めします。この設定により、フォルダーミラーリング機能のユーザーログオンおよびログオフエクスペリエンスが向上します。詳細については、「フォルダーミラーリングの高速化」を参照してください。

Windows 10でスタートメニューのローミングを手動で有効にする

Profile Management 2012以前を使用している場合は、次の手順に従います。

1. **プロファイル管理 \> ファイルシステム \> 同期** に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
   - `!ctx_localappdata!\TileDataLayer` (Windows 10バージョン1607以前にのみ適用)

> **注:**

> Citrix Profile Management 1912以降、**デフォルトの除外リスト – ディレクトリ**または**除外リスト – ディレクトリ**に追加されたフォルダーは、**ミラーリングするフォルダー**に追加しても同期できません。**ミラーリングするフォルダー**に追加する前に、除外リストから`appdata\local\packages`フォルダーを削除してください。

3. **同期するファイル**ポリシーを**有効**に設定し、次のファイルを同期するファイルのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

Windows Serverでスタートメニューのローミングを手動で有効にする

Profile Management 2012以前を使用している場合は、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> Advanced settings**に移動し、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. **プロファイル管理 \> ファイルシステム \> 同期** に移動します。
3. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
4. 「**除外リスト – ディレクトリ**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のフォルダーを除外するフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Packages`
5. 「**除外リスト – ファイル**」ポリシーを「**有効**」に設定し、以下のファイルを除外するファイルのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

アウトルック と オフィス 365

Microsoft は、一貫したオンラインおよびオフラインの Microsoft Outlook エクスペリエンスを可能にするために、キャッシュされたExchangeモードを推奨しています。キャッシュされたExchangeモードは、Microsoft Outlook クライアントからオンにできます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/exchange/outlook/cached-exchange-mode>`を参照してください。

キャッシュされたExchangeモードを使用すると、ユーザーのExchangeメールボックスのコピーが常にオフラインOutlookデータファイル (*.ost) に保存されます。このファイルは大きくなる可能性があります。

Microsoft Outlook データをローカルまたは共有ドライブに保存することは避けることをお勧めします。「ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする」機能を使用してください。この機能を使用すると、オフラインOutlookデータファイル (*.ost) とユーザー固有のMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。この機能の使用方法の詳細については、「ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

1つの場所からProfile Managementを構成する

Profile Managementを構成できる場所は3つあります。Profile Managementを構成するには、Citrix Studio の HDX ポリシー、または Active Directory の GPO を使用します。Workspace Environment Management を使用して Profile Management を構成することもできます。

Profile Managementを構成するには、3つの場所のうち1つだけを選択することをお勧めします。

このビデオを見て詳細を確認してください:

トラブルシューティングのベストプラクティス

潜在的な構成エラーを特定するには、常にProfile Management構成チェッカーツール (UPMConfigCheck) を使用してください。

Profile Managementが機能しない場合は、まず構成されているユーザー ストアにアクセスできるかどうかを確認してください。

Cookieの処理

Profile Management は、Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 の古い Cookie の削除をサポートするようになりました。「ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理する」ポリシーを使用して、古い Cookie を削除し、Cookie フォルダーの肥大化を防ぐことができます。さらに、ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

Microsoft Credentials Roaming が有効な場合のプロファイルストリーミング

既定では、構成ファイル内の次のフォルダーはプロファイルストリーミングから除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

プロファイルストリーミングの除外を手動で構成する場合は、上記のフォルダーを「プロファイルストリーミング除外リスト – ディレクトリ」に追加してください。

プロファイルを効率的に同期する

同期が不十分なユーザープロファイルは、ログオンの遅延、ユーザー設定の損失、プロファイルの破損につながる可能性があります。また、過剰な管理作業が必要になる場合もあります。プロファイルを効率的に同期するには、この記事で説明されている推奨事項に従ってください。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、Profile Management とともに使用できる Microsoft Windows の機能です。フォルダーリダイレクトは、プロファイルソリューションを成功させる上で重要な役割を果たします。

フォルダーリダイレクトを使用するには、関連するユーザーが Profile Management が管理する OU にいることを確認してください。Active Directory で GPO を使用してフォルダーリダイレクトを構成することをお勧めします。

たとえば、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> フォルダーリダイレクト** の下にある対応するポリシーを有効にすることで、次のフォルダーをリダイレクトできます。

ドキュメント、**ピクチャ**、**ミュージック**、**ビデオ**、**お気に入り**、**連絡先**、**ダウンロード**、**リンク**、**検索**、および **保存されたゲーム**

注:

- フォルダーリダイレクトにより、ユーザーがログオンするたびにそれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなり、ユーザーのログオンが高速化されます。
- アプリケーションやスタートメニューで問題が発生する可能性があるため、**AppData (Roaming)** および **スタートメニュー** の **フォルダーリダイレクト** を有効にしないことを強くお勧めします。
- **デスクトップ** フォルダーが大きすぎる場合はリダイレクトしないでください。そうしないと、ユーザーがログオンしたときにブラックスクリーンが発生する可能性があります。

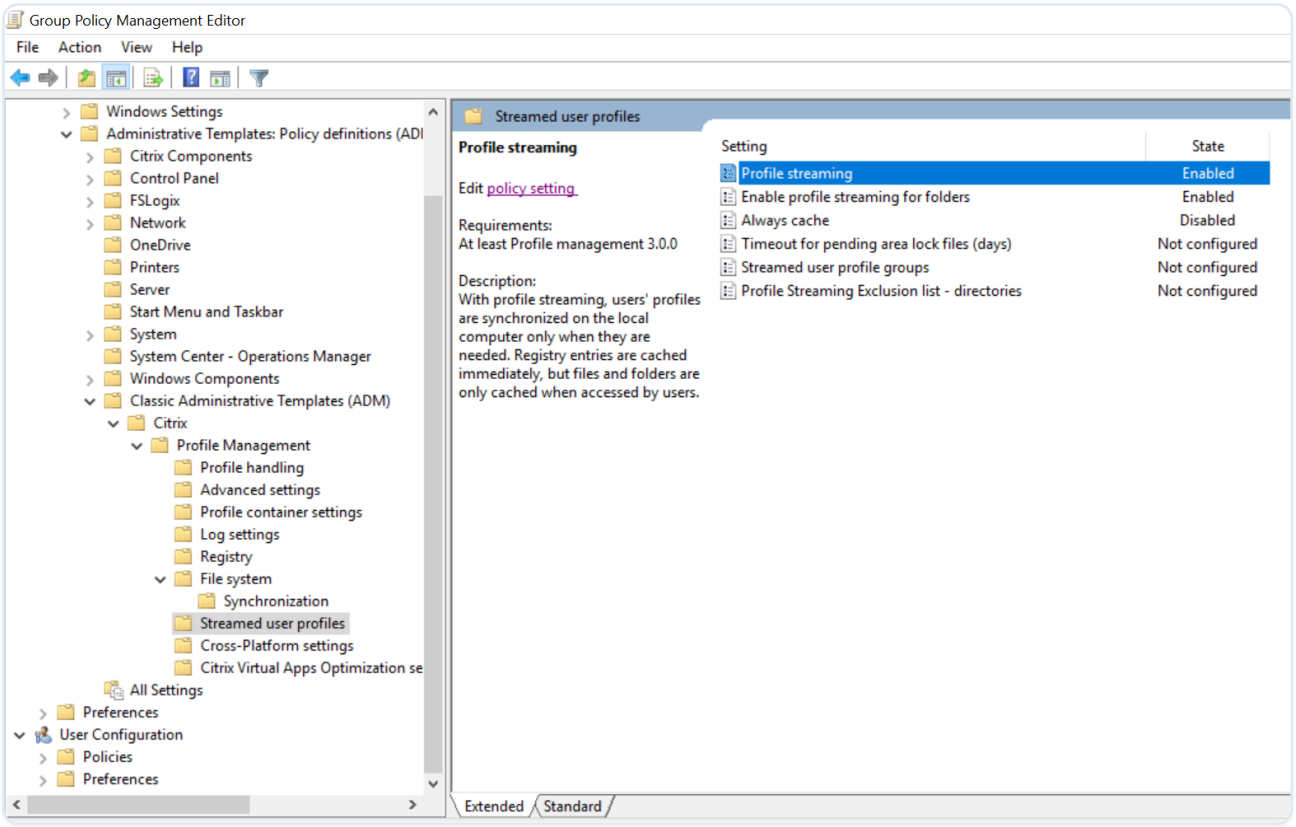
ファイルとフォルダーを含める/除外する

Profile Management を使用すると、包含リストと除外リストをカスタマイズすることで、同期したくないファイルとフォルダーを指定できます。プロファイルの肥大化を避けるため、サードパーティ製アプリケーションのキャッシュファイル（例: Appdata\Local\Google\Chrome\UserData\Default\Cache にある Chrome キャッシュファイル）を除外してください。詳細については、「アイテムの包含と除外」を参照してください。

プロファイルストリーミング

Profile Management は、ユーザーがログオン後にプロファイル内のファイルにアクセスした場合にのみ、ユーザー ストアからローカル コンピューターにファイルをフェッチします。これにより、ログオン プロセスが高速化され、プロファイル サイズが削減されます。たとえば、使用されていないファイルは、ローカル プロファイル フォルダーにコピーされることはありません。また、**常にキャッシュ**ポリシーを使用して、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設けることができます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

フォルダーのプロファイル ストリーミングを有効にするポリシーと**プロファイル ストリーミング**ポリシーの両方を有効にすることで、アクセスされていないフォルダーをフェッチする必要がなくなります。



アクティブライトバックとレジストリ

この機能は、特に変更されたファイルが多い場合に、プロファイル ストリーミング機能と比較してログオフ時間を短縮します。この機能は、セッション中、ログオフ前に、変更されたファイルとフォルダー (レジストリ エントリは除く) をユーザー ストアに同期します。

Internet Explorer 10/11 の Cookie サポート

Profile Management 5.0 以降では、Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 を使用する際の Cookie の処理が強化されています。Cookie フォルダーの肥大化を避けるには、ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理するポリシーを使用して、古い Cookie を削除します。次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加できます。

- AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies
- AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache
- AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies

詳細については、ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理するを参照してください。

用語集

この記事では、Profile Managementソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義を一覧表示します。他のCitrix®ソフトウェアで使用されるプロファイル関連の用語も含まれています。Windowsユーザープロファイルに関連する他の概念を理解するには、MicrosoftのWebサイトをご覧ください。

用語	定義
ベースプラットフォーム	クロスプラットフォーム設定ストアを参照してください。
ベースプロファイル	ベースプロファイルは、ユーザーストア内のプロファイルへのUNCパスによって定義されます。クロスプラットフォーム設定機能が使用されている場合、レジストリ設定とファイルは、ベースプロファイルのサブセットからプラットフォーム間で共有できます。このサブセットはクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされ、そこから移行またはローミングのターゲットとして使用されるプロファイルに追加されます。クロスプラットフォーム設定ストアにはベースプロファイルのサブセットが含まれていますが、これ（およびターゲットプロファイル）は常に完全なプロファイルとして保存されます。そして、必要に応じて、標準のWindowsローミングプロファイルまたはローカルプロファイルとして使用できます。ただし、ストリーミングユーザープロファイル機能が使用されている場合、ベースプロファイルは一時的に不完全になる可能性があることに注意してください。ユーザーがログオフするまで、一部のファイルは保留領域に存在する可能性があります。ローミングシナリオでベースプロファイルを定義する際の考慮事項については、ローミングを参照してください。

用語	定義
キャッシュ	キャッシュと同期という用語は、ユーザーストアからファイルをダウンロードする、またはユーザーストアにファイルをアップロードする行為を指します。フェッチという用語はより具体的で、ストリーミングユーザープロファイル機能が、ログオン後いつでもユーザーが必要とするときに、ユーザーストアからファイルのサブセットをダウンロードする方法を指します。
Citrix強制プロファイル、Citrixローミングプロファイル、Citrixユーザープロファイル	Citrixユーザープロファイルは、Profile Managementがインストールされ有効になっているときにユーザーが受け取るプロファイルの一般的な用語です。Citrixユーザープロファイルには、Citrixローミングプロファイルと Citrix強制プロファイルの2種類があります。Citrixローミングプロファイルは、ユーザーが日常業務でカスタマイズし、ログオフ時にユーザーストアに保存され、Profile Managementポリシーによって処理されるファイル、フォルダー、およびレジストリ設定の標準的なコレクションです。Citrix強制プロファイルは、Profile Managementがそれらを処理する方法においてCitrixローミングプロファイルに似ています。しかし、ログオフ時にユーザーストアに変更は保存されません。ログオン時には、強制プロファイルの新しいコピーがロードされます。Citrixユーザープロファイルは、Microsoftローカルプロファイル、Microsoftローミングプロファイル、またはMicrosoft強制プロファイルとは異なります。
コンピューター	これらのProfile Managementトピックで使用される一般的な用語「コンピューター」は、Citrix Profile Management Serviceがインストールされている任意のコンピューターを指すことができます。これは、ユーザーデバイス、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™仮想マシンからプロビジョニングされている可能性もあります）、または公開

用語	定義
	アプリケーションをホストするCitrix仮想アプリサーバーである可能性があります。
クロスプラットフォーム定義ファイル	このファイルは、クロスプラットフォーム設定機能を動作させるために必要な情報を含む、Profile Managementに付属の.xmlファイルです。サポートされているアプリケーションごとに1つのファイルがあります。
クロスプラットフォーム設定ストア	この場所は、ユーザー ストアとは別に、クロスプラットフォーム設定機能が構成されると、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。どのプラットフォームのプロファイル データを使用してクロスプラットフォーム設定ストアをシードするかを選択します。それがベースプラットフォームです。
フェッチ	キャッシュを参照してください。
レガシーアプリケーション	レガシーアプリケーションは、設定を非標準の場所に保存するため、動作が悪いアプリケーションです。これには、一時的なアプリケーションデータをユーザープロファイルに保存し、それによってプロファイルの肥大化を引き起こすシステムが含まれます。
移行	移行とは、プロファイルをあるプラットフォームから別のプラットフォームへ計画的に一方向で移動することです（例：Windows XPからWindows 7へ）。
プロファイルの肥大化	一時ファイルが削除されない場合、Windows ユーザープロファイルのサイズが増加することがあります。これはログオンの遅延を引き起こし、プロファイルの肥大化と呼ばれます。
ローミング	ローミングとは、複数のコンピューターまたはセッションから異なるベースプロファイルを使用することです（例：Windows 2008 R2 を実行しているコンピューター用のベースプロファイルと、Windows 7用の別のベースプロファイル）。ユーザーは、異なるベースプロ

用語	定義
	ファイルを持つコンピューターまたはセッション間を行き来するときにローミングします。組織単位（OU）の構成方法によっては、ベースプロファイルを複数のプラットフォームで共有できます。たとえば、Windows 2008 R2とWindows 7の両方のOUで同じプロファイルを使用できます。この場合、同じベースプロファイルが共有されるため、ユーザーはローミングしません。ベースプロファイルは、同じプロファイルバージョン（バージョン1またはバージョン2のプロファイル）を持つオペレーティングシステムでのみ共有できます。バージョン1とバージョン2の両方のプロファイルがアクティブな場合、ユーザーは常にローミングします。
同期	キャッシュを参照してください。
ユーザー ストア	ユーザー ストアは、Citrixユーザープロファイルを保存するための中央のネットワーク上の場所です。クロスプラットフォーム設定ストアも参照してください。
vDisk、パーソナルvDisk	vDiskは、Citrix Provisioning™ Servicesによってマスターイメージから作成される仮想ディスクです。パーソナルvDiskは、Citrix仮想デスクトップがプロファイル、ユーザーがインストールしたアプリケーション、部門別アプリケーション、およびユーザーデータを保存するために使用するディスクです。パーソナルvDiskは、オペレーティングシステム、レジストリ、および基本アプリケーションに使用されるディスクとは別個のものです。
バージョン1プロファイル、バージョン2プロファイル	Microsoft Windows XPおよびWindows Server 2003のプロファイルは、バージョン1プロファイルとして知られています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、およびWindows Server 2008 R2のプロファイルは、バージョン2プロファイルとして知られています。バージョン1プロファイルとバージョン2

用語	定義
	プロファイルは異なる名前空間を持っており、これはそれらの構成のいくつかの側面に影響を与えます。

__index__

アクティブライトバックを構成する

プロファイルの整合性を確保するために、セッション中、ログオフ前に、ローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアにバックアップできます。

2番目のセッション (たとえば、2番目のコンピューターで) を開始した場合、最初のセッションからログオフする前に開始されていれば、最初のセッションでファイルに加えられた変更は2番目のセッションで利用できます。

1. プロファイル管理で、**アクティブライトバック**をダブルクリックします。
2. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

アクティブライトバックがグループポリシーオブジェクトとHDX™で構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、プロファイル管理は動的に構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

> **注:**
>
> レジストリエントリのアクティブライトバックは、デフォルトで無効になっています。アクティブライトバックが有効になっている場合、**プロファイル管理** \> **アクティブライトバック** **レジストリ**でこの機能を有効にできます。グループポリシーオブジェクトとHDXで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定の構成

重要: この機能に関する以下の重要な情報に注意してください。

- Profile Managementのクロスプラットフォーム設定は、サポートされているオペレーティングシステム（OS）とアプリケーションのセットをサポートします。この機能は、本番環境でのみ構成してください。
- Microsoft Officeの設定は、アプリケーションのバージョン間でローミングされません。詳しくは、「クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。
- この機能は、レジストリおよびアプリケーション設定に適しています。ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（例：ブラウザーのお気に入り、デスクトップおよびスタートメニューの設定）には適していません。
- この機能を使用して、異なるプロファイルバージョンのシステム間でユーザープロファイルを移行する場合、すべてのユーザーの移行が完了したら、この機能を無効にしてください。この機能を使用すると、主にログオフ時にパフォーマンスに影響があります。そのため、プロファイルバージョン間のローミングをサポートしない限り、無効にしておくのが最善です。

このトピックでは、クロスプラットフォーム設定を構成するために実行できる手順の例を説明します。より詳細なケーススタディについては、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」を参照してください。

ヒント: この機能を本番環境に導入する前に、少数のテストユーザーに限定することをお勧めします。これには、 **クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ**オプションを使用します。この設定が構成されている場合、Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。この設定が無効になっている場合、この機能は、Processed groups 設定で指定されたすべてのユーザーを処理します。 **クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ**がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

1. すべてのプラットフォームに共通する設定については、共通のグループポリシーオブジェクト（共通GPO）を作成し、それをProfile Managementの.admまたは.admxファイルにリンクして、必要に応じて設定を構成します。この設定は、後のトラブルシューティングを困難にする可能性のある重複する設定を最小限に抑えるため、ベストプラクティスです。要件に応じて、**ユーザーストアへのパス**を除くすべてのProfile Management設定が複数のプラットフォームで機能します。バージョン1とバージョン2のプロファイルのユーザーストア構造が異なるため、ユーザーストアへのパスはプラットフォームごとに個別に構成してください。共通GPOでは、この設定を未構成のままにしてください。
2. 異なるプラットフォーム用に個別のOUを作成します。たとえば、Windows 7からWindows 8に移行する場合、これらのオペレーティングシステム用に個別のOUを作成し、各OUでユーザーストアへのパスを適切に設定します。

3. パーソナライズをプラットフォーム間で機能させたいサポート対象アプリケーションの定義（.xml）ファイルを見つけます。これらのファイルは、ダウンロードパッケージのCrossPlatformフォルダーにあります。独自のアプリケーション定義ファイルを作成することもできます。詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。
4. .xmlファイルをネットワーク上の適切な場所にコピーします。
5. グループポリシー管理エディターで共通GPOを編集します。Profile Managementの下にあるCross-platform settingsフォルダーを開き、次の設定を構成します。

    - クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ。クロスプラットフォーム設定を体験するユーザーを制限します。この設定はオプションです。この機能をテストしたり、段階的に展開したりする場合に役立ちます。
    - クロスプラットフォーム定義へのパス。ダウンロードパッケージからコピーした定義ファイルのネットワーク上の場所を識別します。このパスはUNCパスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持つ必要があります。この場所は、Server Message Block（SMB）またはCommon Internet File System（CIFS）ファイル共有である必要があります。
    - クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納される、ユーザー ストアの共通領域です。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。**ユーザー ストアへのパス**と同じ変数を使用できます。

6. そのプラットフォームのOUで「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」が「有効」に設定されていることを確認して、ベースプラットフォームを指定します。この設定により、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータが移行されます。他のプラットフォームのOUでは、このポリシーを「無効」または「未構成」に設定します。各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードに使用するプラットフォームのプロファイルデータを決定する必要があります。これをベースプラットフォームと呼びます。クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている場合、または単一プラットフォームプロファイルのキャッシュデータがストア内の定義データよりも新しい場合、この設定を無効にしない限り、Profile Managementは単一プラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。 重要: 「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」が複数のOUで有効になっている場合、最初にユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。

7. 「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を「有効」に設定します。デフォルトでは、展開を容易にするため、この設定をオンにするまでクロスプラットフォーム設定は無効になっています。
8. グループポリシーの更新を実行します。
9. プロファイルをプラットフォーム間で移行するが、それらのローミングをサポートしない場合は、移行が完了したら、「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を**無効**に設定します。

ここで「クロスプラットフォーム定義へのパス」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

「クロスプラットフォーム設定ストアへのパス」が無効になっている場合、デフォルトパス `Windows\PM_CP` が使用されます。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトパスが使用されます。

ここで「クロスプラットフォーム設定を有効にする」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

例: Windows Server 2008とWindows 7間でのMicrosoft Office設定のローミング

この例では、バージョン2プロファイルを作成する2つのオペレーティングシステム間でユーザーのアプリケーション設定をローミングできるようにするための主要な手順について説明します。Microsoft Office 2010を例として、Windows Server 2008上のCitrix XenApp 6.5とWindows 7の間でローミングが行われます。両方のOSは64ビットです。

1. ユーザーは、Citrix Virtual Apps™サーバー上の公開アプリケーションとしてOffice 2010およびInternet Explorer 9にアクセスすることに慣れており、これらのアプリケーションでいくつかの設定を変更します。たとえば、Officeでメール署名を変更したり、Internet Explorerで新しいホームページを選択したりします。
2. 将来、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で作成）が作成されますが、まだユーザーにはリリースされていません。デスクトップはWindows 7を実行し、Office 2010とInternet Explorer 9が事前に構成されています。
3. ユーザーは、新しいデスクトップでも設定が同じであることを期待しています。このトピックの手順に従って、クロスプラットフォーム設定機能を構成します。これには、Windows Server 2008のOUで「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」を有効にすることが含まれます。

4. ユーザーが次にアプリケーションの公開バージョン（新しい仮想デスクトップではない）を実行すると、その設定はクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされます。
5. その後、新しいデスクトップがユーザーにリリースされます。ユーザーがログオンしてOfficeおよびInternet Explorerのローカルバージョンを実行すると、以前のWindows Server 2008セッションからの設定が使用されます。ユーザーが変更したメール署名とホームページは、Windows 7マシンで利用できます。
6. ユーザーは仮想デスクトップからInternet Explorerで閲覧し、ホームページを再度変更することにしました。
7. ユーザーはログオフして退社します。彼らは自宅で仮想デスクトップにアクセスできませんが、公開されているInternet Explorer 9のバージョンをリモートで実行できます。彼らは、前のステップでWindows 7で作成された最新のホームページが保持されていることを確認します。

定義ファイルを作成する

定義ファイルは、同期するフォルダー、ファイル、またはレジストリを定義します。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。

Microsoft UE-V テンプレート ジェネレーターを使用して、UE-V テンプレート ファイルを作成します。

1. Microsoft の Webサイト から、Windows 10 用の **Windows Assessment and Deployment Kit** (Windows ADK) をダウンロードします。
2. Windows ADK をインストールします。**Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) Template Generator** を選択します。**Install** をクリックします。インストールが完了したら、**Finish** をクリックしてウィザードを閉じます。
3. **Start** をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization** をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization Generator** をクリックします。
4. **Create a settings location template** をクリックします。
5. ウィザードに従って、アプリケーション関連のパラメーターを指定します。**Next** をクリックして続行します。

   メモ帳を例にとります。ファイルパスを **C:\\Windows\\System32\\notepad.exe** と指定します。
6. 指定したアプリケーションが起動したら、閉じます。
7. プロセスが完了したら、**Next** をクリックして続行します。
8. 左ペインで **Review Locations** を選択します。標準および非標準のレジストリ/ファイルのリストにあるすべてのチェックボックスを選択します。

9. **Create** をクリックして、テンプレート XML ファイルを保存します。

   メモ帳を例にとります。テンプレート XML ファイルを **Notepad.xml** として保存します。

> **注**
>
> 単一の UE-V テンプレートファイルに複数のアプリケーションが定義されている場合があります。

> UE-V テンプレート ファイルをクロスプラットフォーム定義ファイルに変換するには、次の手順を実行します。

1. 変換ツールをこちらからダウンロードします。
2. コマンドプロンプトから、コマンド **convert show filename** を実行して、定義ファイル内のすべてのアプリケーション名を表示します。
3. UE-Vテンプレートファイルを定義ファイルに変換するには、次のコマンドを実行します。

   convert source destination \[/Index\] \[/V\]

   \[/Index\]: インデックス番号で指定されたアプリケーションのみを変換します。

   既定では、このツールはUE-Vテンプレート内のすべてのアプリケーションを変換します。

   \[/V\]: 変換の詳細情報を表示します。

クロスプラットフォーム設定の場合、他のオペレーティングシステムについても前述の手順を繰り返し、定義ファイルを1つにマージする必要があります。ファイルをマージするには、**OSVersionNumber** 属性を持つ **Platform** 要素を使用できます。Windows 7では、設定フォルダーは **AppData\\Application\\Win7\\folder** にあります。Windows 10では、**AppData\\Application\\Win10\\folder** にあります。

Windows 7で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">
```

```
    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">


        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">


            <Platform>


                <Folder>


                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>


                    <Recurse/>


                </Folder>


            </Platform>


        </Object>


    </Group>
```

```
</GroupDefinitions>
```

Windows 10で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <Platform>



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>



                    <Recurse/>



                </Folder>
```

```
            </Platform>


        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

マージ後、定義ファイルの内容は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <!-- Assuming that the folder locates differently when in
different platforms -->



            <Platform OSVersionNumber="6.1"> <!-- Win7 -->
```

```
                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

            <Platform OSVersionNumber="10.0"> <!-- Win10 -->

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>
```

```
            </Platform>


        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

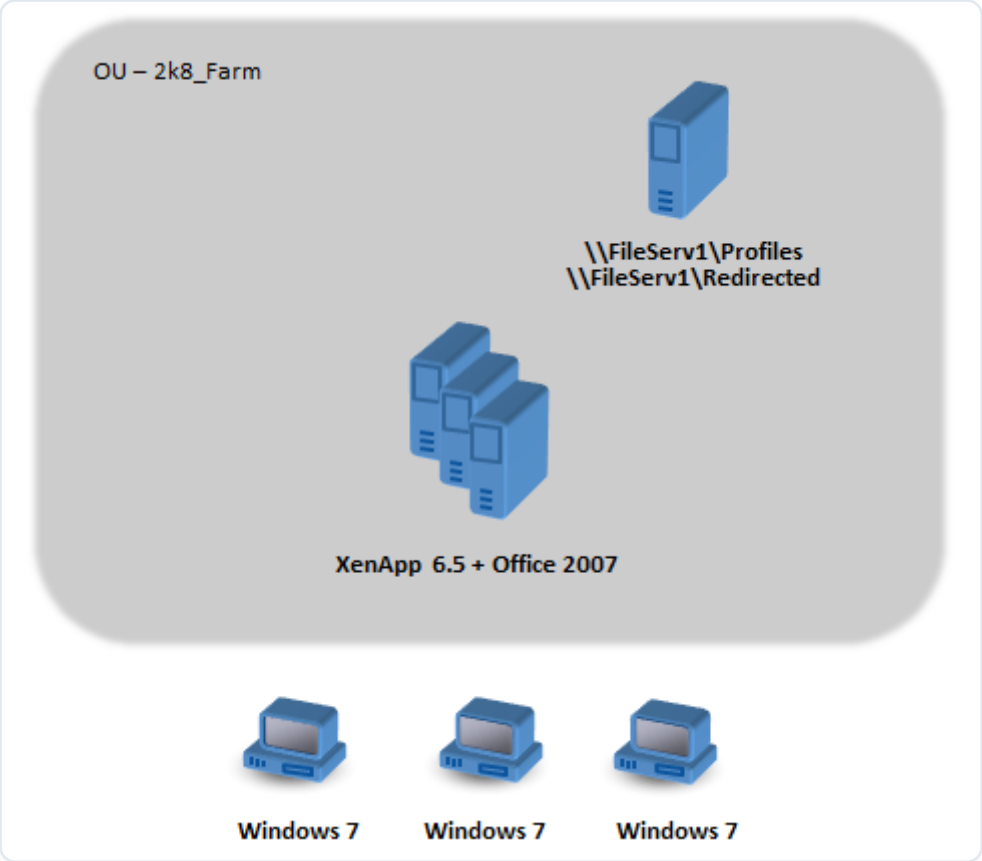
クロスプラットフォーム設定の構成については、クロスプラットフォーム設定の構成を参照してください。

定義ファイルのアーキテクチャについては、アプリケーション定義ファイルの構造を参照してください。

アプリケーションプロファイラーの有効化については、アプリケーションプロファイラーの有効化を参照してください。

初期構成

次の図は、このケーススタディにおける環境構成を示しています。



Windows 7マシンは、Citrix XenApp 6.5で公開されているOffice 2007を使用するように構成されています。

ドメインには、Windows 2008レベルでActive Directoryを実行しているWindows 2008ドメインコントローラーが含まれています。すべてのマシンは2k8_FarmというOUに属しており、Profile Management 5.0の.admファイルは2k8_Farm_POというGPOに追加されています。以下のポリシーが構成されています。

ポリシー	値
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`
プロファイルストリーミング	有効
アクティブライトバック	有効

システム環境変数`%ProfVer%`を設定するマシンログオンスクリプトは、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%
Windows 2008上のXenApp®サーバー	Win2008
Windows 7デスクトップ	Win7

したがって、たとえば、ユーザーjohn.smithは、Windows 7デスクトップ用に`\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win7`に、Citrix仮想アプリサーバー用に`\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win2008`にプロファイルを持っています。デスクトップとサーバー用に個別のプロファイルが維持されます。管理者は、ワークステーションとマルチセッションオペレーティングシステム間でプロファイルがローミングする際に問題が発生することを知っており、慎重に対応しています。

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーの**ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダー リダイレクト**を使用して設定されます。

新しいサイトの計画

ネットワーク管理者は、Windows Server 2012ドメインコントローラーとActive Directory 2012をベースとする新しい環境のために、新しいドメインをセットアップすることを決定しました。最終的には、Windows Server 2012で仮想アプリを実行する新しい仮想アプリサイトが計画されています。しかし、今のところ、新しいドメインはWindows 7仮想デスクトップサイトにのみ使用されています。

このサイトは、Citrix Hypervisor™環境でホストされ、Windows端末からアクセスされる共有のWindows 7ベースイメージに基づいています。Office 2007はベースイメージに含まれています。

両方のドメインのユーザーが新しいドメインを使用することが予想されるため、OldDomainとNewDomainの間に双方向の信頼関係が設定されています。両方のドメインは同じADフォレストに属している必要があります。

次の図は、新しい仮想デスクトップサイトの構成を示しています。

グラフィック(/en-us/profile-management/2206/media/upm-cross-platform-settings-case-study-plan-1.png)

プロファイルについて

Windowsユーザープロファイルは、ユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定のコレクションです。これらの設定は、

管理構成に応じて、ユーザーがカスタマイズできます。カスタマイズできる設定の例は次のとおりです。

- 壁紙やスクリーンセーバーなどのデスクトップ設定
- ショートカットとスタートメニューの設定
- Internet Explorerのお気に入りおよびホームページ
- Microsoft Outlookの署名
- プリンタ

一部のユーザー設定とデータは、フォルダーリダイレクトによってリダイレクトできます。ただし、フォルダーリダイレクトが使用されていない場合、これらの設定はユーザープロファイル内に保存されます。

プロファイルの種類

Windowsには、いくつかの種類のプロファイルが含まれています。

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
ローカル	ローカルデバイス	ローカルデバイス	ローカルデバイスのみ	はい
ローミング	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	はい
必須 (必須ローミング)	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	いいえ
一時的	該当なし	該当なし	ローカルデバイスのみ	いいえ

一時プロファイルは、特定のプロファイルタイプを割り当てられない場合にのみ割り当てられます。必須プロファイルを除き、通常、各ユーザーには個別のプロファイルが存在します。必須プロファイルでは、ユーザーはカスタマイズを保存できません。

Remote Desktop Services ユーザーの場合、Remote Desktop Services セッションとローカルセッションで同じプロファイルがユーザーに割り当てられた場合に発生する可能性のある問題を回避するために、特定のローミングプロファイルまたは必須プロファイルを割り当てることができます。

プロファイルのバージョン

Microsoft Windows ユーザープロファイルのバージョンは次のとおりです。

- バージョン 6 – Windows 11、Windows 10 1607 以降、Windows Server 2016、Windows Server 2019、および Windows Server 2022
- バージョン 5 – Windows 10 RTM
- バージョン 4 – Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2
- バージョン 3 - Windows 8 および Windows Server 2012
- バージョン 2 - Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2
- バージョン 1 – Windows Vista および Windows Server 2008 以前のオペレーティングシステム

Microsoft のバージョン 1 プロファイルのフォルダー構造 (または名前空間) は、ほとんど互換性があります。たとえば、Windows XP と Windows Server 2003 のフォルダーはほとんど同じです。同様に、バージョン 2 プロファイルの構造もほとんど互換性があります。

ただし、バージョン 1 とそれ以降のプロファイルでは名前空間が異なります。このフォルダー構造は、ユーザーおよびアプリケーションデータ用に分離されたユーザー固有のフォルダーを提供するために、後のオペレーティングシステムで変更されました。バージョン 1 プロファイルは、ルートフォルダーである **Documents and Settings** にデータを保存します。バージョン 2 プロファイルは、より直感的な名前のフォルダーである **Users** にデータを保存します。たとえば、Windows Vista の **AppData\Local** のフォルダーの内容は、Windows XP の `Documents and Settings\<username>\Local Settings\Application Data` の内容と同じです。

バージョン 1 とそれ以降のプロファイルの違いの詳細については、Managing Roaming User Data Deployment Guide を参照してください。

インストールとセットアップ

この記事では、インストーラーを使用してProfile Managementをインストールするための一般的なワークフローについて説明します。また、Profile Managementをセットアップするためのベストプラクティスも提供します。

Profile Managementをインストールするための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. インストールパッケージをダウンロードする
2. Profile Managementをインストールする

Profile Managementをセットアップする際は、以下のベストプラクティスを参照してください。

- ローカルGPOでProfile Managementをテストする
- ユーザー ストアを作成する

ユーザー ストアを作成する

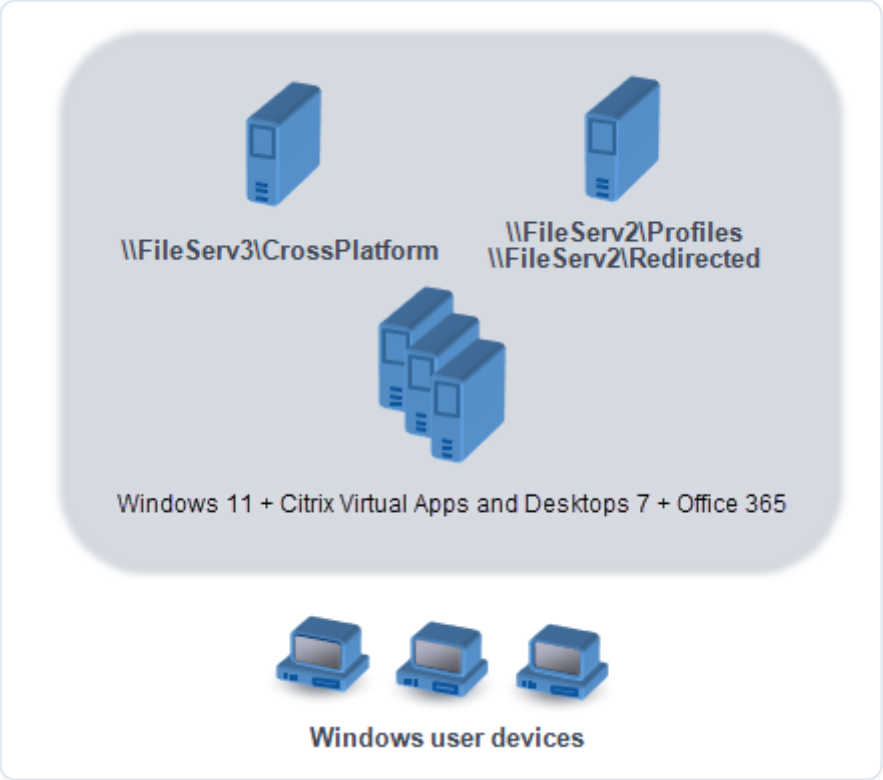
この記事では、組織に最適な方法でユーザー ストアを作成するのに役立ちます。ここにある情報を確認するだけでなく、ユーザー ストアへのパスを可能な限り効率的に構成してください。たとえば、変数を適切に使用してパスを構成します。その件に関するアドバイスと例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアは、Citrix®ユーザー プロファイルを保存するための中央ネットワーク ロケーションです。

ユーザー ストアには、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) のファイル共有を使用できます。ベスト プラクティスは、以下を確実にすることです。

- 共有が、Citrixユーザー プロファイルで使用されるアカウントからアクセス可能であること。
- 共有が、プロファイル データを保存するのに十分な大きさであること。
- 共有が、ディスクまたはネットワーク障害の場合に堅牢であること。

この図は、リダイレクトされたフォルダー アイテムのストレージ、クロスプラットフォーム設定ストア (別のファイル サーバー上)、および Microsoft Office を実行している Windows 11 仮想デスクトップ (Citrix Virtual Desktops™ で公開) に関連するユーザー ストアの例を示しています。仮想デスクトップにアクセスするユーザー デバイスも参照用に示されています。



安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「ローミング ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザー プロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

展開に複数のプラットフォームが含まれている場合は、「複数のプラットフォームの計画」でバージョン 1 およびバージョン 2 のプロファイル タイプに関する情報を確認してください。ユーザー ストアの構造については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

注: アプリケーションがユーザー プロファイル内のファイルのアクセス制御リスト (ACL) を変更しても、Profile Managementはユーザー ストアでそれらの変更をレプリケートしません。この動作は、Windowsローミング プロファイルと一貫しています。

このビデオを見て詳細を確認する:

セキュリティ保護

このトピックでは、Profile Management を保護するための推奨されるベストプラクティスについて説明します。一般に、Citrix® ユーザープロファイルデータへの不要なアクセスを防ぐため、ユーザーストアが配置されているサーバーを保護してください。

安全なユーザーストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で確認できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作において高レベルのセキュリティを確保します。また、ユーザーストアへのアクセスを設定する際には、Citrix ユーザープロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

アクセス許可

Citrix は、ユーザーストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアに対して、以下の権限をテストし、推奨しています。

- 共有権限: ユーザーストアのルートフォルダーに対するフルコントロール
- Microsoft が現在推奨する以下の NTFS 権限:

グループまたはユーザー名	アクセス許可	適用先
作成者/所有者	フルコントロール	サブフォルダーとファイルのみ
Profile Management の制御下にあるアカウントのグループ	フォルダーの一覧表示 / データ読み取りおよびフォルダーの作成 / データ追加	このフォルダーのみ
ローカルシステム	フルコントロール	このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル

継承が無効になっていない場合、これらの権限により、アカウントはストアにアクセスできます。また、アカウントはユーザープロファイル用のサブフォルダーを作成し、必要な読み取りおよび書き込み操作を実行できます。

この最小限の権限に加えて、サブフォルダーとファイルのみをフルコントロールできる管理者グループを作成することで、管理を簡素化することもできます。そうすれば、プロファイルの削除（一般的なトラブルシューティングタスク）がそのグループのメンバーにとって容易になります。

テンプレートプロファイルを使用する場合、ユーザーにはそのプロファイルへの読み取りアクセス権が必要です。

アクセス制御リスト (ACL)

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合は、定義ファイルを格納するフォルダーにACLを次のように設定します。認証済みユーザーには読み取りアクセス権、管理者には読み取り/書き込みアクセス権。

Windowsローミングプロファイルは、ネットワーク上のプロファイルデータを含むフォルダーから管理者権限を自動的に削除します。Profile Managementは、ユーザーストア内のフォルダーからこれらの権限を自動的に削除しません。組織のセキュリティポリシーに応じて、手動で削除できます。

注：アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのACLを変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。これはWindowsローミングプロファイルの動作と一致しています。

プロファイルストリーミングとエンタープライズウイルス対策製品

Citrix Profile Managementのストリーム配信ユーザープロファイル機能は、高度なNTFS機能を使用して、ユーザープロファイルから欠落しているファイルの存在をシミュレートします。この点において、この機能は階層型ストレージマネージャー（HSM）として知られる製品群に似ています。HSMは通常、磁気テープや書き換え可能な光ストレージなどの低速大容量ストレージデバイスに、あまり使用されないファイルをアーカイブするために使用されます。そのようなファイルが必要な場合、HSMドライバーは最初のファイル要求を傍受し、要求を行っているプロセスを中断し、アーカイブストレージからファイルをフェッチします。そして、ファイル要求の続行を許可します。この類似性から、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーであるupmjit.sysは、実際にはHSMドライバーとして定義されています。

このような環境では、ウイルス対策製品がHSMドライバーを認識するように構成する必要があり、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーも例外ではありません。最も高度な脅威から防御するために、ウイルス対策製品はその機能の一部をデバイスドライバーレベルで実行する必要があります。そして、HSMドライバーと同様に、ファイル要求を傍受し、元のプロセスを中断し、ファイルをスキャンして再開するという方法で動作します。

ウイルス対策プログラムを誤って構成して、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーなどのHSMを中断させ、ユーザーストアからファイルをフェッチできないようにしたり、ログオンがハングアップしたりすることは比較的容易です。

幸いなことに、エンタープライズ向けウイルス対策製品は、HSMのような高度なストレージ製品の可能性を念頭に置いて作成されています。そして、HSMがその作業を完了するまでスキャンを遅延するように構成できます。家庭用ウイルス対策製品はこの点において洗練されていません。そ

のため、家庭用およびSoHo（小規模オフィス/ホームオフィス）ウイルス対策製品のストリーミングユーザープロファイルでの使用はサポートされていません。

ストリーミングユーザープロファイルで使用するためにウイルス対策製品を構成するには、次のいずれかの製品機能を探してください。機能名はあくまで目安です。

- **信頼されたプロセスリスト**。ウイルス対策製品にHSMを識別させ、HSMがファイル取得プロセスを完了できるようにします。ウイルス対策製品は、信頼されていないプロセスによってファイルが最初にアクセスされたときにファイルをスキャンします。
- **オープンまたはステータスチェック操作時にスキャンしない**。データがアクセスされたとき（たとえば、ファイルが実行または作成されたとき）にのみファイルをスキャンするようにウイルス対策製品を構成します。その他の種類のファイルアクセス（たとえば、ファイルが開かれたときやそのステータスがチェックされたとき）は、ウイルス対策製品によって無視されます。HSMは通常、ファイルオープンおよびファイルステータスチェック操作に応答してアクティブになるため、これらの操作でのウイルススキャンを無効にすると、潜在的な競合が解消されます。

Citrixは、主要なエンタープライズ向けウイルス対策製品のバージョンでストリーミングユーザープロファイルをテストし、Profile Managementとの互換性を確認しています。これらのバージョンには以下が含まれます。

- マカフィー ウイルス スキャン エンタープライズ 8.7
- シマンテック エンドポイント プロテクション 11.0
- トレンドマイクロ オフィススキャン 10

これらの製品の以前のバージョンはテストされていません。

他のベンダーのエンタープライズ向けウイルス対策製品を使用している場合は、それがHSM対応であることを確認してください。スキャンを実行する前にHSM操作が完了できるように構成できます。

一部のウイルス対策製品では、管理者が読み取り時スキャンまたは書き込み時スキャンを選択できます。この選択は、パフォーマンスとセキュリティのバランスを取るものです。ストリーミングユーザープロファイル機能は、この選択の影響を受けません。

ストリーミングおよびウイルス対策展開におけるProfile Managementのトラブルシューティング

ログオンがハングしたり、時間がかかったりするなどの問題が発生した場合、Profile Managementとエンタープライズ向けウイルス対策製品の間で構成ミスがある可能性があります。次の手順をこの順序で試してください。

1. Profile Managementの最新バージョンを使用していることを確認してください。問題はすでに発見され、修正されている可能性があります。
2. Profile Managementサービス (UserProfileManager.exe) を、エンタープライズ向けウイルス対策製品の信頼されたプロセスリストに追加します。
3. HSM操作（開く、作成、復元、ステータスチェックなど）でのウイルスチェックをオフにします。読み取りまたは書き込み操作でのみウイルスチェックを実行します。
4. その他の高度なウイルスチェック機能をオフにします。たとえば、アンチウイルス製品は、実際のファイルタイプを判別するために、ファイルの最初の数ブロックをクイックスキャンする場合があります。これらのチェックはファイルの内容を宣言されたファイルタイプと照合しますが、HSM操作を妨げる可能性があります。
5. 少なくともプロファイルがローカルドライブに保存されているフォルダーについては、Windows検索インデックスサービスをオフにします。このサービスは不要なHSM取得を引き起こし、ストリーミングされたユーザープロファイルとエンタープライズアンチウイルス製品との間の競合を引き起こすことが観察されています。

これらの手順のいずれも機能しない場合は、ストリーミングされたユーザープロファイルをオフにします（**プロファイルストリーミング**設定を無効にすることで）。それが機能する場合は、その機能を再度有効にし、エンタープライズアンチウイルス製品を無効にします。それも機能する場合は、機能しないケースのProfile Management診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください。彼らはエンタープライズアンチウイルス製品の正確なバージョンを知る必要があります。

Profile Managementの使用を継続するには、エンタープライズアンチウイルスを再度有効にし、ストリーミングされたユーザープロファイルをオフにすることを忘れないでください。この構成では、Profile Managementの他の機能は引き続き機能します。プロファイルのストリーミングのみが無効になります。

システム要件

ソフトウェア要件

Profile Managementを実行するシステムは、以下のいずれかのオペレーティングシステムに基づいている必要があります。

- **デスクトップ** - Microsoft Windows 11、Windows 10、Windows 8.1、およびWindows 7 Service Pack 1。

  Citrix virtual desktops™環境では、Windows Storeアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれる）がサポートされています。

- **サーバー** - Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012、および Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 の標準およびデータセンターエディション。

Enhanced Protected Mode (EPM) を使用する場合、Microsoft Internet Explorer 10以降のCookieはWindows 7以降ではサポートされません。EPMが有効になっている場合、Profile ManagementはCookieを処理または操作しません。

すべてのユーザーは、プロファイルが集中管理されるネットワークフォルダーであるユーザーストアにアクセスできる必要があります。または、必要に応じて、プロファイルをユーザーのホームドライブに保存することもできます。詳しくは、「Profile Managementアーキテクチャ」を参照してください。

Profile ManagementがCitrix Studioに統合されているXenDesktop 7を使用する場合を除き、構成にはActive Directory (AD) グループポリシーオブジェクト (GPO) が必要です。Windows Server 2008およびWindows Server 2012ネイティブモードのADフォレスト機能レベルおよびドメイン機能レベルがサポートされています。詳しくは、「Profile Managementでのドメインおよびフォレストのサポート」を参照してください。または、ローカルの.iniファイルを使用して構成設定を行うこともできますが、一般的に.iniファイルはテスト目的でのみ使用されます。.iniファイルの設定は、GPOで構成されていない設定、つまり「未構成」状態のままになっているグループポリシー設定に適用されます。

Profile Managementで使用しているCitrix製品またはコンポーネントで短いファイル名（8.3ファイル名とも呼ばれる）が必須である場合、Profile Managementの展開で短いファイル名のサポートを無効にしないでください。無効にすると、ファイルがユーザーストアとの間でコピーされる際に問題が発生する可能性があります。

Profile Management Serviceを実行しているコンピューターでは、ドライブ文字でマウントされた単一のディスクにプロファイルを保存してください。ディスクがユーザーのプロファイルを保存す

るために使用されるフォルダーにマウントされている場合（典型的な例は`C:\Users`）、サービスからマスクされ、処理されない可能性があります。

Citrix®製品の互換性

Profile Managementは、以下のCitrix製品で使用できます。

- シトリックス バーチャルデスクトップ
- シトリックス バーチャルアプリ™
- シトリックス バーチャルアプリおよびデスクトップ™
- Citrix DaaS™ (旧 Citrix バーチャルアプリおよびデスクトップ サービス)

Profile ManagementとCitrix Virtual Apps and Desktopsの互換性マトリックスについては、「Citrix Profile Managementの追加ライフサイクル情報」を参照してください。

このCurrent Release (CR)をLong Term Service (LTSR)環境で使用する方法やその他のFAQについては、Knowledge Centerの記事を参照してください。

ダウンロード

Profile Managementをダウンロードするには

1. Citrixダウンロードページに移動します。
2. マイアカウントにログオンします。お客様のアカウントは、展開したCitrix製品のライセンス資格に関連付けられている必要があります。アカウントがライセンス資格に関連付けられていない場合は、Citrixカスタマーサービスにお問い合わせください。
3. 「ダウンロードの検索」で、製品を選択し、ダウンロードの種類として「コンポーネント」を選択します。
4. Profile Managementの最新バージョンをダウンロードします。

診断機能

Citrix Diagnostic Facilityを使用してトレースログをキャプチャする前に、監視するプロファイルを持つデバイス、仮想デスクトップ、またはCitrixサーバーで使用されているCitrix製品またはコンポーネントでそれが利用可能であることを確認してください。

クロスプラットフォーム設定

このリリースでクロスプラットフォーム設定機能を使用するには、Profile Management Serviceを実行しているすべてのコンピューターにMicrosoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack

1以降をインストールします。このコンポーネントはMicrosoft .NET Framework 3.5の一部であり、定義ファイルを処理するために必要です。

この機能は、サポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションのセットでのみ使用してください。詳しくは、「クロスプラットフォーム設定でサポートされているオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。

既存のプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する

次のプロファイルタイプからCitrixユーザープロファイルへの移行がサポートされています。

- Windowsローミングプロファイル
- 次のいずれかのオペレーティングシステムに基づくローカルプロファイル：
  - ウィンドウズ 11
  - ウィンドウズ 10
  - ウィンドウズ 8
  - ウィンドウズ 7
  - ウィンドウズ Vista
  - ウィンドウズ XP
  - ウィンドウズ サーバー 2022
  - Windows サーバー 2019
  - Windows サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2012 R2
  - Windows サーバー 2012
  - Windows サーバー 2008 R2
  - ウィンドウズ サーバー 2008
  - ウィンドウズ サーバー 2003
- User Profile Manager 2.0 で作成された Citrix ユーザープロファイル

以下のプロファイルタイプからCitrixユーザープロファイルへの移行はサポートされていません:

- Microsoft 強制プロファイル。 ヒント: Profile Management のテンプレートプロファイル機能を使用して、Microsoft 強制プロファイルを Citrix 強制プロファイルとして構成できます。Citrix 強制プロファイルはすべてのログオンに使用され、ユーザーの変更が保存されない点を

除けば、通常の Citrix ユーザープロファイルとまったく同じように機能します。詳しくは、 テンプレートプロファイルまたは強制プロファイルを指定するを参照してください。

- Citrix 強制プロファイル。
- User Profile Manager のテクニカルプレビューリリースまたはベータリリースで作成された Citrix ユーザープロファイル。
- サードパーティプロファイル (sepagoPROFILE を含む)。

32ビットのCitrixユーザープロファイルから64ビットのプロファイルにアップグレードすることはできません。

トラブルシューティング

このセクションでは、Profile Management のトラブルシューティング方法について説明します。

一般的なトラブルシューティングのワークフローは次のとおりです。

1. Profile Management の設定を確認する。
2. Profile Management のログファイルを確認する。
3. Profile Management によってログに記録された Windows イベントを確認する。
4. 一般的な問題のトラブルシューティング。
5. 高度なトラブルシューティングの実行。
6. 上記の手順を試しても問題が解決しない場合は、できるだけ多くの診断情報を収集し、Citrix テクニカルサポートに問い合わせてください。

アップグレードと移行

このセクションでは、Profile Managementソフトウェアをアップグレードする手順と、既存のWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行するための情報について説明します。たとえば、これらの手順を使用して、バージョン3.xからバージョン5.xに簡単にアップグレードできます。

アップグレードする前に、アップグレード元およびアップグレード先のリリースで利用可能なProfile Managementの機能と設定を理解してください。この情報を確認するには、「Profile Managementポリシー」を参照してください。 .iniファイルからグループポリシーへのアップグレードを容易にするため、このトピックでは.iniファイルの設定を.admおよび.admxファイルの設定にマッピングしています。

アップグレード中は、Profile Managementを構成しないでください（グループポリシーまたは.iniファイルを使用）。まず展開をアップグレードし、次に必要に応じて設定を構成することで、これら2つのタスクを分離します。理想的には、「構成の決定」の質問に答えることで構成します。

ヒント：Profile Management 2.1.1以降の展開は、最新バージョンにアップグレードすることでホットフィックスできます。アップグレード後、必要に応じて新しい機能を有効にできます。

混在展開

異なるバージョンのProfile Managementが共存する展開では、次の操作を行います。

- 混在展開が存在する時間を最小限に抑えます。
- 最新バージョンの.admまたは.admxファイルを、すべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに追加します。すべての新機能が無効になっていることを確認し、新しいポリシーが伝播する時間を確保します。
- すべてのポリシーを有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンのProfile Managementにアップグレードします。

バージョン5.xと3.2を含む混在展開はサポートされています。ただし、このような展開は、以前のバージョンから新しいバージョンへの移行中に存在する一時的な状態として扱ってください。

重要：バージョン5.xとバージョン2.1.1またはそれ以前のバージョン（Citrix Technical Previewまたはベータリリースを含む）が混在する展開はサポートされていません。ただし、アップグレードできず、これらのバージョンが展開で共存する必要がある場合は、このトピックの残りの部分が役立つかもしれません。

Profile Management 2.1.1以前を含む混在展開

このトピックの残りの部分には、Profile Management 2.1.1以前とProfile Management 3.xまたは5.xの共存に関する情報が含まれています。あるバージョンから別のバージョンへの移行方法について説明します。このトピックでは、これらのバージョンの略語としてバージョン2とバージョン5を使用しています。

各バージョンを別々のOUに分離し、各バージョンを実行しているコンピューター用に別々のユーザーストアを維持します。または、単一のユーザーストアが両方のバージョンを実行しているコンピューターにサービスを提供する場合、すべてのコンピューターがバージョン5にアップグレードされるまで、すべてのバージョン5の設定が無効になっていることを確認してください。「混在」ユーザーストアでバージョン4の設定を有効にした後でも、ユーザーはバージョン2を実行しているコンピューターにログオンできます。しかし、一時的なWindowsユーザープロファイル（ネットワークのCitrix®ユーザープロファイルではない）を受け取り、そのプロファイルに対して行っ

た変更は保存されません。混在展開は一時的なものと見なし、アップグレードを完了するまでの時間を最小限に抑える必要があります。

別のOUとユーザー ストアを使用すると不便な場合があります。これらの制約を回避するには、次の2つの戦略のいずれかを使用できます。Processed groups設定を使用して、Profile Managementの適切なバージョンで各グループを構成します。戦略2は戦略1よりも手間がかかります。前者の場合、バージョン5の処理済みユーザーグループを更新し続けます。そして、2つのアプリケーションとデスクトップのセットを維持します（ただし、Citrix virtual apps™からアプリケーション定義をエクスポートすることで自動化できます）。利点は、移行に時間をかけることができることです。

注：以下の戦略の代替として、Windows Server 2008 Active Directoryでは、WMIフィルタリングを使用してGPOをOU内のコンピューターのサブセットに適用し、どのバージョンのProfile Managementがインストールされているかを判断できます。これにより、適用されるポリシーをバージョンに合わせて自動的に調整できます。

戦略1：一括移行

このシナリオでは、ある程度のダウンタイムが許容されることを前提としています。すべてのコンピューターが同時に移行されます。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの**無効**に依存しないでください。
3. すべてのコンピューターをバージョン2からバージョン5にアップグレードし始めます。これを通常のメンテナンスおよび更新スケジュールに組み込みます。1つの例外を除いて、バージョン5は、バージョン5の設定を有効にするまでバージョン2として機能します。例外は次のとおりです。これはまれですが、このアップグレード手順が長期間にわたって段階的に行われる場合に発生する可能性が高くなります。ユーザーが複数のサーバーからCitrixユーザープロファイルにアクセスすると、複数のバージョン4セッションが作成されます。たとえば、最初にワークステーションを使用してあるサーバー上の仮想デスクトップにアクセスし、次にラップトップを使用して別のサーバー上の公開アプリケーションにアクセスします。Profile Managementは、2番目のラップトップセッションに保留領域を使用する必要があります。この時点で、OU全体がバージョン5の展開として扱われます（ただし、バージョン5の機能は何も構成されていません）。そして、PmCompatibility.iniがこの変更を反映するように更新されます。
4. オプションで、バージョン5の処理済みユーザーグループを小規模なパイロットグループのメンバーのみを含むように設定します。ADグループポリシーの変更がネットワーク全体に伝播

するのを待ちます（たとえば、週末にかけて）。この変更が行われている間、他のユーザーのアクセスを妨げる必要はありません。パイロットグループのプロファイルをバックアップします。その後、パイロットグループにProfile Managementをテストさせます。

5. パイロットグループの結果に満足したら、他のユーザーのプロファイルをバックアップしていることを確認します。
6. 次のスケジュールされたメンテナンス期間を使用して、残りのユーザーをバージョン5の処理済みユーザーグループに追加します。ADグループポリシーの変更が伝播するのに十分な時間を確保し、残りのユーザーがログオンできるようにします。

戦略2：段階的移行

このシナリオでは、すべてのマシンまたはユーザーを一度に新しいバージョンに移行できないため、ユーザーのサブセットをバッチで移行することを選択することを前提としています。複数のデータセンターや地理的に分散したユーザーがいる展開に適しています。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの「無効」に依存しないでください。
3. 少数のコンピューター（最初のバッチ）をバージョン5にアップグレードします。または、新しいコンピューターにバージョン5をインストールします。デフォルトでは、バージョン5で処理されるユーザーグループには空のグループが含まれているため、どのユーザーもバージョン5ユーザーとして処理されません。フェーズ移行でコンピューターをアップグレードする場合にも適用される可能性がある、戦略1で説明されている例外に注意してください。
4. バージョン5コンピューターから新しいアプリケーション（Citrix Virtual Appsを使用）または仮想デスクトップ（Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™を使用）を公開します。これらのアプリケーションとデスクトップは、名前を除いて、以前にバージョン2コンピューターから公開されたものと同一です。これらの名前は、バージョン5ユーザーが使用するためのものであることを示します。
5. このバッチで選択されたユーザーは、アプリケーションまたはデスクトップにログオンします（たとえば、Web Interfaceを使用）。彼らは新しいアプリケーションを選択します。（ユーザー名またはグループメンバーシップに基づいて、Web Interfaceを使用してこの手順を強制します）。その結果、セッションはバージョン4コンピューターで実行されますが、バージョン2の設定で処理されます。
6. すべてのユーザープロファイルをバックアップしたことを確認してください。

7. ユーザーをバージョン2処理済みユーザーグループからバージョン4グループに移動します。ADグループポリシーの変更がバージョン5コンピューターに伝播するのを待ちます。次回ログオンするときに、ユーザーのセッションはバージョン5設定で処理されます。
8. 次のバッチのコンピューターをアップグレードし、前述のとおり次のバッチのユーザーを移行します。

ユーザープロファイルの移行

この記事では、Citrix®ユーザープロファイルをWindowsローミングプロファイルに変換する方法について説明します。また、Profile Managementで処理できるように、Personal vDisk（Citrix virtual desktops™の機能）からCitrixユーザープロファイルを削除する方法についても説明します。

移行戦略の詳細については、「アップグレードと移行」を参照してください。

ローミングプロファイルへの移行

Citrixユーザープロファイルは、いつでもWindowsローミングプロファイルに移行できます。プロファイルデータを、ローミングプロファイルが保存されているネットワークの場所に移動します。移行後、Profile Managementはユーザーログオンやアプリケーション設定の処理に関与しません。

1. すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. ソフトウェアによって管理されているすべてのコンピューターからProfile Management Serviceを削除します。
3. ユーザーストアで、`\UPM_Profile`の内容をローミングプロファイルの場所に移動します。クロスプラットフォーム設定ストアの内容を移動する必要はありません。
4. さらに、バージョン1プロファイルの場合のみ、`\UPM_Profile`のすべてのサブフォルダーから_upm_varサフィックスを削除します。 注：スクリプトを使用すると、この手順が簡素化される場合があります。

Personal vDiskからの移行

Citrix virtual desktopsでPersonal vDisk機能を使用している場合、デフォルトではユーザープロファイルは仮想デスクトップのC:ドライブではなく、Personal vDiskのP:ドライブに保存されます。代わりにCitrix Profile Management（Personal vDiskではない）でプロファイルを処理したい場合は、新しいカタログに使用されるマスターイメージのレジストリを変更することで、Virtual Delivery Agentのインストール時にこのデフォルトを調整します。このシナリオでは、カタログが

新規であるため、ユーザーはログオンしておらず、P:ドライブにプロファイルは保存されていません。

重要：代替シナリオは、Personal vDiskを持つ既存のカタログ内のマシンでProfile Managementを有効にした場合に発生します。カタログはすでに使用されているため、ログオンが行われ、プロファイルがP:ドライブに存在します。レジストリを変更した後もプロファイルはそこに残ります。したがって、デフォルトは異なる方法で調整します。

Profile Managementが有効になっている間にP:ドライブにプロファイルが存在することを示す問題には、ユーザーが壁紙をリセットする必要がある、アプリケーションを再構成する必要がある、または一時プロファイルを受け取るなどがあります。

この代替シナリオでデフォルトを調整するには、次の手順に従ってください。

1. プロファイルを移行する仮想マシンのメンテナンスダウンタイムをスケジュールします。
2. スタートアップスクリプトを作成します（または既存のスクリプトを編集します）。Microsoft製のWindows XP用プロファイル削除ツールであるDelprof.exe、またはSepago製のそれ以降のオペレーティングシステム用の同様のツールであるDelprof2.exeを実行するコマンドを含めます。実行コマンドの後にシャットダウンコマンドを続けます。

   ```
   `\<share` name>\delprof.exe /q /i

   shutdown /s /t 0
   ```

   DelprofはMicrosoftのWebサイトからダウンロードできます。このツールに関する情報については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5405>`を参照してください。
3. マスターイメージで、次のレジストリ設定を1から0に変更します。

   注意： レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決できることを保証できません。レジストリエディターはご自身の責任において使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

   `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\personal vDisk\Config\EnableUserProfileRedirection`
4. マスターイメージのインベントリを更新します。

5. スケジュールされたダウンタイム中に、マスターイメージを仮想マシンに配布します。それらが再起動することを確認します。その時点で、スクリプトが実行され、P:ドライブからプロファイルを削除し、マシンをシャットダウンします。
6. すべてのマシンがシャットダウンされたら、スタートアップスクリプト（または既存のスクリプトに追加した行）を削除します。
7. すべてのマシンを起動するか、ユーザーがログオンできるようにします。この時点から、プロファイルは仮想デスクトップのC:ドライブに保存されます。

注： プロファイルを逆方向に移行して、Personal vDisk（Profile Managementではない）で管理されるようにするには、次の手順に従います。ただし、EnableUserProfileRedirectionのレジストリ設定を0から1に変更します。この変更により、プロファイルがPersonal vDiskのP:ドライブにロードされます。

新機能

2206の新機能

このリリースには、以下の新機能と機能強化が含まれています。また、全体的なパフォーマンスと安定性の向上に役立ついくつかの問題も解決されています。

同時セッションシナリオにおけるプロファイルストリーミングの機能強化

新しいポリシーである**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**が、プロファイルストリーミング機能の機能強化として利用可能になりました。この機能強化により、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。詳細については、ユーザープロファイルのストリーミングを参照してください。

Outlook検索データローミングの同時セッションサポート

新しいポリシーである**Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする**が、**Outlookの検索インデックスローミング**ポリシーの機能強化として利用可能になりました。これら2つのポリシーを有効にすることで、Citrix Profile Managementは同時セッションでネイティブなOutlook検索エクスペリエンスを提供できます。詳細については、ネイティブなOutlook検索エクスペリエンスを有効にするを参照してください。

ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに対して同期処理モードと非同期処理モードの両方を提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。

新しいポリシーである**ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする**により、レジストリ値がユーザーとともにローミングできるようになりました。その結果、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。詳細については、ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にするを参照してください。

OneDriveフォルダーのローミングのサポート（プレビュー）

新しいポリシーである**OneDriveコンテナを有効にする**により、OneDriveフォルダーがユーザーとともにローミングできるようになりました。ユーザーのOneDriveフォルダーはVHDXファイル（OneDriveコンテナと呼ばれる）に保存されます。VHDXファイルはユーザーログオン時にアタッチされ、ユーザーログオフ時にデタッチされます。詳細については、OneDriveコンテナを有効にするを参照してください。

このリリースから、プロファイル全体のプロファイルコンテナは、デフォルトでOneDriveフォルダーのローミングをサポートするようになりました。

> **注:**
>
> Profile Management 2209以降、このポリシーは一般提供されます。

Profile Managementのドキュメント履歴

次の表に、Profile Management 2206のドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらの更新に関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
28 Jun 2022	Profile Management 2206の初期リリース	Profile Management 2206の初期リリース。詳しくは、「新機能」を参照してください。